

1242-23

天野文雄著

周遊雜記  
上

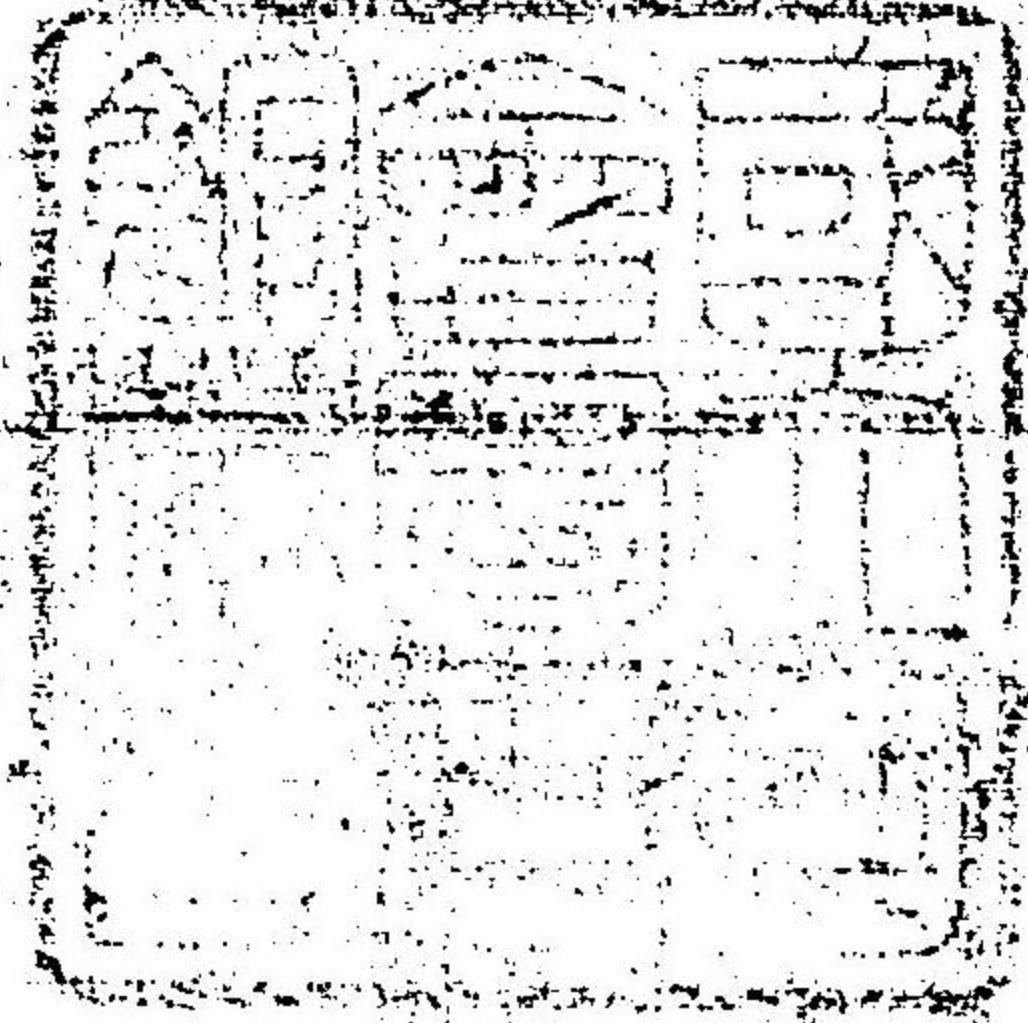
東京報知社發行

昭和

302.3Y555A

周遊雜記自序

余カ是書ニ記載セント欲スル所ノ事柄ハ凡ソ  
 十三箇條ニシテ第一西洋男女風俗ノ事、第二兵  
 備及ヒ兵器等ノ事、第三外交政略及ヒ列國形勢  
 ノ事、第四商賣及ヒ製造等ノ事、第五西洋諸國政  
 治ノ事、第六東西文明ノ性質異同遲速ノ事、第七  
 諸國財政ノ事、第八道德宗教ノ事、第九技藝美術  
 ノ事、第十文學教育ノ事、第十一諸國遊觀等ノ事、  
 第十二諸國風俗人物等ノ事、第十三列國後來ノ

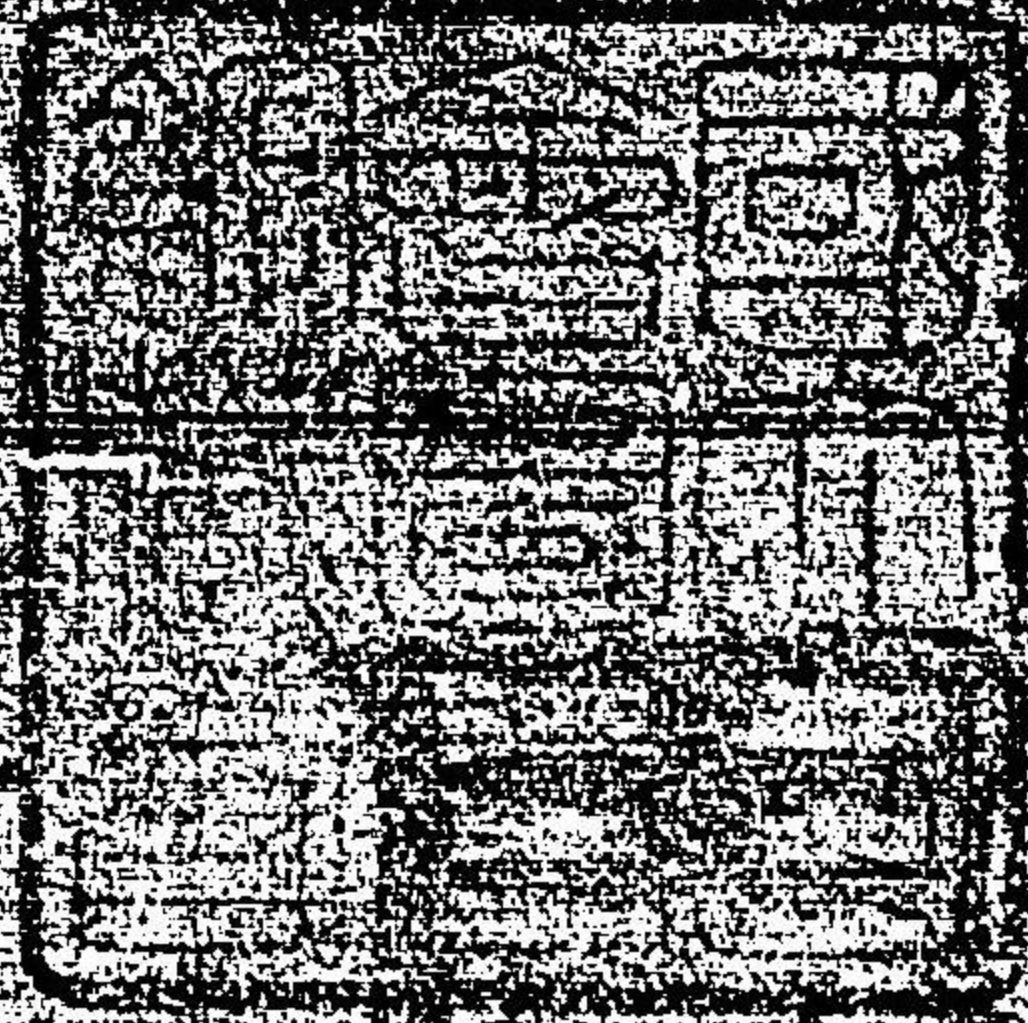


337468

302.3Y555A

周遊雜記自序

余カ是書ニ記載セント欲スル所ノ事柄ハ凡ソ  
十三箇條ニシテ第一西洋男女風俗ノ事、第二兵  
備及ヒ兵器等ノ事、第三外交政略及ヒ列國形勢  
ノ事、第四商賣及ヒ製造等ノ事、第五西洋諸國政  
治ノ事、第六東西文明ノ性質異同遲速ノ事、第七  
諸國財政ノ事、第八道德宗教ノ事、第九技藝美術  
ノ事、第十文學教育ノ事、第十一諸國遊觀等ノ事、  
第十二諸國風俗人物等ノ事、第十三列國後來ノ



337468

大勢ノ事則チ是ナリ是十三個條ハ余カ歸朝ノ  
途ニ上ル迄ニハ悉ク之ヲ草シ畢ハルノ心組ナ  
リシニ第六條東西文明ノ性質ノ一章ニ筆シ到  
ル比ニハ既ニ歐洲大陸ニ再遊スヘキノ時期ト  
ナリ未タ其一章ノ本旨ニ論入スルニモ至ラス  
シテ半ハニシテ筆ヲ閣カサルヲ得サルトハ  
ナレリ是レ余ノ誠ニ遺憾トスル所ナリ歸朝ノ  
上ハ必ス是稿ヲ繼テ之ヲ報知新聞紙上ニ掲載  
スルカ或ハ別ニ一冊トナシ是書ノ續編トスル

カ到底當初腹稿ノ十三個條ハ早晚悉ク皆ナ之  
ヲ世ニ公ニセント欲スルナリ  
昔シ波斯ノ王盲人數名ヲ召シテ宮中ニ飼置ケ  
ル大象ノ傍ニ到ラシメ象ノ形ノ如何ナルヤヲ  
説明セシメタルニ其足ニ探リ觸ル、盲者ハ大  
ナル桶ノ如シト言ヒ其腹ニ探リ觸レタル者ハ  
平タクシテ大ナリト云ヒ其鼻ニ探リ觸レタル  
者ハ細長キ獸ナリト云ヒタリトソ是レ夫ノ世  
事ヲ論スル者カ唯ニ事物ノ一部ニノミ注意シ

テ諸部相互ニ關係スルノ真宗ヲ忘ル、者ト相  
 似タリト云フ可シ手足支体互ニ相聯リ相輔ケ  
 テコソ始メテ完全スル者ナレ若シ之ヲ分割シ  
 テ其連接ヲ絶タハ大象ノ手足支体固トニ大ナ  
 リト雖モ自ラ生存スル一能ハサラン廣ク世事  
 ヲ察スレハ政治ト云ヒ法律ト云ヒ商賣ト云ヒ  
 製造ト云ヒ兵備、道德、學藝、禮儀ノ諸事ハ社會ヲ  
 維持スルニ於テ互ニ相輔ケ相聯ル一猶ホ手足  
 支体ノ大象ニ於ケルカ如シ其一部ヲ缺クモ尚

ホ怒チ他ノ諸部ニ不都合ヲ感セシムルヲ免カ  
 レス然ルニ世事ヲ論スルニ當リ動モスレハ自  
 ラ其眼光ヲ畫シテ唯タ一事一部ニ限り自餘諸  
 部ト相關係スル所以ノ真相ヲ忘ル、者アルカ  
 如キハ余ノ常ニ憾トスル所ナリ故ニ余ハ自ラ  
 歐洲ノ事物ヲ觀察シ記載スルニ於テ竊ニ彼ノ  
 盲者ニ類スル一勿カラシム一ヲ勉メタリキ  
 矯ルニ過レハ枉ルニ終ルト云フ古語アリ中道  
 ヨリ右ニ曲レル者ヲ直カラシメントテ之ヲ左

ニ矯ルト甚シケレハ復タ中道ヲ外レテ左ニ曲  
ルヘシ然レハ其右ニ曲ルト左ニ曲ルトノ相違  
コソアレ其中道ニ外レ居ルハ依然トシテ前ト  
異ナルナキナリ世ノ論者ノ好テ矯激ノ語ヲ用  
フル者ハ其弊幾ント之ニ似タル者アリ本ト其  
心一時ノ弊ヲ救ハント欲スルニ急ナルヨリ自  
ラ茲ニ至ル者トハ云ヒ乍ラ亦タ大抵ハ其前後  
ヲ慮ルノ深カラサルニ坐スルノ過チナルノミ  
或ハ道德ヲ揚テ商工ヲ抑へ或ハ商工ヲ尊テ政

治ヲ卑ムカ如キ皆ナ是類ナリ若シ世人ニシテ  
萬一是等矯激ノ語ヲ信シ真トニ論者ノ論スル  
所ノ如キ行ヲ爲サハ論者ハ又タ必ス其中道ニ  
アラサルヲ憂テ之ヲ他ノ一方ニ挽回セント勉  
ムルナナルヘシ唯タ幸ニシテ世人モ亦タ其道  
理心ヲ具シテ是等實ニ過キタル矯激ノ論ヲハ  
自ラ其心中ニ判識シ斟酌裁節シテ之ヲ行フニ  
頼リ是等ノ論カ世ヲ害スルノ罪ヲ免レ得ルナ  
ナリ然レハ實ニ世弊ヲ救ハント欲スル者ハ繼



比自ラ其言ノ奇モナク妙モナキヲ知ルモ尚ホ  
 矯激ノ語ヲ避ケテ常ニ中道ニ循行シ矯ルニ過  
 キテ枉ルニ終ルノ通病ニ陷ラサラントテ勉ム  
 ヘキトナリ余ハ是書ヲ草スルニ當テ出来得ラ  
 ル、丈ケハ矯激ノ語ヲ避ケテ中道ニ外ツル、  
 トテ戒慎シタル心得ナリ  
 凡テ人情ハ負惜ミ強キ者ニテ明カニ我國ニ欠  
 處アルヲ知ルモ尚ホ理窟ヲ求メテ之ヲ掩ハン  
 ト欲シ之ヲ公言スルニ甚タ憚ル者ナリ余カ是

書ヲ草スルニ當テモ亦タ是情ノ爲メニ制セラ  
 レントシタルト多シ然レ比自ラ以爲ラク世ノ  
 論者カ動モスレハ是情ノ爲メニ制セラレテ其  
 國ノ欠處ヲ公言スルトテ憚ルカ故ニ國人ハ終  
 ニ自ラ已レノ欠處ヲ省ミルニ由ナク爲メニ自  
 ラ安シテ以テ憤發ノ念ヲ薄カラシムル者少ナ  
 カラス是ノ如キハ余カ是書ヲ草スル所以ノ本  
 意ニアラサルナリ然レハ余ハ何事モ只無遠慮  
 ニ我國ノ欠處ヲ明書シ以テ國人ヲシテ自ラ其

不足ナル所ト其憤發スヘキ所トヲ知ラシムル  
 ヨリ善キハナキナリト故ニ是心得ヲ以テ何事  
 モ只實際アリノ儘ニ之ヲ記載シタルトナリ  
 英國滯留中余ハ不幸ニシテ時々輕病ニ罹リ自  
 ラ執筆スルヲ難シタリシニ幸ニ家弟武雄氏ト  
 同ク此ニ在ルアリ又森田思軒氏ノ近ク來著ス  
 ルアリシカハ乃チ武雄氏ニ請フテ余ノ口述ス  
 ル所ヲ筆記シ毎日二時間ヲ以テ右筆記ノ時間  
 トナシ一月下旬ヨリ四月上旬ニ至ルマテ八十

餘日ヲ積ミテ始テ是稿ヲ成スヲ得タリ然ル後  
 思軒氏ニ請フテ其字句ヲ修正添削シ四月中旬  
 余カ大陸ニ發スルニ先チテ之ヲ日本ニ郵送ス  
 ルヲ得ルニ至レリ二氏ノ力ナカリセハ其ノ腕  
 稿決シテ是ノ如キノ速ナルヲ得サリシナルヘ  
 シ今マ茲ニ其顛末ヲ叙シテ以テ深ク二氏ノ勞  
 ヲ謝ス

明治十九年四月中旬英京龍動ノ寓舎ニ誌ス

龍溪生

目錄畢

正誤

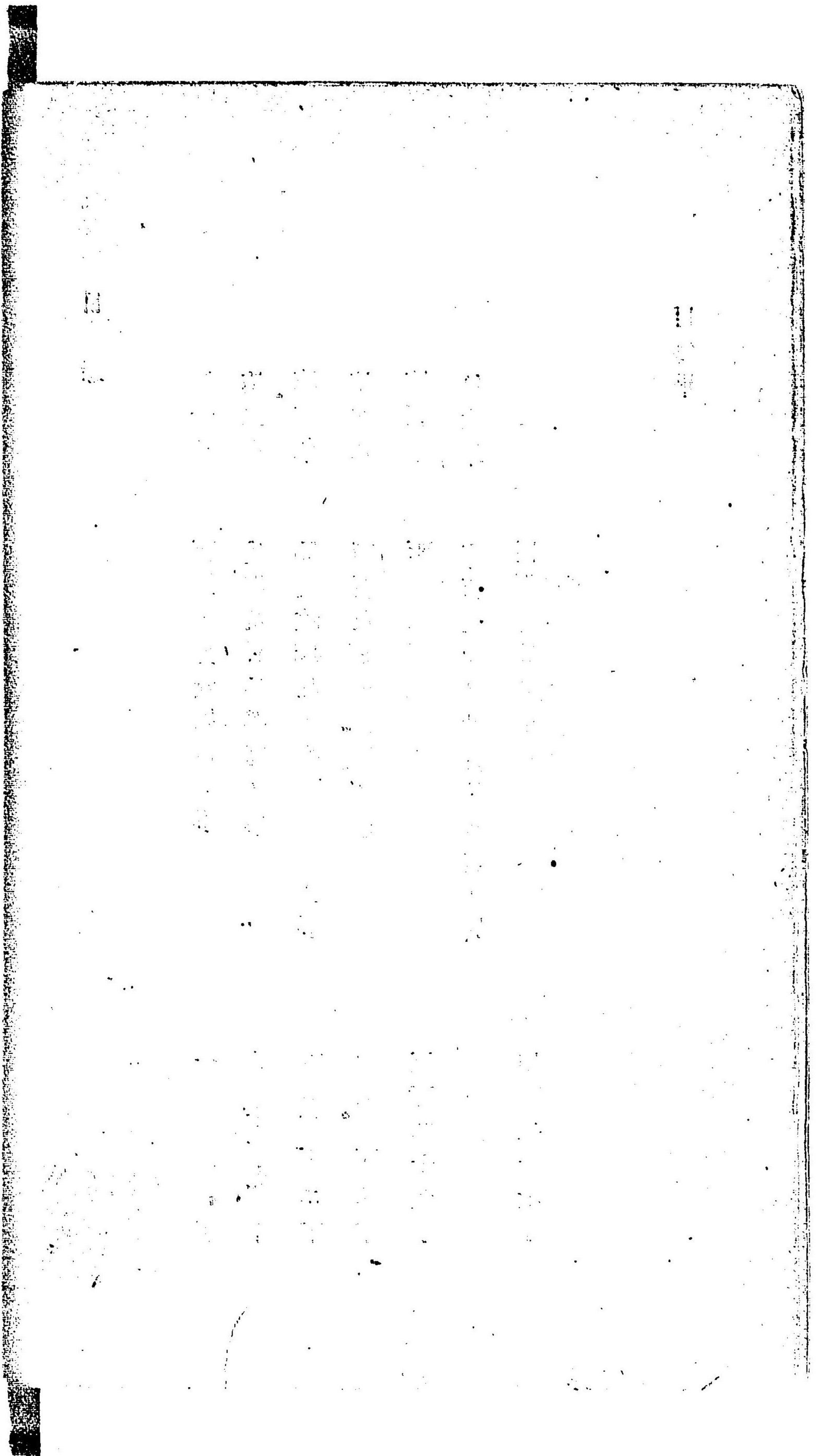
從來ノ例ニテハ丁抹ノ海峡及ヒ土目格ノダゲ子ル海峡等ノ如キハ中立ヲ布告ス  
 レキハ相戦ヒ居ル國々ノ船艦ハ一切其ノ通行ヲ禁スルコトニテ蘇軾運河ノ如キモ現  
 ニ西三年前英カ埃及ト戦ヒシキニモ英カ運河ノ近處ニ兵隊ヲ上陸セシメシトテ運  
 河會社ヨリ非常ニ喧シク之ヲ非難セシコトモアリシ程ナリ然ルニ昨年同會ノ會議ノ  
 有様ニテハ同處ノ中立ハ少シク通例ノ中立ト其ノ体ヲ異ニシ交戰國ヲシテ運河内  
 ニ戰ハシメサルヲ以テ中立ノ限リト爲シ戰艦ノ通行ヲハ之ヲ勝手ニセシメテ可ナ  
 リトノ主意トナレリ右運河ハ軍艦ニアレ商船ニアレ多ク船ヲ通行セシムル程會社  
 ニ利益アル謀ナレハ斯ル一種ノ變例ヲ定メタル由ナリ然レハ是ノ議決ニ因レハ運  
 河中立ノコトニ關スル本文ノ說ハ少シク其ノ趣ヲ異ニセサルヲ得サルナリ依テ之ヲ  
 正誤シテ以テ讀者ニ告ク、

丁 丁 丁 丁 丁

目錄

第一章	西洋ノ男女風俗ノ事	一
第二章	兵備及ヒ兵器等ノ事	六十九丁
第三章	外交政畧及ヒ列國形勢ノ事	百五十五丁
第四章	商賣及ヒ製造等ノ事	二百十九丁
第五章	西洋諸國政治ノ事	三百四十九丁
第六章	東西文明ノ性質及ヒ其ノ異 同遲速等ノ事	四百二十七丁

目錄畢



矢野文雄 著



第一章 西洋ノ男女風俗ノ事

始テ西洋ニ遊ヒシ日本人ノ目ニハ珍ラシク見ユル事柄甚タ多キ中ニ  
モ殊ニ英國ニテ男子カ女子ヲ取り扱フ有様及ヒ女子カ男子ニ對スル  
有様ハ日本人カ一見シテ直チニ日本ノ風俗ト大ニ異ナルヲ覺ユルノ  
一事ナリ今龍動ノ相應ニ賑フ街上ニ立テ往來スル人物ヲ眺ムレハ其  
ノ縱横ニ行キ違フ馬車ノ内ニ在ル男子ハ大抵女子ト同伴シ居ラサル  
者ナシ又街上ヲ歩行スル者ヲ見ルモ男女相ヒ伴ヒ打連<sup>ウチツレ</sup>テ往返スル者  
多シ又公園杯ニ到リ見レハ彼處此處ニ三々五々遊歩シ居ル者多キ  
ナルカ其ノ中ニハ相伴フタル男女甚タ多キヲ見ル可シ斯ノ如ク老人

ハ老人同士、若キ者ハ若キ者同士、男女相ヒ伴テ打連レ行ク有様ハ是レ  
 大ニ日本ト異ナル者ニアラスヤ今、試ニ東京ノ賑ハシキ街上ニ立チ或  
 ハ公園杯ニ赴テ其ノ邊ヲ徘徊スル人物ノ有様ヲ見ヨ往來人ノ過半ハ  
 男子ノミコテ女子ハ僅ニ其ノ十分ノ一ニモ上ラサル可シ而テ其ノ十  
 分ノ一ナル女子スラ多クハ下女小使ノ類ニテ然ル可キ身元ノ婦人ハ  
 甚タ稀ナル可シ況ヤ男女共ニ相ヒ伴テ兩々双々往來スル者ニ至テハ  
 幾ント見ルヲ稀ナル所ナリ斯ル有様ニ慣レタル目ヲ以テ前記セル英  
 國ノ風俗ヲ見ルキハ先ツ兩國ノ風俗ノ大ニ異ナルヲ見出タサ、ルヲ  
 得サル可シ又英國ニテ女子ト男子ト相ヒ伴フ時ノ舉動ニ注意スルニ  
 女子カ馬車ニ上ラントスルキハ同伴ノ男子先ツ之レカ爲メニ戸ヲ開  
 キ婦人ヲ乗セタル後ニテ己レ自ラ乗ルヲナリ又馬車ヨリ下ルニモ男  
 子戸ヲ開テ己レ先ツ車ヨリ下リ車外ヨリ女子ノ手ヲ把リ之ヲ助ケテ

車ヲ下ラシムルヲナリ又歩行スルキモ女子ニ少ク携ヘ難キ品物ハ  
 同行ノ男子カ女子ノ爲メニ之ヲ携フルヲナリ又其ノ他何事ニテモ女  
 子ニ不便ナルヲ起ルキハ男子ハ奔走シテ之ニ當リ女子ヲ助クルヲ  
 ナリ又女子カ其ノ外套ヲ脱シ或ハ之ヲ着ルニモ同伴ノ男子ハ常ニ女  
 子ヲ助ケテ之ヲ着セ之ヲ脱セシムルヲナリ又我家ニ客ヲ招テ宴會ヲ  
 開クニモ專ラ來客ニ接シ諸事ヲ指圖スルハ其家ノ婦人ニテ亭主ハ僅  
 ニ女房ノ手傳ヲ爲スカ如キ有様ナリ之ヲ譬ヘハ女房ハ大將軍ニテ亭  
 主ハ其ノ副將軍タル姿ナリ又宴會ノ席ニ於テハ何事ニモ女客ヲ先ニ  
 シ男客ハ周旋人タル姿ナリ宴會杯ニテ一男子カ一婦人ヲ導クノ役目  
 ナ主人ヨリ割付ケラル、上ハ男子ハ其ノ受持チノ婦人ヲ導テ席ニ即  
 カシメ椅子ヲ宛行フヲ始メ己ノ席モ其婦人ト并ヒ其傍ニ在ルヲ例ト  
 ス(飲食ノ間モ常ニ其ノ婦人ニ種々ノ助ケヲ與フルノミナラス退屈セ

シメサル様ニ談話杯ヲモ爲サチハナラヌトナリ又公會或ハ途中杯ニ  
 テ懇意ナル夫婦ノ人物ニ出逢フキハ先ツ婦人ノ方ニ向テ先キニ挨拶  
 ナ爲シ亭主ノ方ヲ後ニスルトナリ又英國ノ芝居ヲ見物スルニ舞臺ニ  
 テ役者カ男女ノ間柄ノ問答ヲ爲スニ男子ハ本ト女子ノ爲メニ労働セ  
 ントテ此世ニ生レ來タリシ者ナリトカ或ハ男子ハ其ノ愛スル女子ニ  
 快樂ヲ與フルヲ以テ己ノ本務ト爲シ之カ爲メニハ死生ヲ顧ミサルヲ  
 當然ノトト爲スナリ杯ノ辭アリ勿論芝居杯ト云ヘル者ハ其ノ場合ニ  
 因テハ實ニ過キタル辭ヲ用ユルトアリトハ云ヒ乍ラ斯ル辭ヲ用ユル  
 ナ見物人ハ怪ミ咎ムル様子モ無ク左モ通常當然ノ言語ノ如ク思ヒ居  
 レリ凡ソ芝居杯ハ見物人ノ意ニ適フチ主トスル者ナレハ社會ノ風俗  
 ニ反對シ人情ニ悖ル辭ヲ用ヒ難キ者ナリ然レハ今英國ノ芝居ニ斯  
 ノ如キ辭ヲ用ユルハ則チ其ノ風俗ノ然ラシムル所ナルヲ知ル可シ今

此芝居ノ一事ヲ試ミニ日本ト比較シ見ルヘシ日本ノ芝居ノ問答ナラ  
 ハ通例ハ婦人ニ心ヲ奪ハレテ此上モ無キ男子ノ恥辱トカ又ハ婦人ニ  
 心ヲ引カサレテハ男子ノ一分立チ難シトカ云フニアラスヤ然ルニ英  
 國ノ芝居ニテハ何ノ憚リモ無ク平氣ニテ前記セル如キ辭ヲ用ユルト  
 ナリ又日本トテモ男子カ婦人ト同伴スル時ハ男子ハ自ラ諸事ヲ働  
 キテ女子ニ便利ヲ與フルトナレトスル場合ニモ日本ノ女子ハ常ニ遠  
 慮勝ニテ己レ自ラ能クスルトナラハ先ツ男子ニ厄介ヲ掛ケサル様ニ  
 心掛ケ自ラ働クトナリ然ルニ英國ノ婦人ハ男子ノ己レヲ助クルヲ見  
 ルモ平氣ニテ當然ノトノ如ク思ヒ居ル様子ナリ又甚シキニ至テハ己  
 ナ助ケタル男子ニ一言ノ謝辭ヲモ述ヘサル者有リ然レハ日本ニテ男  
 女同伴スルニ當リ男子カ女子ヲ助クルハ天然ヨリ生シタル所業ナカ  
 ラ未ダ定マレル世上ノ行儀ト爲ルニ至ラサル者ト云フヘク英國ノ方



ハ已ニ久ク定マリタル行儀ト爲リ居ル者ト云フ可キナリ又右ニ述ヘタル外ニ英國ニテハ何事ニアレ女子ヲ尊敬スル行儀ノ行キ渡ラサル所無ク宴會ニ於テ先ツ皇帝皇族ノ建康ヲ祝シ祝杯ヲ舉クルノ次ニハ國中婦人全体ノ建康ヲ祝スルノ杯ヲ舉クル者少カラス又文學、美術、遊戯等ノ競争ヲ爲サシメ勝者ヲ賞スルノ式ヲ行フニ當テモ賞品ヲ頒ツニハ最モ高貴ナル婦人ヲ手カラ之ヲ授ケシムルコトナリ又婦人ノ列スル席ニテハ私會ニテモ公會ニテモ極懇意ナル知人ノ二三人打テ寄リシ集會ニテモ婦人ヲ侮リ輕スル口氣アル言語ハ曾テ之ヲ口頭ニ發スル者無シ蓋シ之ヲ發シ得サル程ニ婦人ノ勢力強シト知ルヘシ婦人ノ勢力強シトテ何モ婦人カ其人ヲ痛ク咎ムルニハアラテモ其ノ坐ニ列スル他ノ人々ヨリ不作法者、不行儀者、田舎者ト暗ニ見下ケラル、ノ罰アルニ因レハナリ(又氣ノ強キ婦人ハ其人ヲ面折セサルモ其人ノ去

リシ後ヲニ列席ノ人々ニ對シテ彼ノ不敬ヲ非難スルモ隨分有リ兼マコナレハ列席ノ人ハ之ニ懲テ他人ヲ鑒ミ己レヲ慎ムコトナリ)斯ル有様ヲ考ヘテハ英國男女ノ風俗ハ大ニ日本ト異ナルコト知リ得可シ故ニ日本杯ヨリ西洋ニ遊ブ人ノ身ニ取テハ婦人ノ列席スル會ホト迷惑ナル者ハアラサルナリ何トナレハ如何ニ注意スレハトテ英國ノ風俗ニ違ヒ婦人ニ失禮ヲ爲スヤノ恐レ有レハナリ自ラ求メテ之ヲ爲スニハアテテモ知ラスコト失禮ト爲ルコトアレハナリ途中ニテ夫婦連レノ知人ニ違ヒ挨拶ヲ爲スニ臨ミ男子ヲ後ニシ妻君ヲ先ニスルコト最初ハ可笑シク思ヒタルカ如キモ亦タ其ノ一ナリ何ニハ兎モアレ表面行儀ノ世界ニテハ英國ノ男子ハ實ニ女子ノ爲メニ使役セラレントテ生レ來タリシカ如ク男子ハ奴僕ノ業ヲ取リ女子ハ主人ノ地位ニ在ルニ似タリ(勿論家ニ在ルキハ主人ノ權威強クシテ細君ヲ使役スル者モ他

出シテ他人ノ前ニ在ルキハ忽チ變シテ其ノ細君ニ使役セラル、ノ外  
 觀ヲ粧フ者モ往々之レ有ルコトナリ然レモ好シ人前丈ニテモ斯ル外觀  
 ナ粧ハシムルニ至リシハ則チ一般ノ風俗ノ然ラシムル所ト知ル可シ  
 佛曼伊等ノ國々モ英國ト大同小異ニテ日本杯ニ比較スレハ甚シキ相  
 違アル者ナリ然レモ大陸ノ右ノ諸國ト英國トチ比較スレハ其ノ間ニ  
 多少ノ差違アリテ英國チ十分トスレハ前記ノ諸國ハ僅ニ六七分ノミ  
 行ハレ居ル者ト云テ可ナリ即チ是風俗ハ歐洲諸國ノ中ニテ英國ニ最  
 モ盛ナルコトナリ

西洋ノ男女ノ關係ノ斯ク迄東洋ニ異ナルハ西洋諸國(就中英國ノ富强  
 ト文明トノ一由チナシ居ラサル歟其文明ト富强トハ之カタメ幾分ノ  
 差響キヲ被リテハ居ラサル歟トノコトハ余カ來着ノ初メヨリ之ヲ見出  
 サント勉メタルノ一事ナリキ勿論西洋今日ノ文明ハ其ノ原因一ニア

ラスシテ種々ノ原因カ相集リテ遂ニ今日ノ如キ盛ナル結果ヲ致タシ  
 タル者ナレハ若シ遠源ニ遡レハ則チ一源ニ歸ス可キモ其ノ遠キ一源  
 ヨリ分レタル近源ハ數派アリテ今日ノ文明ノ大流ヲ大成セシ者ナリ  
 右ニ記載セル西洋男女ノ關係ハ幾派ノ近源ノ一ニ居ル可キヤ否ヤハ  
 則チ余ガ之ヲ發見セント勉メタルノ一事ニ居リシ者ナリ  
 是ノ風俗カ英國ノ社會ニ與ヘタル差響ヲ説明スルニハ先ツ同國男女  
 婚姻ノ有様ヲ一通リ記載スルコト必要ナリ今マ英國ノ社會ニテ通常中  
 等ノ地位ヲ占ムル紳士ニテ縁付シ可キ年頃ノ女子ヲ持チ居ル者アリ  
 ト假定ス可シ東西共ニ人情ハ少シモ異ナラサル者ニテ女子ヲ持ツ父  
 母ハ西洋ニテモ甚ク苦勞スルコトナリ故ニ英國ニテハ汝ニ女子アラ  
 ハ嫁シ得ルノ時ニ於テ直ニ之ヲ嫁セシメヨ汝ニ男子アラハ汝ノ思フ  
 時ニ之ヲ婚セシメヨト云ヘル諺アリ其ノ意味ハ年頃ノ女子ハ嫁シ得

可キ機會アラハ尙ホ善キ機會ナト待ラスシテ直ニ之ヲ嫁セシメヨ又  
 男子ナラハ急クニハ及ハス父母ノ婚セシメント欲スルキニ何時ニ婚  
 禮セシメテモ差支ヘ無シトノ意味ナリ左レハ年頃ノ女子ヲ持ツ父母  
 ハ首尾ヨク之ヲ嫁セシムルニ至ル迄ハ中々苦勞スルコナリ今其ノ手  
 續キテ云ハ、父母タル者ハ先ツ食事或ハ舞踏或ハ茶會或ハ夜會杯ヲ  
 催シテ折々其ノ朋友知人ヲ招キ己ノ婿ト爲ルモ其ノ人物財産ニ於テ  
 耻カシカラスト考ル年若キ紳士等ヲ其ノ中ニ交ヘテ請待スルコナリ  
 又一方ニ於テハ妻ヲ迎フ可キ年頃ノ紳士アリテ是等ノ會ニ來リ右ノ  
 女子ヲ愛シテ之ヲ娶トラント思フ者アリト假定ム可シ然ルキニハ男  
 子ハ先ツ己レ深ク其ノ女子ヲ愛スル旨ヲ女子ノ父母ニ通シ親交ノ往  
 來ヲ許可セラレンコトヲ求ムルコナリ若シ女子ノ父母カ右ノ紳士ヲ好  
 マシカラスト考ル所ハ事ニ托シテ程好ク之ヲ謝スルコナリ若シ又幸

ニシテ父母カ之ヲ似合シキ縁ナリト考ル所ハ男子ノ請求ヲ許可スル  
 コトナリ然ルキハ是レヨリ男子ハ時々女子ノ家ニ往來シ女子ノ性質ヨ  
 リ其ノ舉動万事ヲ注視シ女子モ亦タ男子ノ有様ニ注視ス是ノ時ニ於  
 テ男子ハ芝居見物其ノ他遊觀ノ場所杯ニ女子ヲ同伴シ其ノ歡心ヲ得  
 シコトヲ求ム(父母若シ男子ノ人ト爲リテ信用セハ女子ヲシテ男子ト共  
 ニ双々相携ヘテ外出セシムルモアリ又不安心ナリト思ヘハ其母親常  
 ニ之ニ附添ヒ行クコトモアリ)斯ル都合ニナレハ男子ハ已ニ女子ヲ愛ス  
 ルモノナリ女子ノ父母ハ已ニ暗ニ婚嫁ヲ許スモノナレハ事ノ成否今  
 ハ唯タ女子ノ心次第ニ在ルモノナリ若シ女子ノ方ニテ之ヲ肯セサレ  
 ハ夫レ迄ニテ事ハ敗ル可シ故ニ是ノ間ニ於テ男子ハ殊ノ外諸事ニ注  
 意シ機會ヲ見テ自ラ己レノ娶ラント欲スル意ヲ女子ニ申シ出シ其ノ  
 承諾ヲ得ルコトナリ(勿論男子ヨリ親交ヲ求メ父母モ之ヲ許スコナレハ

先ツ大抵ハ事ノ成ル可キモノナレトモ男子ヨリ女子ニ其ノ意ヲ通スル時カ愈々ノ結局ナレハ此時ノ有様ニ就テハ有名ナル人々ノ婚禮ニ付キ種々ノ面白キ物語リアルコトナリ若シ女子ノ方ニテモ悦テ之ニ應スルハ乃チ百年ノ苦樂ヲ共ニスルノ境界是ノ時ニ始マル者ニテ之ヲ結約ト云フ扱是ノ結約定マリテ男女ヨリ是ノ趣ヲ其ノ父母ニ通スルハ父母モ此ニテ安堵ス可ク世間ニテモ是ノ事仄カニ聞ユヘシ故ニ未ダ婚儀ヲコソ行ハサレ右ノ男女ハ已ニ定マリシ夫婦ノ如ク男子モ女子モ共ニ他ノ男女ニ對シテハ聊カ從前ト様子ヲ異ニスルコトナリス少結約スル後ハ男女共ニ誰レニモ憚ル所無ク相伴テ出入往來スルコトナリ若シ男女共ニ一家ヲ成シ生活ヲ爲スニ差支ヘ無キ者ニテ他ニ又何等ノ故障モ無ケレハ結約ノ後遠カラス婚禮スル者モアリ然レトモ双方ノ財産尙ホ不十分ナルハ結約ノ後一年二年又ハ四年五年ノ久シ

キヲ歴テ其財産一家ヲ成スニ足ル程ニナルヲ待テ婚禮スル者モアリ又ハ不幸ニシテ約束ノ破ル者モアリ然レトモ非常ナル避ケ難キ事故アルニアラサレハ破約スルコト能ハサルヲ通例トス右ニ記スル所ハ極メテ筋ノ正シキ婚禮ノ手續キナレトモ斯ク常經通り都合好ク行カサル者モアリ英國ノ風俗トシテ食事、舞踏、茶會、夜會ヲ催シ廣ク知人ヲ招クコト少ナカラズ此際男女ノ父母タル者ハ別段其ノ意無キモ元來男女ノ情ハ天性ニ出ツル者ナレハ是等ノ會ニ於テ年若キ男女ノ相見テ互ニ意ヲ屬シ未ダ一家ヲ成ス可キ財産モ無ク又双方ノ家筋モ不釣合ナルモ相ヒ會スルコト度々ナル後ハ父母ノ命ヲ待タスシテ互ニ結約スルコトモアリ而テ是等ノ男女ハ各々自ラ身ヲ立テ、婚姻ス可キ歲月ヲ期シ以テ互ニ之ヲ待ツコトナリ又或ハ女子ニシテ十七歳以上男子ニシテ廿一歳以上ノ者ナルハ父母ノ命ヲ待タスシテ私ニ寺院

ニ赴キ借侶ヲ媒トシテ結婚ヲ爲スモアリ或ハ婚姻登録所是ハ婚姻ヲ  
証スル一種ノ場所ナリニ赴テ其証ヲ留メ置クモアリ斯ク寺院ノ媒ヲ  
經又ハ登録所ノ手續ヲ經タル夫婦ハ其父母ハ更ニ之ニ關カリ知ラズ  
トモ國法ニ於テハ其ノ婚姻ヲ正當ノ者ト認ムルカ故其ノ兩親カ後ニ  
テ之ヲ聞キ知り不平不滿ナリト雖モ復々之ヲ奈何トモスル能ハサル  
コナリ斯ル場合ニハ父母ハ怒テ之ヲ義絶シ對面ヲ許サ、ル者モアリ  
然レモ長キ歲月ノ中ニハ他人ノ謝罪杯ニ因テ父母モ流石ニ心弱ク大  
抵ハ其ノ往來ヲ許ス様ニナルモノ多シ

右ノ如キ有様故男女ハ互ニ其配偶ヲ勝手氣儘ニ擇ビ得ヘク兩親ハ幾  
ノト之ニ手出シナラサルカ如キニ似タレモ其實爰ニ父母ハ能ク其ノ  
子女ノ縁談ヲ左右スルコト出來其ノ子女ハ又自然兩親ノ承諾ヲ重シテ  
己等ノ氣儘ノニ爲シカヌル一條ノ仕組アリテ存セリ其仕組ハ即チ

財産讓與ノ一事ニテ男女共ニ初メテ婚姻スル年頃ノモノハ大抵皆チ  
未ダ十分ニ自ラ生活スルコト足ル程ノ財産ヲ有セサル者ナルニ其父  
母ハ既ニ多年ノ間幾分ノ財産ヲ積ミ居ルコトナレハ大抵ハ男女共ニ父  
母ヨリ其財産ノ幾分ヲ貰ヒ受ケ之ニ己等ノ勞働シテ得ル所ノ資産ヲ  
加ヘ始テ一家ヲ成スニ足ルノ有様トナルコトナリ故ニ男女ノ父母タル  
モノ若シ其ノ子女カ婚嫁セント欲スル相手ヲ不都合ナリト認ムルト  
キハ其子女ニ向ヒ若シ己レノ意ニ戻リタル婚嫁ヲ爲サハ毫モ財産ヲ  
讓與セサルノ意ヲ示シ之ヲ阻ハムコトナリ然ルトキハ其子女タル者ハ  
己レノ愛スル者ニ婚シ己レノ意ヲ遂クルモ一方ニテ父母ヨリ受クヘ  
キ財産ヲ失フ歟又ハ父母ノ命ニ從ヒ財産ヲ得ルモ一方ニテ其愛スル  
者トノ婚禮ヲ見合スル歟ノ得失ヲ心中ニ判斷スルコトナリ歐洲ニテハ  
女子ヲ嫁スルコトハ其父母ヨリ幾分ノ財産ヲ分チ與フルコトハ今日幾シ

ト一般ノ風俗トナリ居レリ日本ニテモ勿論相應ノ財産アルモノハ稀  
 レニハ女子ヲ嫁スルニ持參金ヲ帶ハシムル者ナキニアラテ先ツ大  
 抵持參金ヲ添ユルハ其女子ノ方ニ何カ不足ナル個條アリテ之ヲ埋メ  
 合ハスタメノ補助ニシテ持參金ナケレハトテ通例之ヲ怪ムモノモナ  
 ヲ然ルニ歐洲ニテハ却テ持參金ナキ女子ヲ怪ム程ノコトニテ父母ノ  
 貧富ニ應ジ女子ヲ嫁スルニ相當ノ財産ヲ帶シメサル者ハ幾ト希レナ  
 リ斯ル次第故男女共ニ多クハ是ノ一事ノ爲メニ父母ノ制スル所トナ  
 リテ己レノ勝手氣儘ニハ婚嫁スルヲ出來ス之ヲモ願ヒスシテ氣儘ノ  
 婚嫁ヲナス者ハ甚ク少キナリ斯ク父母タルモノカ其ノ子ノ配偶ヲ制  
 スルモ誠ニ已ムヲ得サルモノニテ其利益甚ク少ナカラス何トナレハ  
 年頃ノ男女ハ血氣方ニ盛ニテ一時ノ情欲ニ制セラレ後來永遠ノ幸不  
 幸ヲ慮ルニ及ハス加フルニ世故ヲ更ルヲモ少ク唯タ眼前一時ノ愛好

ノタメニ百年ノ生涯ヲ誤リ少シク年ヲ累テ少シク歳ヲ積メハ看スル  
 深ク後悔スル様ナルヘキモノニ婚嫁シ大ニ其身ヲ苦ムルモノ其例  
 ニ乏カラス通例ナレハ然ルヘキ家筋ノ婦人ニ配シ或ハ然ルヘキ器量  
 ノ男子ニ配スヘキ身ヲ持テ乍ラ其交ル所狭ク其見聞スル所廣カラス  
 只タ眼前ノ情欲ニ引カサレテ不釣合ナル婚嫁ヲナス者多カルヘキナ  
 リ然ルニ是時ニ當テ血氣已ニ退キ多ク世故ヲ更テ當人ノタメニ深ク  
 利害ヲ慮カル父母ト云ヘルモノアリテ其ノ子ノ不都合不似合ナルモ  
 ノト婚嫁スルヲ防キ己レカ認メテ相當耻カシカラストスルノ男女若  
 干ヲ選ヒ其圍範内ニ於テ其子ニ然ルヘキモノヲ擇ハシムルトキハ前  
 ニ記ルス如キ種々ノ不幸ヲ免カレシムルコトモ出來ヘシ斯ク父母カ其  
 子ノ婚嫁スヘキ人物ノ圍範ヲ定ムルハ年頃ノ男女ヲシテ隨意ニ其  
 ノ配偶ヲ擇フコト能ハサラシムルノ妨ケヲ與ルニ似タレトテ男女共

唯タ父母ノ命ヨリミ之レ從テ曾テ自ラ我心ヲ以テ配偶ヲ擇フノ自由ヲ得サルモノニ比較スレハ其幸福ノ差亦タ甚ク大ナルニアラスヤ今試ニ之ヲ日本ノ風俗ニ視クテハヨ日本ニテモ男子ノ方ニテハ或ハ見會杯ト稱ナヘ婚姻ノ前ニ一ニ二回ハ其娶ルヘキ女子ヲ預メ鑑定スルヲ得レハ女子ノ方ニテハ殆ト毫モ自ラ擇フノ自由ヲ得ルヲ能ハサルノ狀アルニアラスヤ將タ男子ト雖モ父母ノ命ニ戻ルヲ出來ズ唯タ其ノ命スル所ノ女子ヲ娶リテ自ラ満足セサルヲ得サルモノモ亦タ甚ク多キニアラスヤ是ノ如キ風俗ニ比較セハ前ニ述ヘタル如ク父母タルモノカ預メ婚嫁スヘキ人物若干ヲ見立テ其内ニテ男女共ニ互ニ相擇フヲ得セシムルハ先ツ之ヲ目シテ男女各々自ラ配偶ヲ擇フノ自由ヲ得ルモノト評スルモ可ナルヘシ又男女共ニ其父母ノ定メタル圍範内ノ人物ニシテ一ツモ己レノ意ニ中タルモノナシト考フルルハ其由

又父母ニ告ケ父母ヲシテ又更ニ若干ノ人物ヲ見立テシムルヨモ出來ヘシ又男女共ニ其ノ意ニ叶ハサルモノハ強テ之ト婚嫁スルニ及ハサルヲナレハ苟モ右ノ手續ニテ婚嫁スルモノナランニハ固ヨリ自ラ得心シタルモノニ相違ナシ即チ其相愛スル所ノモノナルニ相違ナシ若シ年頃ノ子女ニシテ父母ノ命ニモ戻ラス財產ヲモ貰ヒ得ヘキ限りノ内ニ於テ又自ラ相愛スル者ヲモ擇フヲ出來ヘシトセハ自ラ求メ好ミテ淫奔ノ所行ヲ爲スモノハ有ラレ間敷キ譯ニアラスヤ若シ男女共ニテ互ニ自ラ其偶ヲ擇ハシムルノミニシテ其傍ニ父母ノ如キ之カ爲メニ遠ク慮カルモノ附添ヒ居リ之ヲ制スルヲナカラシメハ實ニ意外ナル不都合ヲ生スルヲ多カルヘキニ英國ニテハ斯ク自由監督並ヒ行ハル、双全ノ仕組アルハ元ト實際ノ必要ヨリ生シ來レル自然ノ習慣トハ云ヒ乍ラ誠ニ英國社會ノ美俗ト云フヘキナリ

前ニモ記セシ如ク右ハ英國中等社會ノ有様ニテ先ツ之ヲ以テ尋常一般ノ風儀トナスコナリ去リ乍ラ貴族ヲ首トシ非常ナル金満家ノ如キ上等ノ地位ニアルモノハ右ノ如ク自由ナラサル場合アリ又下等社會ノ者共ハ右ニ比較シテ自由過キタル場合アリ余カ英國婚嫁ノ風俗ヲ示サント欲スルニ當リ殊更ニ斯ク中等社會ヲ擇ヒタルモノハ則チ是カ爲メナリ何トナレハ上等社會ハ其地位ノ昇ルニ從ヒ門地財產ノ鈞合フヘキモノ甚タ少ク父母カ其子ヲシテ匹偶ヲ擇ハシムルニモ其ノ圍範甚タ狭クナルコナリ左レハ迎非常ナル避ケ難キ仔細アルコアラサレハ門地財產ノ不鈞合ナルモノニ其子ヲ婚嫁セシメント欲スルモノハ有ラサルヘシ故ニ其地位愈々高ケレハ其圍範愈々狭ク終ニハ餘義ナク相愛セサル男女ヲシテ強テ相婚セシムルカ如キコモ間々有リ勝チナリ上等社會ニ時トシテ不身持ノ人アルハ獨リ其ノ財產ニ富饒

ニシテ奢侈ヲ肆ニスル丈ノ自由叶フカ故ノミニアラス畢竟ハ當初其ノ偶ヲ擇フコノ中等社會ノ如ク自由ナラス從テ閭内ノ樂ニ不足アリ勝チナルヲ以テナリ然レトモ推シナラシタル處其社會ニ棲ム者ハ其社會一般ノ風俗ニ從ハサルヲ得サルコ自然ノ勢ナレハ如何ニ其圍範狭シトテ狭キハ狭キ乍ラニ相擇自由ノ仕組ハ矢張り其ノ中ニ行ハレテ相戻ラス之ヲ日本上等社會ノ婚嫁ノ有様ニ比スルトキハ勿論絶大ノ差違アルナリ但々其圍範ノ狭キ丈ニ中等社會程男女相擇フノ自由廣カラス隨テ不都合ノアリ内ナルヲ云フノミ左レハ上等社會ト雖モ尙ホ前記ノ風俗ニ漏レサル者ト云フテ可ナリ又下等社會ニ至テハ其地位ノ下ルニ從ヒ其圍範モ隨テ廣ク男女相擇フコ極メテ自由ナルカ上ニ又其父母タル者ノ方ニ財產甚タ多カラス故ニ父母ノ命ニ從フモ從ハサルモ財產ノ上ニ於テハ其子ニ格別ノ利害ヲ與ヘサルコナレハ



父母ハ遂ニ其子ヲ制スルノ力ヲ失ヒ男女ヲシテ銘々憚ル所ナク氣儘次第ニ其偶ヲ擇フニ至ラシムルノ勢ヒアリ然レハ是ノ男女相擇ムノ風俗ハ下等社會ニ至テ尤モ隨意ニ行ハル、者ト云フヘシ中等社會ノ男女ナラシムルニハ其男女ニ多少ノ知識アリテ其財產尙ホ一家ヲ成スニ足ラスト考ルキハ當人等モ結約スルノミニテ婚嫁ヲハ先ツ之ヲ延ハスヘク又父母モ傍ヨリ之ニ訓戒ヲ加ヘテ然ルヘキ時節マテ延ハサシムヘシ然ルニ下等社會ニ至テハ獨リ當人等カ己レノ情欲ヲ制シ能ハサルノミナラス其父母タル者モ亦之ヲ訓戒スルノ力ナキカタメ男女共隨意氣儘ニ過キ遂ニ早婚シテ大ナル不幸ヲ後來ニ蒙ルモノ甚タ多キナリ自由監督双全ノ仕組此ニ至テ偏輕偏重ノ弊ニ陷イルモノト云フヘシ亦タ已ムヲ得サル次第ナリ

英國ニ於テハ男女偶ヲ擇ムノ風俗一方ニ於テ斯ノ如ク都合好キニ一

方ニ於テハ又一タヒ婚嫁セシ者ノ離縁スルコト甚タ難儀ナラシメ一タヒ婚セシモノハ後來又相別カル、コト能ハサラシムル様ニ仕組アリ則チ裁判所ニ持出サ、レハ離縁ハ出來ヌコトナリ今マ茲ニ前記ノ手續ニ因テ結婚セル男女アリト假定メンニ其夫タルモノ非常ニ其妻ヲ虐遇スルニアラサレハ女子ノ方ヨリ輒スク離縁ヲ乞フコト能ハス又其妻ニ不貞不義ノ証據アルコト非レハ男子ハ決テ其妻ヲ離縁スルコト能ハス其雙方ノ間柄甚タ手重キコトナリ試ニ之ヲ日本ニ比較セヨ日本ニテハ其妻カ曾テ不貞不義ノ跡ヲ露ハサ、ルモ男子ハ唯タ其家風ニ叶ハストノ口實ヲ以テ容易ニ之ヲ離縁シ得ヘク又其夫カ嘗テ苛酷ノ取扱ヲナサ、ルモ女子タルモノハ奔テ其里方ニ返リ容易ニ離婚ヲ乞出ツルコトヲ得ヘク諺ニ云ヘル合ハセ者ハ離ナレ者ニテ其容易スキコト手ヲ反ヘスカ如ク國法モ亦之ヲ止ムルコトナキニアラスヤ斯ノ如キ有様ニ

視クテブレハ英國ノ風俗ハ亦タ嚴重至極ナリト云フニ去リ乍ラ唯  
 タ斯クノミ云ハ、或ハ疑ヒ訝リテ室家合スレハコソ男女雙棲スル  
 ナ得ヘキニ既ニ雙方ノ心カ相ヒ諧ハスシテ夫ハ妻ヲ疎トミ妻ハ夫ヲ  
 疎トミ然ルモ尙ホ夫婦トシテ一家ニ住居セサルヲ得ストモハ其不都  
 合亦タ夥シカルヘシ斯ノ如キハ寧ロ離縁スルノ愈レルニ如カス杯ト  
 考ルモノモアルヘシ如何ニモ尤ノ考ナリ然レトモ英國ニ於テハ離縁  
 ノ外ニ別居ト稱フルモノアリ室家合セスシテ逆モ借老ノ望ナク夫  
 ハ其ノ妻ヲ去ラント欲シ妻ハ其ノ夫ニ別レント欲シ今ハ双方共ニ其  
 好情絶エ果テダレト左レハ逆一方ニ苛酷ノ取扱トナスヘキ所行モナ  
 ケレハ一方ニモ不貞不義ト咎ムヘキ跡モナク唯タ其双棲ニ厭キタル  
 迄ニシテ別段是ソト指スヘキ離縁ノ口實ナキ者ハ即チ相互ノ相談ソ  
 上ニテ是ノ別居ヲ擇ムコナリ又一タヒ離縁ヲ法庭ニ訴テ十分ノ証據

ナキハ裁判官ヨリ別居ヲ命セラル、コナリ斯クシテ別居トナレル  
 其ハ常ニ其夫タルモノヨリ身分ノ貧富ニ應シテ相當ノ定リタル扶持  
 ナ其妻ニ送リテ其ノ生涯ヲ過コサシムルコナリ勿論別居ノ間ハ男子  
 ハ更ニ妻ヲ娶ルコ能ハス女子モ亦タ人ニ嫁スルコ能ハス是レ則チ國  
 法カ右不心得ノ男女ニ與ルノ罰ナリ  
 男女自由ニ其偶ヲ擇ムノ風俗ト結婚ノ後ハ離縁ヲ容易ナラシメサル  
 フ法律トハ兩者相須テ始メテ其完キヲ成スモノニシテ若シ其ノ初メ  
 男女相擇ムコ自由ナラストシ結婚ノ後チ離縁ハ甚タ難クシハ男女ノ  
 不幸實ニ大ナルヘシ又離縁容易ニシテ男女偶ヲ擇フコ甚タ自由ナラ  
 ハ風俗放縱ニ流レテ實ニ不始末ナル社會トナルヘシ是等ノ理ヨリ考  
 ヘナハ日本ニテ其初メコ男女相擇ムコ自由ナラサル代リコハ結婚ノ  
 後離縁スルコモ亦タ極メテ容易スキ習ヒナルハ其全体ノ不都合ハ無

論不都合乍ラマダシモ自然知ラス識ラスノ中ニ幾分カ男女ノ幸福ヲ保護スルノ效能アル仕組ナルヲ知ル可キナリ  
 篇首ヨリ記シ來リタル英國男女ノ有様ヲ考ヘナハ日本男女ノ風俗ハ其不都合ナルヲ多言ヲ待タスシテ明カナルヘシ仍ホ右ノ風俗カ如何ニ英國ノ盛大ニ差響キヲ與ヘタルヤノ一事ニ就テハ之ヲ左ニ畧論ス  
 ヘシ

抑モ男女ノ情ハ人類ノ天性ニ出ルモノナレハ決シテ其ノ發動ヲ止メ得ヘキ者ニアラス唯タ之ヲ然ルヘキ方向ニ導クヲ務ムヘキノミ之ヲ譬フレハ猶ホ源有ルノ水ノ如シ若シ其低處ニ趨クノ性ニ戻リ強テ之ヲ止メント欲スレハ意モハサル場所ニ決潰シテ大害ヲナシ又善ク其性ニ從テ之ヲ導クハ畜ニ決潰ノ害ヲ生セサルノミナラス或ハ運漕ノ便ヲ助ケ或ハ灌溉ノ利ヲ與ヘ大ナル利益ヲ生スヘシ男女ノ情モ

誠ニ之ト同様ニテ如何ニ之ヲ制止セント欲スルモ決シテ制止シ得カラサルモノナリ左レハ唯タ如何ニ之ヲ導カハ利益アルヘキヤヲ考フルノ肝要ナルナリ前記セル英國ノ風俗ハ則チ男女ノ情ヲ制止セスシテ却テ善ク之ヲ導ク者ト云フヘシ或ハ食事或ハ舞踏或ハ茶會杯ノ如キ種々ノ燕會ニハ年頃ノ男女ヲシテ共ニ游フノ歡娛ヲ得セシメ各其心ヲ慰スルノ機會ヲ與ヘ日本ニテ云ハ、年若キ者燕會シテ藝妓杯ヲ聘シ其賑ヒヲ侑タスケル場合ニ英國ニテハ其座上然ル可キ年老ヒタル婦人ノ陪ニ之ヲ監督スルアレ共其一座中ニハ必ス年頃ノ女子ヲ交ヘテ一座ノ歡ヲ増スヲナリ勿論是等ハ良家ノ女子ノヲナレハ一座ノ男子モ之ニ對スルニ禮儀ヲ守リ自然ト無作法ナル所行ヲ慎ミ一方ニハ打解ケタル歡娛ヲ得ツ、モ又一方ニハ端正ナル舉動ニ習ル、ト云フ工合ニテ其事ノ優美ナル固ヨリ夫ノ日本杯ニ於テ身元アル少壯男

子カ時トノハ色ヲ驚キ媚ヲ獻スル女子ニ交リ或ハ知ラス識ラス放縱  
 ニ流ル、者アルカ如キ譯ニ非ルナリ左レハ英國ノ年頃ノ男女ハ是ノ  
 風俗ニ因テ歡娛相遊フノ情ヲ遂ルカ上ニ其身持モ知ラス識ラス端正  
 ニ趨クノ大利ヲ得ルコナリ英國ノ男女ノ他國ニ比較シテ年若キ頃ニ  
 身持ノ正キハ全ク右ノ仕組ヨリ生シ來レル効能ナリ且ツ凡ソ是等ノ  
 燕會ハ年若キ人々ニ其後來ノ配偶ヲ擇フベキ糸口ヲ與フル者ナレハ  
 男女共至極萬事ニ心ヲ用ヒ其内ニ互ニ意ヲ屬スルノ人ヲ見出ダシ終  
 ニ結約スルノ幸ヲ得ルキハ(父母ノ之ヲ許スト許サハルトニ論ナク)互  
 ニ時ヲ得テ婚禮シ百年快樂ノ生涯ヲ得ントテ婚禮ニ至ルマテノ間ハ  
 脇目モフラス男子ナレハ其業ヲ營ミ資産ヲ造ルコトヲ務メ又女子ナレ  
 ハ夫レ相應ニ藝ヲ研キ身ヲ慎ムコナリ斯ル有様ナルカ故ニ未タ婚儀  
 ヲ行フニ至ラサル間モ雙方共自然身持正シク唯々時々相互ニ往來シ

テ交リ其情ヲ慰スルノミ試ニ之ヲ日本ニ比較セシニ日本ノ男子ハ然  
 ルヘキ女子ヲ見出スマテノ間ハ右ニ記スルカ如キ情ヲ慰スルノ場合  
 モナク又女子ノ若キハ何時如何ナル人ニ嫁スヘキヤモ知レサル程ノ  
 コナレハ更ニ其情ヲ慰スヘキノ地ナク遂ニハ以テノ外ナル不都合ナ  
 ル身持ヲナスモノサヘ往々之レアルニ至ル是等ハ皆自ラ其身ヲ慎ム  
 ノ薄キニ因ルトハ云ヒ乍ラ虚心平氣ニテ篤ト其有様ヲ考ル時ハ亦タ  
 強クニ之ヲ咎メ難キノ情實其ノ中ニアルニアラスヤ英國ニテ年頃ノ  
 男女ニハ皆ナ相見テ歡ヲナスノ機會ヲ與ヘ又男女ヲシテ相擇ハシム  
 ルノ自由ヲ與ルノ風俗アルハ是レ則チ同國ノ年若キ男女カ不身持ノ  
 行狀少キ原因ノ第一ナルモノナリ  
 日本ノ如キ仕組ニテハ男女與ニ其ノ血氣方ニ盛ナルコ方リ良家ノ女  
 子ト相ヒ見相ヒ交ルノ機會アルコトナク左レハトテ男女ノ情ハ天性ニ

出ルモノナレハ之ヲ慎ムヲ甚ク難ク終ニ轉シテ然ルヘカテサル方向ノ賤キ女子ニ交ルニ至ルハ是亦ク識ニ餘義ナキ必然ノ勢ト云フヘシ其交ル所カ良家ノ女子ナラシニハ其ノ所行ヲモ慎ミ端正ノ人トナルヘキニ其ノ交ル所宜シカラサルヲ以テ人生ノ最モ大切ナル時期ニ於テ動モスレハ遂ニ放縱ノ身持ヲナシ或ハ財ヲ費シ或ハ身ヲ誤リ幾分ノ蹉跌ヲ其生涯ニ致スモノ甚ク少カラサルハ世人ノ熟知スル所ナリ又女子ノ方ニ於テモ同様ニテ然ルヘキ男子ト相見相交ルヲアラハ藝ヲモ勵ミ身ヲモ慎ミ自カラ其舉動ヲモ優美ニナスヲ得ヘキニ左ハナクシテ男子ト云ヘハ親姻ノ外ハ曾テ言語ヲ交ルノ機會ダモノク空シク家内ニ閉込メラレ春ヲ懷フノ極ハ以テノ外ナル不都合ノ身持ヲモナスニ至ルヲナリ左レハ日本ノ如キモ苟モ社會ノ風俗ヲ端正ニセシト欲セハ宜シク當サニ年若キ男女ノ天性ニ戻ラスシテ英國同様ニ其

ノ情慾ヲ利益アル方向ニ導クヘキヲ以テ其策ノ第一歩トナスヲ必要ナルナリ  
 歐洲ニテモ佛國伊國ノ如キハ少シク英國ニ異ナリテ稍ヤ日本ニ似タルノ場合アリ右二國ニ於テハ女子ノ父母タルモノ殆ト婚娶ヲ定ルノ全權ヲ有シ父母ノ然ルヘシト認ル男子アリテ婚ヲ求ムルハ父母ハ別ニ之ヲ其子ニ謀ルヲ少ナク大抵ハ專斷ニテ之ヲ嫁セシムルヲナリ又一クヒ結婚セシ後ハ縱ヒ如何ナルヲアリトモ國法ニ於テ決テ夫婦ノ離縁ヲ許スヲナシ(是點ハ英ヨリモ嚴酷ナリ)日本杯ニテ離縁トナル場合ニハ唯ク別居ヲ許スノミナリ故ニ男子カ妻ヲ虐遇スルトモ女子カ不貞不義ノ行ヲナス共英國ノ如ク之ヲ離縁スルヲ出來ズ故ニ男子モ時トシテ不都合ノ事ヲ行ヒ女子モ亦不貞ノ事ヲナスヲ懼レサルモノアルニ至ルナリ(佛國ニ於テハ輿論之ヲ不可トシ一昨年ニ至テ遂

ニ離縁ヲ許スノ法ヲ定メタリ尤モ奈翁一世ノ時ニモ一タヒ離縁ヲ許  
 スノ法ノ行ハレタルコアリシカ爾後其法久ク廢タレ居リシナリ然レ  
 此伊國ニ於テハ今日猶ホ之ヲ改メス西國モ亦タ同様ナリ是等ハ皆ナ  
 耶蘇舊教ノ廣ク行ハレタル國ニテ當初風俗ヲ敦キニ導ク積リノ教義  
 其極ニ趨リ遂ニ此弊ヲ致スニ至リシモノナリ斯ク結婚ノ後ニ一種ノ  
 不都合アル上ニ年頃ノ男女ヲシテ平素相遊ヒ相交ハラシムルコモ亦  
 英國ニ比スレハ甚タ少ナシ是等ノ諸國ノ年頃ノ男女ニ不身持ノ過  
 失アルモノ頗ル澤山ナルヲ見テ或ル論者ハ其原因ヲ右男女懽娛相遊  
 フノ機會ノ稀レナルニ歸スル者アリ或ハ然ルヘシト思ハル  
 男女共其初メ年頃ナル時ヨリ相見相交リテ篤ト雙方ノ性質ヨリ其ノ  
 才藝舉動マテ都テ明カニ見定メタル後ニテ始テ之ト結約シ愈々婚禮  
 スルニ至ルマテ人間ハ彼ノ樂テ而テ淫セスト云ヘルカ如ク迭ニ往來

シテ相愛ノ情ヲ通スルモ曾テ淫ヲリカハシキ振舞ヲク相互ニ後來百  
 年ノ苦樂ヲ共ニスルヲ期シテヒダスラ只管銘々ノ業ヲ勵ミ其預メ期シタル時  
 節ニ至テ後始テ婚儀ヲ執行フコナレハ一家ヲ成スノ後モ其伉儷ノ情  
 ノ極テ敦キハ亦タ當然ノコナリ故ニ一家ヲ成セシ後ハ夫婦共ニ一  
 ノ如ク互ニ家産ヲ殖ヤスコヲ務テ脇目モフラス苟カカリメニモ儲エテ出來  
 タルハ其餘財ヲ以テ或ハ銀行或ハ鐵道其他利益多カルヘキ株券  
 杯買求メ敢テ之ヲ浪費スルコナシ或ハ夫婦ノ間ニ子供ヲ舉クルハ  
 其教育ニ善ク心ヲ用ヒ又其地位身分ニ因テハ旁ヲ心ヲ公共ノ事務ニ  
 盡ス杯萬端優サシク美ハシキ生活ニシテ誠ニ馨ハシキ有様ナリ凡ソ  
 英國人民夫婦ノ間柄ノ有様斯クノ如クナルハ其一國富強ノ上ニ差響  
 シ所ノ者實ニ巨大ナルハキハ固ヨリ言フ迄モナシ仍ホ詳カニ之ヲ思  
 考セシト欲セハ試ニ之ヲ土耳其格支那ノ如キ東方諸國ノ風俗ニ比較ス

ルヲ肝要ナリ右ノ國々ナラシムルハ男子ニシテ少シク資産ヲ有スレハ其正妻アリニ拘ラス身分ニ應ジテ多數ノ婢妾ヲ蓄ハヘ其ノ爲メニ衣食住ノ華美ヲ圖カリ只ク其一身ノ樂ヲ取ルカ爲メニ其家ノ餘財ヲハ多ク右等ノ如キ不用ノ事ニ浪費シ主人既ニ斯ノ如クナレバ其室家ノ和合モ從テ覺束ナク表面ハ兎モアレ其家庭ニハ暗ニ多少ノ風波アルヲ免レヌ斯ル有様ナレハ其子ノ教育モ自カラ疎畧トナリ後來許多ノ不都合ノ隨テ生スルハ當然ノコトナリ右ノ國々ニテ男子カ婢妾ヲ蓄ハヘ或ハ其者共ノタメ種々ノ奢侈ノ用ニ供スルノ餘財ハ若シ英國ニアラシムル方ニ向ルカ故其積モリ積モリタル處ニテハ則チ一國社會ヲ利スルキ有用ノ事業ヲ興ス資本ノ一部トナル譯ノモノナリ然ルニ斯ル餘財ハ皆ナ之ヲ婢妾奢侈杯不用ノ事ニ費ス者共ノニ集テ一國ヲ

成サシ其國ノ財本ハ即チ富チ殖スルノ用ヲ失テ一度ハ經濟土兵不生産ノ資本ト稱ナフル種類ニ變スルモノナリ斯ク一方ニハ一家ノ餘財悉ク社會有利ノ資本トナリ又一方ニハ悉ク不用無益ノ浪費ニ化シ盡スノ有様ニテ東方諸國如何ニシテ其富強ヲ英國ト競ヒ得ヘキヤ又土支諸國ニ於テ男子カ只ク一身目前ノ快樂ヲ取ルカ爲メニ婢妾ヲ蓄ハヘ奢侈ヲ爲スニ勞スル所ノ心思ハ若シ英國ニアラシムルコトハ轉々テ其子供ノ教育或ハ一國公共ノ事務ニ勞スル譯ナリ一方ニテハ目前肉體ノ快樂ニ心ヲ勞スルニ一方ニテハ是ノ心ヲ轉シテ之ヲ殖産及ヒ公共ノ事務ニ用ユ東方諸國ノ英國ニ競ハサルモ亦ク當然ノ事ト云フヘキコト勿論東方ノ諸國迎モ中等以下ノ人民ハ日々ノ生活ニ逐ハレテ右ニ記スル如ク餘財ヲ不用ノ事ニ費シ心思ヲ不用ノ事ニ勞スルコト得ス又暇アラズ左レハ中等以下ノ民ハ先ツ東西共組カ同様ノ妾ナルモノ

大抵然レハ一國人事ヲ左右スルノ力ハ常ニ中等以上ノ人ニアルハ東  
 西共ニ又同様カ即チ中等以上ノ人民ハ其國人心髓ト稱スルモ可ナ  
 ル者ナリ然ルニ一方ニテハ其心髓タルヘキ人物カ餘財ヲ不用ノ事ニ  
 費シ心思ヲ不用ノ事ニ勞シ一方ニテハ都テ之ヲ有用ノ事ニノミ向ク  
 ルトモセハ雙方ノ優劣多言ヲ須クスルニテ分明ナルヘシ  
 論者或ハ云ハシ英國人民家内夫婦ノ是ノ風俗ハ專ラ一夫一婦ノ義ヲ  
 主張スル耶蘇教ヨリ生シ來リシモノナルヘシト如何ニモ幾分ノ道理  
 ナキニハアラズ然レ共若シ深ク其真因ヲ求ムルキハ必スシモ然ラザ  
 ルニ似テ決シテ一概ニ之ヲ宗教ノ力ト云フ可ラサルナリ何トナレ  
 西洋諸國ハ皆カ耶蘇教ヲ奉セサルモノハナキニ西佛佛等ノ諸國ニ  
 於テ英國同様ニ行カサル場合アリ然レハ唯タ是ノ風俗ヲ宗教  
 カニ歸スルハ未ダ盡シルモ大ト云フ可ラズ若シ宗教ノ外ニ十大原因

アリトモハ前ニ記シタル英國ノ如ク年頃ノ男女ナシテ相見相交ルヲ  
 得セシメ又自由ニ其偶ヲ擇ハシムル等ノ仕組ヨリ自然ト斯ル風俗ヲ  
 生シ來リシモノナリト云ハシノミ(仍ホ一夫一婦トシテ宗教道德ノ部  
 ニ之ヲ論スルヲ見ヨ)  
 又篇首ニ記シタル如ク英國ノ女子カ或ハ燕會ニ或ハ公會ニ外出シテ  
 廣ク人ニ交ルノ風俗ハ種々ノ差響チ社會ニ與フルコトナリ凡ソ知識ヲ  
 得ルノ道ハ廣ク人ニ交ルヨリ大ナルモノアラズ何人ニアレ廣ク他人  
 ニ交際シ之ニ慣ルハ他人ニ鑑ミテ己レヲ省リシ大ニ其身ヲ改良  
 スルモノナリ若シ他人ニ不都合ノ身持ヲナスモノアリテ人々ノ之ヲ  
 非難スルヲ聞ケハ己レ自カラ戒テ斯ル事ヲ爲ス間敷ト慎ミ又賞賛セ  
 タルノ舉動ヲナスモアラレハ己レ自カラモ斯クコソアリ度ト勵ムハ  
 人情ノ常ナリ左レハ女子ト雖モ燕會公會其ノ他廣ク他人ニ往來交際



スレハ其品行ハ勿論言語應對ノ微ト雖ヒ人ニ鑑ミ自カラ慎ミ若シ淫  
 奔ナル女子アリテ其交際スル園範ノ朋友ニ之ヲ毀譽セラル、ヲ見ル  
 時ハ此毀譽ヲ慎レテ己レヲ慎ムニ至ルベク又タ己レ自カラモ朋友ニ  
 對シ人ヲ毀譽シタル言葉ニ慚テ行ヲ慎ムニ至ルヘシ加ルニ其交際ニ  
 於テハ獨リ女子ノ朋友ノミナラス男子ノ舉動ヲモ毀譽スルノ見識ヲ  
 生シ當ニ己レノ偶ヲ擇ヒ夫ヲ定ムルノ思慮ヲ長スルノミナラス人ニ  
 嫁スル後ニ其夫ヲ助ケ其子ヲ教ルニ大ナル利益ヲ與ルコトハ分明ナリ  
 又些細ナル利益ヲ擧ケナハ世間ヲ見テ人ニ慣ル、カ故ニ其舉動風采  
 モ自カラ臆スルコトナク自然ト優美ニ趨キ女子ノ坐作進退ヲ改良スル  
 ノ效能モアルヘキナリ又廣ク交ルニ因テ女子ニ男子ヲ毀譽スルノ見  
 識ヲ與ルニ至レハ之ニ對スル男子モ亦タ其毀譽ノタメニ制セラレ其  
 女子等ノタメニ或ハ稱セラレ或ハ請ハラル、一事ハ自ラ大ナル檢束

トナリ自ラ省ミテ不都合ノ身持ヲキ様必掛ルニ立至ル、又斯ル  
 有様トナレハ男子ハ女子ニ恐ル、所アルカ故ニ從テ又タ女子ヲ敬ム  
 ルハ風俗ヲ次第ニ生スル様ニモナルヘシ『東方諸國殊ニ支那、土耳其、格杯  
 ノ如ク女子ヲシテ唯タ深窓ノ下ニ孤居セシメ其父母兄弟婢僕ノ外ハ  
 會テ相見相交ルヲ得サラシメ右ノ如ク人ニ鑑ミテ己レヲ慎ム、道  
 モナケレハ從テ其坐作進退言語風采モ之ヲ改良スルニ由ナク男子ヲ  
 擇フノ思慮モ長セヌ夫ヲ助ケ子ヲ教ルノ材料ヲ活世界ニ求ルコトモ出  
 來ズ又女子ノ徳ヲ以テ男子ノ行ヲ矯正スルノ便ヲ得ルコトモ出來サル  
 ハシ斯ル有様ニ生長セシ女子ト前記セル風俗ノ中ニ生長セシ女子ト  
 比較シ深ク其懸隔ノ趣ヲ考ヘナハ其東西國俗ノ上ニ今日ノ如キ優  
 劣アルヲ致シタルモ大ニ其謂ハレアルコトヲ知ルヘシ凡ソ人ヲシテ自  
 カラ慎ミ自カラ改良セシムルノ道ハ仲間ノ毀譽賞罰ヨリ驗目アルモ

ノハアラス昔シ日本ニテ封建ノ頃雄藩ヲ稱セラレ士氣ノ振ヒタル地  
 方ニテ其風俗ヲ維持セシ器械ハ唯青年ノ子弟ヲシテ仲間ヲ組マシム  
 ルノ一事ノミナリシナリ何組何組トテ交際ノ仲間ヲナスキハ苟モ不  
 都合ノ身持アル者アレハ直チニ其仲間ヨリ交ヲ絶タルト云フ道德  
 上ノ罰ヲ蒙ルノ惧アルカ故ニ青年ノ子弟ハ皆之カタメニ各々身ヲ慎  
 ミ藝ヲ勵ミタルモノナリ右ハ獨リ男子ノ身ノ上ノ事ノミニアラス女  
 子ト雖モ人情ハ皆同様ナルコトナレハ若シ女子ヲシテ互ニ相往來シ燕  
 會ニ公會ニ自然交際ノ圍範ヲ成サシムルキハ其圍範中ノ毀譽ニ因テ  
 人々鑑ミ己レヲ省ミル様ニナルノ效能アルヘキハ勿論ノコトナリ  
 古人モ云ヘルカ如ク男女室ニ居ルハ人ノ太倫ニテ何レノ國ヲ問ハス  
 其風俗ノ美惡ハ概チ男女ノ間柄ヨリ生スルモノナリ邦國ニ盛衰ハ必  
 ス其風俗ノ美惡ニ基キテ風俗ノ美惡ハ又必ス男女ノ關係ニ基キテ

ル者ナレ古ヨリ其風俗情弱ニ流シ浮薄ニ陥リ男子ニ端正ノ行無ク女  
 子ニ淫奔ノ風多クナリタル國ヲ觀ルニ毎チニ其社會ノ百事ハ之カタ  
 メニ種々ノ差響ヲ蒙リ人民ノ身体ヲ始メトシ其精神及財產ノ上ニマ  
 テ他國ニ劣ルノ有様ヲ現出シ他ノ純朴端正ノ風俗アル國人ノ爲メニ  
 乘セヌレテ終ニ覆亡ニ至ヌサル者ハナキナリ之ヲ譬フレハ猶ホ大樹  
 ノ中心ニ腐リテ生シテ暴風雨ノタメニ吹倒サル、カ如キナリ其之ヲ  
 倒ホス者ハ風雨ナリト雖モ其主因ヲ求ムレハ自カラ中心ノ腐朽セシ  
 ニ由レリ若シ其風俗ニシテ純朴嚴正ナランニハ假トハ一時ハ他國ノ  
 タメニ侵奪セラレ、モ卒ヒニ之ヲ回復セサルモノ稀ナリ壯者ノ劇疾  
 ニ嬰ルハ猶ホ回復ノ望アレハ衰老ノ輕病ニ罹ルハ却テ不起ノ惧多シ  
 若シ一國ノ風俗ハ男女ノ關係ヨリ生スルコト大ナルヲ知ルキハ邦國ノ  
 盛衰モ亦タ由テ來ル所アルヲ知ルハ善ク是等ノ理ヲ考ヘテハ男女

ノ關係ハ其事小ナルニ似タレ共其繁ル所ハ實ニ至大ナルモソア  
 日本ノ如キモ一時ノ急ヲ救フハ一時ノ政畧ニアリト雖モ國家百年ノ  
 大計ヲ考ルルハ漸々ト男女ノ關係ヲ改メ其俗ヲ變スルヲ甚ク必要ナ  
 リ故ニ英國ノ風俗ヲ取捨シ第一ニハ上等社會ハ上等社會中等ハ中等  
 下等ハ下等各々似合シキ圍範ヲ作ラシメ其圍範内ニ於テ然ル可キ老  
 人ノ監督ノ下ニ年頃ノ男女ヲシテ相見相交ルノ機會ヲ得セシムル  
 第二ニハ父母ノ監督ノ下ニ於テ男女ニ其偶ヲ擇フノ自由ヲ得セシム  
 ル第三ニハ女子ヲシテ廣ク男女ニ交際セシムルヲ務ムルニ然レ  
 共斯ク云ハハ迎今直チニ一躍シテ斯クセヨトノ意味ニハアラヌ五年  
 十年ノ後ヲ期シ後來生長スルノ男女ヲ漸々ト此ノ如キ風俗ニ誘導ス  
 ルニキリ若シ今日ヨリ一時ニ直ニ此風俗ニ改メ移サント務ルト假定  
 シ未ダ公會燕會ニ於テ男女ノ間ニ然ル可キ禮儀作法モ定ラヌ甚ク

不都合ナルコトノ多カレハ誠ニ細事ニ似タレモ男女席ヲ同クシ歡  
 マシ盡ク時杯ヲテ其間ノ行儀作法殊ニ大切ナルモノナリ若シ此作法  
 定マラザレハ親狎ニ過キテ意外ナル大害ヲ生ズルシ禮ヲ守リテ歡ヲ  
 失ハズ歡ヲ盡シテ禮ヲ亂ラサル英國ノ如キ行儀作法アリテコソ始  
 テ淫奔ヲ防セキ會樂ノ本意ヲ達スルコト出來ヘタレ此手段ナクシテ  
 徒ラコ今日直チニ英國ヲ學ハント欲スルハ反テ今日ヲ勝サルノ害ヲ  
 生スルヤモ知ル可ラス篇首ヨリ右ニ論スル所ハ都々テ日本ノ風俗ヲ  
 改ルコト付到着スベキ最後ノ目的ヲ示スモノナリ但シ之ニ到着スルニ  
 ハ一日ヲ以テ千里ノ路ヲ行カント焦急<sup>イラダ</sup>ツ可ラス年一年ヨリ進ミ漸ク  
 以テ遂ニ其期スル所ニ到着スベキノミナリトシテ一ニ急ニ進ムルコト  
 凡ソ事物ノ結果ヲ見テ其真ノ原因不在ル所ヲ知ルハ實ニ至難ノ業ナ  
 リ今一卿一木ノ繁茂スルヲ見ルニ其原因ヲ培養ノ行届タルニ歸ス

ルモノモアラシ良好ナル種子ヲ選ミタルニ歸スルモノモアラシ天然  
 地味ノ肥ハタルニ歸スルモノモアラシ其邊ノ空氣ノ善キニ歸スルモ  
 ノモアラシ然ルニ其實ハ唯々右ノ諸原因中ノ一ニ在ルヲモアルヘク  
 又諸原因ノ集リシニ在ルヲモアラシ又諸原因ノ中ニテ皆此結果ヲ助  
 クレバ其中ニテ特ニ著キモノモアルヲナラン左レハ其眞ノ原因ヲ見  
 出スバ至難ナルモノニテ動モスレハ毎キニ我眼目ヲ迷ハサレ勝ヲナ  
 リ左レハ篇首ニ記シタル英國ノ風俗ニ男子ガ女子ヲ敬シ女子ガ他出  
 シテ人ニ交ルヲ多キノ有様杯ヲ見シ日本人ノ中ニハ此風俗ノ原因ヲ  
 男女同權杯ト云ヘル理窟ヨリ出テタリト思ヒシモノモアルニ似タリ  
 又或ハ女子ノ教育ヲ行届キタルヨリ生ガタリト思フモノモアルニ似  
 タリ然レモ余ノ愚見ニテハ兩者共ニ其原因ヲ誤リタルモノナリ抑  
 男女同權ト云ヘル議論杯ハ極近來ノ說ニテ其重立トナル論者ハ僅カ

五六十年前ニ出テ来ルヲナリ早ク云ハ、同權論者ナルモノハ西洋(就  
 中英國)ニ舊來女子ヲ敬スルノ風俗アルニ乘リテ之ニ幾分ノ理窟ヲ加  
 へ今日男子ノ未タ女子ニ許サ、ル所ノ地位ヲ女子ニ與ヘテ男子ト等  
 シカラシメシメタル者ニ過キス今日ニテアリテ是ノ說ハ未タ實行  
 セタル、場合ニ立至ラズ英國男女ノ關係ハ是ノ論ノ出テサル以前ト  
 今日ト別ニ大ナル差違アルヲナキ姿ナリ然レバ理窟上ヨリ來リシ同  
 權論ハ英國風俗ノ有様ニ未タ左シテ變化スシキ差響ヲ與フルハ違  
 アラサルモノト云フモ可ナリ又タ女子ノ教育盛ニシテ其知識アルカ  
 タメ斯ク男子ニ敬セラル、ト思フハ一理ナルニ似タレ共英國ノ實際  
 ナリノ儘ニ云ハ、女子ノ教育ハ中々男子ニ比スヘキニアラス(勿論  
 東洋諸國ノ女子ニ比スレバ知識ノ勝サリタルヲハ大ナリ又某ノ男子  
 ト某ノ女子トヲ比較セバ或ハ男子ニ勝レル知識ヲ有スル者モアル

ケレトモ男女ノ員數ヲ平均シテ云フキハ女子ハ男子ニ比スレハ其知識甚ク劣リ又女性ハ女性丈アリテ憐ム可ク子供ヲシク見ユル舉動モ甚ク少カラヌコナリ近來ニ至リテコソ女子ヲシテ男子ノ爲スヘキ高等ノ仕事ヲ爲サシムルコトモ始リタレ少シ以前ニハ斯ル例ハ實ニ乏シカリシモノナリ然ルニ英人カ女子ヲ敬スルノ風俗ハ古ク千餘年ノ昔ヨリ既ニ之レアルコトニテ是等ノ時代ニテモ男子ノ婦人ヲ敬スルコトハ甚ク東洋ニ勝レル事實アリ是等ニ由テ觀ルモ纔カニ近來ニ盛ニナリシ女子ノ教育ト女子ノ知識トヲ以テ是ノ風俗ノ原因トナスヘキ道理相立タサルハ分明ナリ然ラハ其ノ眞ノ原因ヲ何レノ處ニ求ムヘキヤト考ルニ唯ク之ヲ「アングルサクソン」人種(少シ之ヨリ廣ク求ムレハ概シテ歐洲北部ノ「トイト」ニツク)人種ト稱スルモ可ナルヘシ)ノ心優サシキ一種ノ天性ヨリ發シタルニ外ナラサルニ似タレ上古蒙昧ノ有様ヲ

考レテ唯ク強キモノ勝チノ世ノ中ニテ強ハ弱ヲ凌キ大ハ小ヲ壓シ後世ニ所謂ル道理ト名ク可キ者ニ因テ其身ヲ檢束スル杯ノコトナキハ東洋西洋共ニ皆同様ナリ是時ニ在テハ男子ハ只腕力ヲ以テ身体ノ弱キ女子ヲ制御シ百事己レノ意ノ如ク振舞ハシムルハ必然ノ勢ナリ近世ニ於テ發見シタル北亞米利加或ハ南亞米利加ノ蕃族ノ風習及ヒ亞非利加澳斯太拉利亞杯ノ風習等ヲ察スルニ道理ノ行レズン腕力ノ世界タル時ニ方テハ其身体柔弱ナル女子ハ常ニ男子ニ壓セラレテ其命ニノミ之レ從フコト一般ノ成行キナリ左レハ未開ノ時ニアリテ身体ノ弱キ女子ハ只ク男子ニ制御セラレ男子ハ又女子ヲ勝手ニ取扱フコトハ之ヲ必然ノ勢ト云フヘキ者コト東方諸國ノ古史ヲ案スルモ往々其迹ヲ見出スコトナリ然ルニ斯ル未開ノ時代ニ於テネテ但ク歐洲ノ西北部ニ生長シタル「トイト」ニツク)人種ノミハ其間ニ在リテ早ク既ニ女子ヲ丁寧

ニ取扱フノ風習ヲ生シ居タリシハ歴史家ノ幾ソト異論ナキ事實ナリ  
 丁抹杯ノ學者中ニハ上古歐洲ニ於テ族制政治上古ニ最モ早ク行ハレ  
 タル政府ノ仕組ノ未タ行ハレザリシ以前ニ一度女子カ男子ト同等ノ  
 權ヲ有シタル時代アリト論スル者モアレ共是ハ姑ク之ヲ舍キ今チ距  
 ルヲ四五百年前ヨリ千三四百年以前マテ七八百年ノ間ハ歐洲ニテ中  
 世ト稱ナヘ理學ノ行ハレサルハ勿論文學ノ如キサヘ全ク地ヲ掃ヒ通  
 常ノ人民ハ字ヲ解シ書ヲ讀ムコトスラ得爲サ、ルコト一般ノ有様ナリシ  
 蒙昧不文ノ時代アリ史家ノ所謂ル歐洲ノ闇黒時代ナルモノナリ之ヲ  
 日本ニ喩トフレハ猶ホ北條足利ノ末世ノ如ク武ヲ尙トヒ腕力ヲ争フ  
 外武人ノ職業ト云フモノハ別ニ之レナカリシ程ノコトニテ是時ニ當テ  
 其日本ニテハ武士ナル者ハ武者修行ニテモ出テ、武藝ヲ競フカ妖怪  
 ヲ退治スルヨリ外ハ別ニ何等ノ目的モ無カリシモノナリ然ルニ歐洲

ノ武士ハ皆ナ武者修行ニ出ル第一ノ目的トシ先ツ他人ヨリ害ヲ被リ  
 タル女子ヲ尋テ其害ヲ除キ遣リ之ヲ保護スルノ榮譽ヲ得ント勉メタ  
 ルコト多キ者ナリ左レハ然ルヘキ武士ハ然ルヘキ婦人ヲ見立テ之ヲ  
 扶助保護シテ功名ヲ立テント競フコト其平生ノ心掛ナリシナリ同様ノ  
 闇黒世界ニ在テ歐洲ノ武士カ女子ヲ愛敬スルノ有様既ニ斯ク東洋ニ  
 異ナレリ又是ノ時代ニハ諸侯ノ城中杯ニテハ時々武士ヲ集メテ槍劍  
 等ノ仕合ヲナサシムルコトナリシカスル仕合ニ於テ尤モ人ニ拔ンテタ  
 ル武士ヲ賞スルニハ必ス高貴ノ婦人ヲシテ手ツカラ賞與ノ印ヲ授ケ  
 シメ之ヲ得タルモノハ婦人ノ手ヨリ受ケタルヲ以テ非常ノ榮譽トナ  
 セシコトナリ是等モ亦タ歐洲ノ武士ノ氣象カ既ニ迥カニ東洋ニ異ナリ  
 タルノ一証ナリ又村落ノ人民カ集リテ游歡ヲナス時ニモ美貌ノ女子  
 ヲ選テ女帝ト號シ他ノ男女ハ之ニ事フルノ有様ヲナシテ舞蹈杯ヲナ

夫風俗モアリ英國ノ如キハ村落ニ因リテ此種類ノ踊リ今日マテモ尙  
 存セル處アリト云フ是等ハ只タ一時ノ戯トハ云ヒ乍ラ亦タ以テ女子  
 ナ崇敬スル風俗ノ一斑ヲ見ルニ足ルモノナリ又「トイトニック」八種ノ國  
 ニハ往々女子ヲシテ帝王ノ位ヲ踐マシメ之ニ事ルモノ其ノ例少カラ  
 ス是レ亦タ一般風俗ノ女子ヲ崇敬スル一証ナリ今何故ニ蒙昧ノ時世  
 ヲリ斯ク事毎ニ女子ヲ崇敬スル姿ヲ生シタルカト尋ヌルニ唯タ「トイ  
 トニック」種ノ男子ノ一種心優サシキ天性アルヨリニ外ナラサルナリ若  
 シ是ノ心優サシキ天性ナクンハ蒙昧ノ時世己レヨリ弱キモノヲ壓ス  
 ルニ將タ何ノ憚ル所カアラソ唯タ其天性ニ心優サシキ所アレハコソ  
 我腕力ヲ以テ之ヲ壓シ得ヘキ柔和ナルモノニ向ヒ却テ憐ミヲ垂レテ  
 之ヲ保護スル様ニナルナリ既ニ男子ノ方ニ是ノ憐ミヲ垂レ弱キヲ扶  
 クルトノ心持アルキハ必ラス女子ヲシテ深室ニノミ閉居セシメス外

ニ出テ、他人ニ接スル風俗ヲモ生セシムヘキハ自然ノ道行ナリ又一  
 タヒ女子カ外ニ出テ、公私ノ會ニ與カルヲ出來ル様ニナレハ男子ノ  
 方ニテモ益々女子ヲ崇敬スルノ風儀ヲ養成スヘキモ自然ノ勢ナリ故  
 ニ右ノ兩者ハ互ニ因トナリ果トナリテ終ニ今日ノ風俗ヲナセシモノ  
 ナリ「トイトニック」種ノ是ノ風俗ハ耶蘇教ノ力ニ非スシテ同教ヲ奉セサ  
 ル以前ヨリ已ニ其ノ古俗ナリシ「ハ史家之ヲ論スルモノ多シ」今試ニ  
 東洋ノ古史ヲ案シテ女子ハ男子ヨリ如何ナル取扱ヲ受ケタルヤヲ思  
 考セヨ中古孔孟ノ教ノ勢ヲ得タル以後ハ無論ナレハ差置キ其ノ以前  
 夏殷周杯ノ遺書ニ因テ考ルニ支那杯ノ男子ニハ毫モ己レヨリ弱キ異  
 性ノ女子ヲ丁寧ニ取扱ヒ又ハ之ヲ憐愛崇敬スルト云フ歐洲ノ風俗ノ  
 類ハ曾テ其迹タニモ見ル「能ハス勿論女子ヲ虐遇スルヲ可トスルヲ  
 說クモノハ更ニ之レ無ク憐ミ慈シメトハ說クト雖モ左レハ逆又歐洲

中世ノ武士ノ如ク之ヲ愛敬セヨト勸ムルカ如キ説ハ曾テ影タニモ見  
 出スヲ能ハサルナリ右ハ唯々理窟ノ檢束ナク獨リ天性ノミニ從テ人  
 類カ身持ヲナス時代ナル蒙昧ノ昔ヲ比較スルモノナルニ支那杯ニハ  
 斯ク更ニ女子ヲ愛敬スルノ迹ナキハ其人種ノ天性ニトイトニツク種  
 ノ如キ一種ノ心優サシキ處ヲ有セサルカ故ニハアラサルヤト思ハル  
 ヲナリ日本ニモ支那ノ文物ノ入込ミタル以後ハ其爲メニ化セラル  
 カ故ニ支那ト同様ニ爲リタルハ勿論ナリ然レモ其以前ノ古史ヲ案ス  
 レハ天照皇大神ノ如キハ女性ニテ在シマセシト説ク者古今ノ通論ナ  
 リ其弟ノ暴行ヲ怒ラセ玉ヒテ自カラ屏居シ玉フ杯ノ行ハ如何ニモ柔  
 和ナル女性ノ性質ニテ決テ男子ニ等シキ慄悍ナル性質ニハ在ラセラ  
 レサリシモノナリ然ルニ假トヒ聖明ニ渡ラセ玉ヘハトテ斯クマテ柔  
 和ナル女性ヲ戴キ群臣カ之ニ服從セシハ我古俗モ少ク支那ニ異ナル

所アルヤトモ思ハルハナリ支那ニハ古代ニ於テ斯ク女子ヲ奉シタル  
 例ハ未ダ嘗テ之ヲ見サル様ナリ去リ乍ラ我古俗ハ兎モアレ今日ニ至  
 リテハ殆ト支那ト均シキ有様ヲナシ居ルヲナレハ茲ハ篤ト注意スヘ  
 キヲナリ又今日ニ遺存スル希臘ノ諸書ヲ讀ムニトイトニツク種ホドニ  
 ハアラチトモ希臘人モ女子ヲ愛敬スルノ性質ハ甚々東洋諸國ニ勝レ  
 ル所アリ古ノ羅馬ノ如キニ至テモ猶ホ東洋ニハ勝レル所アルヲ覺フ  
 ルナリ

右ノ一節ヲ熟讀シナハ英國今日ノ風俗ハ決シテ男女同權杯ト云ヘル  
 理窟上ヨリ來リシ者ニ非ス又婦人ニ知識アリテ男子ヲシテ畏レ憚カ  
 ラシムルヨリ生セシニモ非ス其本ハ只々男子ノ方ニ存スル一種ノ心  
 優サシキ天性ヨリ生シ來リシモノナリトノ真相ヲ看破シ得ヘキナリ  
 抑モ女子ノ身体容貌優柔ニシテ其性質モ亦々温和ナル等ノ有様ハ都



へテ男子ノ愛ヲ鍾ツムル所以ノ情由ニシテ凡ソ是ノ性質ノ分量ヲ愈  
 々多ク有スル女子程愈々多ク男子ニ愛セラレ之ニ反スルモノハ亦々  
 之ニ反ス是レ自然ノ情理ナレハ幾千百ノ歲月ヲ累サヌル内ニハ又々  
 男子ニ愛セラレ、性質ノ分量多キ女子程其子孫ノ蔓延モ廣キ譯トナ  
 リ其少キ者程次第ニ其子孫減少スヘキト即チ世態進化ノ本理ナレハ  
 早ク云ハ、時世ヲ經ル程女子ノ身体優柔、性質温和ト云ヘル風益々増  
 長スル筈ノモノナリ故ニ今日ノ世ノ中ニ於テ女子ノ身体性質ノ迥カ  
 ニ男子ニ異ナリテ優和ナル趣ヲナセル者ハ即チ上古ヨリノ進化ニテ  
 段々ト此ヲ致シタルモノナルヲ知ルヘシ今マ是ノ點ヲ踏マヘテ歐洲  
 男女ノ風俗ノ由來ヲ考フルモ男子カ女子ヲ敬待スルハ全ク男子天性  
 ノ心優サシキ處ヨリ自カラ好ミテ之ヲ敬待スル者ニシテ決テ女子ノ  
 方ヨリ要求ノ間敷事ヲ仕掛ケテ之ヲ得タル者ニアラサルコトハ分明ナ

ルヘシ何トナレハ今日歐洲ノ女子ノ身体性質ヲ見レハ其上古ヨリ進  
 化ノ理路ヲ踐ミテ段々ト其優柔温和ヲ養ヒ來リシ者タルコトハ疑ヒナ  
 シ若シ是ノ女子ニシテ上古ノ昔ヨリ其自分ノ權利ヲ主張シ男子ト同  
 等ノ位地ヲ争ヒ居タルモノナラシメシニハ其身体性質ハ自然常ニ男  
 子ト顛顛スル方ニ傾クカ故ニ必ス其優柔温和ノ趣ヲ失ヒ今日ノ如キ  
 身体性質ナハ成サザリシ譯ナリ將タ今日ノ如ク優柔温和ノ趣ヲ成シ  
 居ルコト事實ニテ又是ノ事實ハ上古ヨリノ進化ニテ養ヒ來リタル結果  
 ナリトノ争フ可ラサル者ナリトセハ其女子ノ方ヨリ己レノ權利地  
 位ニ付要求ケ間敷事ヲ仕掛ケ男子ニ顛顛スル杯ノ事ハ昔ヨリ毛頭之  
 レナカリシヲ推量スヘシ女子未ダ嘗テ之ヲ求メタルコト非スシテ而カ  
 モ現ニ之ヲ得居ル今日ノ如キ有様アルカラニハ之ヲ男子ヨリ自ラ好  
 ミテ與ヘタル者ト云ハスコトハ復タ其ノ出處ナカルヘキナリ英國杯ニ

ナハ今日女子自カラ業ヲ營ミテ或ハ簿記方或ハ出納方或ハ教師或ハ  
 技術師等ノ地位ニアルモノ頗ル多シ然レモ是等迎モ概テ男子カ之ト  
 競争セスシテ女子ニ讓リ以テ其地位ヲ與ルノ有様ナリ又英ニテハ現  
 在下男ニハ税ヲ課シテ下女ニハ免稅スルカ如キモ亦タ皆ナ同様ノ精  
 神ヨリ來リシモノニテ男子カ女子ヲ容ル、ノ有様ヨリ生シタルニ過  
 キサルノミ

他ニ倣テ事物ヲ改良セント欲スルモノハ其原因ヲ誤解セサルヲ必要  
 ナリ眞ノ原因ハ甲ニアルモノヲ誤テ乙ナリト認メ乙ヲ以テ甲ノ結果  
 ナ収メント欲セハ勞多クシテ功少キノミナラス却テ意外ナル弊ヲ生  
 スルヲアリ然レハ英國ノ如ク女子ヲ敬スルノ風俗ヲ生セシメント欲  
 シ其原因ヲ理窟上ニ求メ男女同權論コソ眞ニ日本ノ風俗ヲ改ムルニ  
 足ルヘシト思フモノアラハ其希望スル結果ヲ収メ得サルノミナラス

或ハ女子ニ必要ナル優柔温和ノ形体性質ヲモ失ハシムルニ至ルヘシ  
 將タ或ハ女子ノ教育ヲ進メ女子ノ方ヲ改良シテ以テ男子ヲシテ女子  
 ナ敬セシムルノ結果ヲ収メント欲スルモノアルヤモ計ラレス然レモ  
 是亦タ原因ヲ誤ルモノニテ如何ニ女子ニ知識アラシムルトモ男子ヲ  
 服セシムル程ニ至リ得ヘキモノニモアラズ女子ヲシテ男子ニ抗スル  
 ノ氣象ヲ養ハシメハ却テ其身ニ大切ナル優柔温和ノ形体性質ヲ失フ  
 ナ免レサルヘシ故ニ世人若シ英國ノ風俗ヲ學ハント欲セハ女子ノ方  
 ナ捨テ先ツ男子ノ方ヲ改良スルコソ順序ナルヘシ凡ソ事ヲ行フニハ  
 實際ニ之ヲ行ハレシムルノ筋道アルモノニテ苟モ是ニ由ラサレハ如  
 何ニ其論ハ尤モニ聞ユトモ決テ實際ニ行ハルヘキモノニ非ス世ノ中  
 ニハ至極尤モラシク見ユル論ニテ決テ實際ニ行ハレサルモノ隨分ト  
 アル者ナルカ是ハ唯々之ヲシテ行ハレシムルノ筋道ヲ得サルヨリノ

「ナリ右ニ云フ如ク日本ノ男子ヲ改良セント欲スルニハ先ツ年頃ノ男女ヲシテ廣ク相見相交ハラシムルノ機會ヲ得セシメ又女子ヲシテ漸々ニ公私ノ會ニ列セシムルヲ以テ男子ヲ改良スルノ眞ノ道筋トスヘキナリ若シ斯ル風俗ヲシテ行ハレシメナハ誰レカ其愛スル所ノ女子ヲ敬セサルモノアラシ又誰レカ其敬スル所ノ人ノ妻女ヲ敬セサルモノアラシ如クシハ男子ヲシテ女子ヲ敬スルノ性ヲ養ハレシムルコト甚ク難カラサルヘキナリ

凡ソ信切コ世ノ患ヲ濟クハント欲スルモノハ之ヲ濟ククノ方法ヲ案シ出スノミナラス又其方法ノ果シテ行ハルヘキヤ否ヤヲ注意セサル可ラス前記スル如ク事ヲ行フニハ自カラ其筋道アリテ之ニ從ヒ行クコト肝要ナリ例セハ日本ノ年若キ男女ノ不品行ヲ矯メントテ直ニ其罪ヲ婢妾ヲ蓄ヘ藝娼妓ニ戯ルニ歸シ痛ク是等ヲ攻撃廢止セハ以テ邦

人ノ品行ヲ改良スルニ足ルヘシト考ルモノモアルヘシ然レモ是等ハ未ダ之ヲ行フノ筋道ニ通セサルノ論ニテ其論ハ善キニ似タルモ到底之ヲ行ヒ得ヘカラサルヘシ何トナレハ男女ノ情ハ人ノ天性ニテ之ヲ善キ方向ニハ導クコトハ出來ヘケレモ決テ之ヲ壓伏シ得ヘキモノニハアラス然ルニ男女ノ情慾ヲ慰セシムルノ道チ一方ニ開クコト英國ノ如クナラス唯ク其情ヲ壓伏セント欲スルハ豈是レ行ヒ得ヘキノコトランヤ好シ之ヲ此ニ壓伏シタリトモ又必ス彼レニ噴出スヘキナリ故ニ斯ル無謀ノ手段ヲ取ランヨリハ先ツ英國ノ如ク年頃ノ男女ヲシテ相見相交ハリ且ツ其偶ヲ擇フノ自由ヲ得セシムヘシ然ルモ前ニモ記セシ如ク婚禮ニ至ラサルマテモ男女互ニ其情ヲ慰スルヲ得ルカ故男子ノ方ニテモ良家ノ女子ニ交ルヲ喜ヒテ自然婢妾ヲ蓄ヘ藝娼妓ニ慣ルヲ慚ク藝娼妓ノ如キハ之ヲ打棄テ置ク共自然勢ヲ失フテ次第

ニ述ヲ掃フ様ニナルヘキハ明白ナリ是ヲ之レ日本ノ風俗ヲ改良シ得ルノ道筋ト云フヘシ若シ但タ青年ノ子弟ノ身持ヲノミ答メ其情欲ヲ壓伏セントスルヲ源アルノ水ヲ止ルカ如キヲナサハ安クニカ決潰シテ大害ヲナサ、ランヤ世ノ弊ヲ救フニ急ナルノ論者又ハ年老テ己レノ情欲既ニ衰ヘタルモノ杯ハ子弟ヲ責ムルニ天性ニ戻ルノ嚴行ヲ以テスルモノ多シ其論ハ至極宜シキモ實際ニハ甚タ行ヒ難キモノナキニアラス眞ノ世故ニ通スル者能ク其可否ヲ判スヘキノミ

前ニ述タル男女同權女子教育ノ二條ハ唯之ヲ以テ英國今日ノ風俗ノ眞ノ原因ニアラスナルヲ示メセシマデニテ余ハ決テ此事ヲ非トスルノ意味ニハアラス宙ニ非トセサルノミナラス率先懲慝シテモ此事ハ漸々ニ之ヲ實際ニ施シ行クニハ女子ヲシテ男子ニ等シキ地位ヲ得セシメ又其教育モ務テ之ヲ高クシ孤居シテハ自立生活ヲ營ムヲ得嫁シ

テハ夫ヲ助ケ子ヲ教ルニ十分ノ力ヲ得セシメ度事ハ勿論希望スル所ナリ唯原因ヲ見誤ル者ノ非ヲ示サントテ之ヲ論シタリシコトナレハ讀者ハ之ヲ誤解スル勿レ

前ニ述ヘタル如ク眞ノ原因ヲ見出シ先ツ之ヲ行フハ勞セスシテ其ノ結果ヲ収ムルヲ出来ヘキニ動モスレハ之ヲ誤認シテ全ク似テ而テ非ナル者ヲ行ハントスルノ失アルヲ免レサルヲ多キ他ノ一例ヲ示サムニ日本杯ニ比スレハ英國男女ノ婚姻ノ遅キヲ見テ之ヲ其ノ知識ノ優サレト生活ノ難キトニ歸スル論者アリ如何ニモ是等モ幾分ノ原因ヲササルニハアラス然レモ其ノ重ナルモノヲ求ムレハ眞ノ原因ハ英國ノ女子カ廣ク他人ニ交リ交際ヲ爲スノ風俗アルニ因レリ是ノ風俗アルカ故ニ一タヒ妻ヲ迎ルノ男子ハ其ノ妻ヲシテ廣ク他人ニ交際往來セシムルニ耻カシカラヌ程ノ衣服萬端ヲ供給セテハナラヌト

云フ大任アリ若シ之ヲ辨スルヲ能ハサレハ世間ニ對シテ己ノ面目ヲ  
 欠クノミナラス其ノ妻ニ迄働キノ無キ男子ト見下ケラレ自ラ室家ノ  
 和合ヲ失フニモ至ル可シ一般ノ習トシテ是等ノ事ハ男女共カチテ熟  
 知シ居ルカ故ニ其結約丈ハ早ク爲スモ婚儀ヲハ容易ニ舉行スルヲチ  
 難ハカリ自然延ヒヨクニナルヲナリ又男女共ニ後來ノ生活ヲ考フル  
 カ故ニ成ルヘクハ資産ノ豊カナル者ト婚嫁セント心掛クル情アリ男  
 子ノ方杯コテハ先ツ其ノ資産ヲ作ルヲ以テ妻ヲ娶ルヲ得ルノ近道  
 ト爲ス位又々實際近道ナルヲナリ是レ亦タ各々其自分ノ事業ヲ先ト  
 シ婚禮ヲ後トスル様ニナル所以ナリ若シ是ノ風俗無クシテ日本杯ノ  
 如ク女子ニ交際ノ道少ク其門外ノ付合迎ハ唯々親族ノ間ヲ往來スル  
 位ノ事ニ止マラシメハ如何ニ英國ノ生活カ難ケレハトテ一人ノ妻ヲ  
 養ヒ之レニ通常ノ衣食ヲ供給スルヲ難ハカル者アラシヤ然レハ英ニ

早婚ノ弊少キ眞ノ原因ハ此ニ在テ彼ニ在ラサルヲ知ル可シ英國ニテ  
 モ資産ニ富メル者ハ割合ニ早ク婚姻スル者多ク又極下等ノ者ハ早ク  
 婚姻スル者多キハ則チ右ノ理ニ因ル者ナリ上等ノ富家ナレハ費用ノ  
 屈托ナク又下等ノ貧民ナレハ其ノ女子カ廣ク交ハレハトテ相往來ス  
 ル所ノ者皆チ貧シキカ故ニ割合ニ恥ツル所少ク世間ノ外聞ヲモ構フ  
 檢束ナケレハナリ左レハ早婚ヲ制スル眞ノ原因タル女子ノ交際少  
 シク廣カリナハ日本ニテモ英國同様早婚ノ弊ヲ無クスル方ニ次第ト  
 近ツクテ出來可キナリ  
 又女子ノ交際廣ケレハ人ノ婢妾ト爲ル者ハ人ノ妻タル者ノ如ク公私  
 ノ宴會ニモ列スルヲ得サルノ罰アル可ク又如何ニ下等ノ生活ヲナズ  
 者トテ正當ノ女子ノ交際ノ圍範内ニハ是等ノ者ヲ擯斥シテ立入ル  
 事許サレケレハ何人ト雖モ公然ト人ノ婢妾ト爲ルヲ耻チサル日

本今日ノ如キノ弊ヲ減ス可キナリ英國トテモ往々妾ヲ蓄フル者ナキ  
 ニモアラテヒ秘シ得可キ丈ケ之ヲ秘シテ己レヨリ外他人ニ之ヲ知ラ  
 シメサル程ノ有様ナリ又妾トナル者モ一生其ノ身ヲ埋木<sup>ウモレキ</sup>トナスノ覺  
 悟ニテ人中ニ立テ交リ得サルノ有様ナリ斯クアリテコソ然ルヘキ  
 ト思ハル然レハ女子交際ノ道廣カリナハ日本モ亦妾ノ弊風ヲ減  
 スルノ一大利益ヲモ併セ収ムルコト出來可シト考ルナリ若シ女子ノ交  
 際廣カラスンハ正妻ト爲テ暮ラスモ閉居ノ有様ナリ婢妾ト爲ルモ同  
 様ナリ然ラハ双方ノ間ニ別ニ撰フ所ナク何レト爲ルモ先ツ同様ノ姿  
 ニテ損得ナキ譯ケニアラスヤ是亦妾ノ生涯ヲ惡マサルノ女子多  
 キ一原因ヲ爲スコトナリ  
 又男女チレテ相交リ相擇フノ自由ヲ得セシムルキハ男女共ニ其ノ身  
 ヲ慎ムコト意外ニ甚シカル可シ今日ノ日本ノ如ク女子ハ人ニ嫁スルニ

毫モ己レノ働ヲ用ルコト無ク我身ヲ研クコト無キモ傍ラニ父母アリテ其  
 ノ偶ヲ求メ之ヲ嫁セシムルコトナレハ云ハ、氣樂ナル境界ナリ然ルニ  
 英國コテハ互ニ自分ノ鑑定ヲ以テ相擇フ者通例ナルカ故ニ或ハ年頃  
 ナ過ル迄其ノ偶ヲ得ス途ニ一生ヲ獨身ニテ過ス者甚タ少カラサルコ  
 ナリ亦タ以テ英國ノ女子カ其擇ヒヲ慎ミ心ヲ勞スル趣ヲ知ルニ足レ  
 リ既ニ其ノ心ヲ勞スルコト斯ク多ケレハ多キ丈ニ從テ己ヲ研キ其ノ身  
 持ハ勿論言語應待ノ細事ニ至ル迄自然ト十分ニ意ヲ留ムルニ至ルノ  
 有様ハ又タ推量スルニ難カラサル可シ概シタル所日本ノ男子ハ事宜  
 ニ因テハ婢妾ヲ蓄ハヘ得ルカ故ニ妾ヲ娶ルヲ重スルコト英人ノ如クナ  
 ラス故ニ大抵ノ女子ナレハ之ヲ娶ル者ト云フノ有様アリ一方ノ男子  
 カ斯ル心持故ニ女子ノ父母タル者ノ方ニテ其女子ヲ嫁セシムルコトモ  
 容易ナリ故ニ其仕付ケモ先ツ大抵ノ事ニテ相濟ム譯ナリ撮マシテ言

ハ、日本ノ女子ハ人ニ嫁スルノ骨折少ナク其ノ骨折少ナキ程又從テ己レヲ研クノ注意モ少ナキ者ト云フ可シ

英國ニテ年頃ノ男女カ相見相交ル間ニ割合ニ淫奔ノ風少ナク又結約以後婚禮迄ノ間許多ノ長キ歲月ヲモ待テ得ルハ一ハ其國ノ氣候ノ寒キト其人種ニ格別勘辨強キ性質アルトニ因ル者ナリ凡ヘテ氣候ノ温暖ナル程人類ノ情欲ノ發生ヲ促スヲ甚タ強キ者ナリ北地ノ民ハ寒キ氣候ノ中ニ住居スルガ故ニ其ノ情欲ヲ發スルノ年頃モ亦タ遅ク之ヲ抑ルヲモ亦タ容易ナルノ便利アリ是レ歐洲北部ノ人民カ男女婚姻ノ上ニ於テ大ニ天然ノ便利ヲ受クル所以ナリ日本ニテ箱館ヲ極北ノ地ト思ヘ共英國ノ龍動佛國ノ巴里曼國ノ伯林等ノ如キハ幾ント樺太千島ト相似タル北緯ノ位置ニ在ル者ナリ左レハ男女婚姻ノ年頃ノ如キモ從テ甚タ遅ク是等ノ國々就中英國ニテハ男子ニシテ三十前後女子ニシテ二十五六前後ヲ婚姻ノ通例ノ年頃ト爲スニ似タリ二十三四

チ娘盛リト爲シ十八十九チ子供ト爲スヲ聞カハ外國慣レサル日本ノ男女ニハ定メテ不思議ニ思フ者モアル可シ然レモ是ハ實際ノ物語リナリ

歐洲北部ノ國々ニハ斯ク氣候ノ便利アリト云フト雖モ日本ノ氣候ト比較スルニ想ヒシ程ニモナク左シタル差異ハナキヲナリ日本ノ氣候ハ決シテ前記セル英國ノ風俗ヲ行ヒ難シト考ユ可キ程ニ熱スルニモアラス若シ注意シテ行ヒナハ必ス行ハレ得可シト信スルナリ唯タ婚姻ノ年頃ノ如キニ至テハ英國杯ニ比較シテ二三年ヲ早ムル方過マテ少カル可キナリ元來情欲ノ發動強ク何事ニモ勘辨少ナキ人種ニハ右ノ風俗ハ無論行ヒ難キ者ナリ日本ノ人種ヲ歐洲北部ノ人種ニ比スレハ其ノ發情ハ少シク強キ方ナルカ如クナレモ右ノ風俗ヲ行ヒ得ラレ

サル程ノ大差異アリトモ覺ヘス然レハ漸チ以テ日本ノ風ヲ移シ俗ヲ改ルコト是レ豈望ミ難キノ事ナランヤ

## 第二章 兵備及ヒ兵器等ノ事

歐洲大陸ニ遊テ佛國伊國<sup>佛國</sup>ノ兵隊ノ有様ヲ見ルニ近衛兵等ノ如キ別段ニ精選セシ者ハ格別ナレ共通例ノ兵隊ナレハ其ノ身体モ甚タ長大ナラス又其ノ衣服等モ或ハ淺黄或ハ紺羅紗<sup>紺羅紗</sup>杯ノハク、トシテ身體ニ適合セサル粗末ナル者ヲ着ケ小隊中隊ニテ街上ヲ往來スル有様ハ日本ノ兵隊ト左ニタル差異ナキニ似タリ勿論其ノ身体ハ概シテ日本人ヨリ幾分カ大ナル方ナリト雖<sup>ニ</sup>先ツ大抵ハ相ヒ似タル者ト云テ可ナリ又其ノ服裝ノ前ニ述ヘタルカ如キニ其腰ニ四角ナル「ガッサイ」袋ヲブテ、ト着ケタル有様杯ハ甚タ田舎ビテ見ユルコトナリ就中伊國ノ兵士ノ如キハ佛人ニ比スレハ身ノ丈ケモ低ク日本ノ兵隊ヲ以テ之



二當ルモ決シテ劣ルマシト思ハル、程ナリ歐洲諸國共ニ皆ナ徴兵ノ  
 法ヲ用ヒ常備兵ノ數ニテモ幾十万人ニ上ルコナレハ勿論其ノ軍服杯  
 モ一々各人ノ身体ニ合セテ之ヲ仕立ルコハ甚タ入費多キカ故ニ唯大  
 中小三通リノ符調ヲ以テ之ヲ仕立テ各隊ニ割リ渡スコナレハ其ノ着  
 用ノ上ニテ斯ノ如ク無恰好ニ見ユル様ニナルモ亦タ餘義ナキ次第ナ  
 リ之ニ反シテ英國ノ兵隊ハ其ノ身体ノ美事ニ長大ニシテ其ノ軍服モ  
 亦タ各人ノ体ニ適合シ一見シテ直ニ歐洲ノ他國ノ兵ニ異ナルヲ覺ル  
 ナリ然ル所以ノ者ハ英國ハ志願ノ者ヲ募テ兵隊ト爲シ身体長大ナル  
 合格ノ者ニ非サレハ之ヲ採用セサルカ故ニ兵隊ノ身体モ斯ク打揃テ  
 皆ナ長大ナルコナリ又其ノ軍服モ各人銘々ノ体ニ合セテ之ヲ仕立ル  
 カ故ニ甚タ美事ニ見ユルコナリ何レノ國ノ兵士カ實地ニ臨テ最モ用  
 ルニ足ル可キヤハ戰ヲ交ルノ時ニアラサレハ之ヲ前知シ得可キ者ニ

アラサレハ姑ク其ノ論ヲ措キ右ハ唯一寸見タル所ノ諸國ノ兵隊ノ外  
 貌ヲ云フ者ナリ

其ノ國ヲ守ルカ爲ニ徴兵ノ法ヲ用ルハ實ニ止ムヲ得サル者ナリ然レ  
 ニ徴兵法ニ就テ人民ノ之ヲ困ムノ情ハ亦タ歐洲諸國概テ皆ナ同様ニ  
 テ現ニ曼國ノ如キ二十年以來年々絶ヘス幾万ノ人民カ其父母ノ郷里  
 ヲ去リ遠ク海外ノ米國ニ移住スルモノハ則テ專ラ是ノ徴兵ノ苦ヲ免  
 レント欲シテノコナリ又手近キ事實ヲ云ハ、兩三ヶ月前ノボルガリ  
 ヤトセルピヤトノ戰爭中セルピヤカ後備軍ヲ呼ヒ出タスニ當リ丁壯  
 ノ者共カ之ヲ免レント勉ルカタメ自ラ支体ヲ害フテ故ラニ片輪不具  
 ト爲リ其掛リヲ欺カントシ却テ官吏ノ爲メニ見出タサレテ銃殺ノ刑  
 ニ行レタル者モ夥多アリキ又曼國ノ掟ハ其ノ人民一端本國ヲ去リ他  
 國ニ出稼キヲ爲シ居ル者ト雖モ先方駐在ノ曼國領事之ヲ檢査シ兵役

合格ノ者ト認ルキハ之ヲ本國ニ差シ返シテ兵役ニ就カシムルコトナリ然レモ遠國ニ出稼シ居ル者ハ領事モ其ノ情ヲ察シ醫師ヲシテ之ヲ檢査セシムルノ時ニ大抵ハ之ヲ不合格ノ者ト認メテ免役セシムルコトナリ故ニ是ノ特典ヲ得ントテ出稼ヲ爲ス者モ頗ル多キコトナリ是モ亦タ人民カ兵役ヲ困ムノ一証ナリ其ノ他諸國ニ於テ人民カ徵兵法ヲ困ムノ事實ハ甚タ多キコトニテ之ヲ行フハ元ト止ムヲ得サルニ出ルトハ云ヒ乍ラ一方ヲ顧レハ又歎ハシキ有様ナキニアラス然ルニ諸強國ノ間ニ立テ獨リ是ノ苦情ナキハ唯一ノ英國アルノミ

當時英國ニテハ内ニ屯シ外ヲ鎮スルノ常備軍ノ總數凡ソ二十餘万人ナリ然ルニ是ノ兵隊ハ彼ノ徵兵法ヲ用ルカ如ク人民ノ好マサル者ヲ強テ之ヲ兵ト爲スノ類ニアラスシテ國民中ノ兵士ト爲ラント欲スル志願者ヲ募リ之ヲ編制シテ常備軍ト爲スモノナル故ニ他ノ歐洲諸國

ノ如ク徵兵ノ苦情モナク又斯シテ徵募スルカ故ニ身体長大ナル者ヲ精選スルコトモ難カラサル譯ナリ(尤モ右二十万人ノ中ニハ印度ノ屯兵中ノ土人幾干ヲモ籠メタル數ナレモ全体ノ過半ハ皆ナ英人ナリ)右ノ如ク他ノ諸國ハ人民ノ好ムト好マサルトニ論ナク是非共皆一度ハ兵役ニ服セサルヲ得ス從テ其苦情モ甚タ多キコトナルニ獨リ英國ノミ斯ク九ク整リテ徵兵ノ苦情ナキヲ得ルハ實ニ一種ノ國柄ト云フ可シ去リ乍ラ英國カ他ノ諸國ノ如ク徵兵法ヲ行ハス只タ募兵ノミニテ不都合ナク行カルハ本ト全ク其國ノ地勢ノ之ヲシテ然ラシムル者ナリ世人ノ知ル如ク同國ハ恰モ日本ノ如キ地形ニテ四面皆ナ海ナル大島國ナレハ若シ海軍ヲ以テ敵ノ進入ヲ防クヲ得ハ陸軍ハ差シテ要用ナラス而シテ英國ノ海軍ノ諸國ニ勝レタルハ何人モ之ヲ許ス程ノコトナレハ其ノ力ハ敵ノ進入ヲ防クニ餘リ有ルヲ知ル可キナリ故ニ其ノ敵

國タル露國ニ九十七万ノ常備軍アリ曼國ニ四十四万ノ常備軍アリ佛國ニ五十一万ノ常備軍アルニモ拘ラス英國ハ僅ニ二十餘万ノ陸軍ヲ以テ未タ嘗テ其不足ノ憂アルコトヲ見ス斯ク其ノ陸軍少數ニテ事足レハコソ則チ募兵ノ法ヲ用ルチ得ルコトナリ募兵ハ徵兵ニ比スレハ一ト際其ノ手當チ厚クセサレハ志願者少ナキカ故ニ一人ノ兵士ヲ養フ上ニテモ徵兵法ニ比スレハ其ノ入費甚タ多キコトヲ知ル可シ故ニ佛國曼國杯ノ如ク四五十万以上ノ大兵ヲ要スル者カ英國ノ如ク只タ募兵法ノミニ因リテ之ヲ備ヘント欲スルキハ其ノ費用莫大ニシテ容易ニ之ヲ行ヒ得可カラサル譯アルナリ

斯ク英國ニテ徵兵ノ法ナク兵ト爲ルチ好マサル人民ハ嘗テ兵事ニ關スルコトナク一國ノ兵備チ僅カニ十万二十万ノ募兵ニノミ任セ置キ之ヲ顧ミサルキハ英國ノ人氣ハ次第ニ懦弱ニ陥リ其ノ極ハ國勢モ漸々

ト衰ルニ至ル可シト危フミ思フ者モアラン如何ニモ斯ノ如クナレハ英人ハ次第ニ壯武ノ風ヲ失ヒ亡國ノ基ヲ開ク可キ筈ナリ然ルニ流石ハ英人丈ケアリテ是ノ弊ヲ救フカ爲メニ義勇兵ト名ル一種ノ仕組ヲ設ケアリ是ノ仕組ハ我々ノ目ニモ實ニ羨マシク見ユル者ナリ其ノ仕組ヲ畧記セハ英國ハ地方地方ニ隊々ノ組合アリテ苟モ義勇兵ト爲ラント欲スル者ハ各々其ノ屬セント欲スル所ノ隊ニ申シ込ミ之レニ編入セラルハコトナリ而シテ義勇兵ト爲ルキハ其ノ隊ノ軍服ハ勿論其ノ兵器調度ニ至ルマテ大抵ハ銘々ニ之ヲ支辨スルコトナリ勿論此レニハ政府ノ定メタル規則アリテ其ノ費用ノ幾分カ些カナカラモ政府ヨリ之ヲ補助スル様ナリ居レモ大抵ハ先ツ自辨ト云テ可ナリ是ノ義勇兵ハ隊々ニ因リテ軍服チ異ニシ或ハ赤服ノ隊アリ或ハ青服ノ隊アリ或ハ黒服ノ隊アリ或ハ蘇蘭ノ古服ニ摸セシ服ノ隊モアリ貴族チ始メト

シ中等社會ニ至ル迄年若キ人々ハ是ノ義勇兵ニ屬スルヲ以テ一種ノ得意ノ事ト爲スノ有様ナリ中等ノ人々ハ勿論下等ノ上位<sup>クライ</sup>ニ至ル迄ハ銘々日々ノ職業ニ忙シク常ニ訓練ノ稽古ヲナスヘキ暇モナケレト唯土曜日ハ半日休業ノ姿ニテ義勇兵ノ小訓練杯ヲ爲スニハ恰好ノ時間ナレハ青年ノ子弟ハ是ノ日ニ於テ思ヒ々々ノ服ヲ着ケ小銃ヲ擔テ三々五々市中ヲ徘徊スル者夥シキヲナリ其ノ政府ハ之ヲ強テ兵ト爲サント欲スルニモアラサルニ人民自ラ好テ兵ト爲リ國ヲ護ルカ爲メニ隊ヲ組ミ伍ヲ結ヒ平常ハ各々其ノ職業ヲ力メ少シク閑アルノ時ニハ兵器ヲ把リ國ヲ護ルノ技術ニ勉強ス是レ本ト自治ノ國ニシテ人民カ、國ヲ思フヲ家ヲ思フカ如クナルニ因ルトハ云ヒ乍ラ他國人ノ目ヨリ見テハ實ニ羨マシキ風俗ナリ

右ノ義勇兵ハ獨リ歩兵ノミナラス砲兵土工兵及ヒ隊附ノ軍醫等ニ至

ル迄醫者ハ醫者大工ハ大工技術師ハ技術師各々其ノ職業ニ從テ義勇兵中ノ職ニ從事シ其役ヲ務ムルヲナリ又砲兵杯ノ若キハ時トシテ常備ノ兵士ト射的ノ競争ヲ爲スヲモアリ新聞杯ニテ見レハ義勇兵ノ砲兵杯ハ中々感心ニ射的ヲ善クスルヲ幾ント常備兵ニ劣ラサル程ナリ又總テ義勇兵ハ一年ニ一度實地演習ヲ爲シ對抗運動ヲ試ムルヲナリ又龍動近傍ノ諸兵ハ一年ニ一度宛龍動ノ近郊ニ集會シテ射的ノ大競争ヲ試ルヲアリ右ノ競争會ニ出席スル諸隊ハ兩三日間ハ恰モ實際戰地ニ臨ミシカ如ク「テント」ヲ張テ其ノ地ニ野營ヲ造リ各々其中ニ起臥シテ身体ヲ慣ラヌヲナリ往テ其ノ有様ヲ見ルコ「テント」ノ張リ方及ヒ其ノ中ニ備ル諸道具萬端皆十都ヘテ實地ノ野營ニ摸セサル者ナシ尤モ龍動近郊ノ「ナレ」ハ義勇兵ニ列スル人々ノ母妹或ハ親族ノ婦人杯ハ見物見舞旁々其ノ地ニ赴クヲナリ然ルヒハ人々其ノ營中ニ備ル道

具ニテ茶杯拵へ日本ニテ云ハ、辨當ニテモ使フト云フ場合ナリ左レハ半ハ野遊ヒノ如キ姿無キニアラチモ若シ義勇兵ノ仕組ナケレハ踊リ或ハ茶會杯ヲ催シテ遊フカ或ハ骨牌或ハ芝居見物杯ニ時間ヲ費ス可キ青年ノ者共ヲシテ斯ク兵事ニ慣レシムルハ實ニ莫大ナル利益ト云フ可キナリ又是ノ射的競争ニハ種々ノ褒美アリテ諸人皆ナ之ヲ得ルヲ榮譽トシ諸隊共ニ我コソ之ヲ得ント競フコナリ而テ其ノ射的ノ距里ハ四丁ヨリ八丁目迄ノ如ク見受ケタリ然レハ相應ニ遠距離ヲ射ルコト勉ルト見ヘタリ

其ノ要ヲ記セハ義勇兵ハ隊々ニテ各々ノ服装ヲ異ニシ居レモ其ノ兵式及ヒ兵器ハ皆ナ一樣ナリ故ニ諸隊ヲ合スレハ直ニ大隊旅團ヲモ編制シ得可キ様ニ仕組ミタル者ニテ歩兵騎兵砲兵土工兵軍醫等ニ至ル迄皆ナ器ヲ備リ居ル者ナリ然レモ是ノ義勇兵ノ常備軍ニ異ナル所ハ唯

其ノ職掌ヲ「國ヲ護ル」ニ限り國外ニ出張セサルノ一事ニ在リトス云ハ、義勇兵ハ唯國內ニ進入スルノ敵ヲ防ク者ニテ國外ノ征役ニ服セサル者ナリ

遠ク其ノ歴史ヲ尋ヌレハ是ノ仕組ハ甚タ舊キ者ナレモ今日ノ如ク盛ナルニ至リシハ僅ニ三十年以來ノコトニテ歳々逐テ次第ニ盛ニナリ年々其ノ兵數ヲ増加シ今日ニテハ大凡ソ二十餘万人ノ多キニ至リシナリ又一タヒ義勇兵ト爲テ兵器ヲ把ルニ習ヒ數年ノ後ニ至リ之ヲ脱シテ今ハ隊中ニ列セサル者ヲ合算スレハ一朝事アルニ臨ミ兵器ヲ帶テ國ヲ護ルニ足ル者ハ數十万人ノ多キヲ得可キナリ義勇兵ヲ訓練スルニハ夫々ノ規則アリテ陸軍士官ヲシテ專ラ其指揮等ヲ司ラシメ徒ラニ慰ミシ流レサル様、嚴重ニ取締ヲ爲スコナリ然レモ歐洲ノ論者中ニハ英國ノ義勇兵ハ未ダ實用ヲ爲スニ足ラサルヤヲ疑フ者ナキコアラ

現ニ英人中ニテモ猶ホ一層是ノ仕組ヲ改良セント企ツルノ論者モ  
 頗ル澤山ナリ成程平素嚴重ナル軍律ヲ以テ之ヲ兵役ノ中ニ束縛シ規  
 則ヅクメニテ十分辛苦ニ慣レシメタル常備軍ト同様ニハ實地ニ臨テ  
 艱難ニ堪ヘ得サルノ情モアラン或論者ノ之ヲ疑テ心配スルハ尤モナ  
 ル話ナリ然レモ大体ノ處若シ斯ル仕組ノ存セルモノナクシテ全國ノ  
 年若キ子弟ハ鐵砲ノ扱振スラ六々ニ承知セス平素有餘ノ時間ハ皆ナ  
 之ヲ無益ノ嬉遊ニ費シ盡シテ詰ル所只々惰弱ノ習ヲ增長スルニ過キ  
 大ト云フカ如キ有様ニ比較スルモハ是ノ義勇兵ノ仕組カ英國ノ子弟  
 ニ壯武ノ氣風ヲ失ハシメサルノ利益ヲ與フルコトハ實ニ巨大ナルヲ知  
 ル可シ毎歲ノ統計ヲ比較スルニ義勇兵トナル者年々ニ其ノ數ヲ増加  
 セリ又一年ニ一度義勇兵ノ大檢閲アリテ其調練ノ工合ヲ試ミラル、  
 一ナルカ此檢閲ヲ受ケニ出掛ケル者ト其總体ノ數トヲ割合スルニ是

ノ大檢閲ニ出掛ケル者ノ割合モ亦々年々ニ増加セリ凡ソ是等ノ有様  
 ヲ以テ推スルハ義勇兵ナル者カ歲々逐テ愈々盛ニナリ一般人氣ノ  
 益々此ニ傾クコトヲ知ルヘク從テ其仕組ノ他日巨大ノ利益ヲ生スルコ  
 アルヲ想フヘシ  
 前ニ記セシ如ク英ノ常備軍ハ徵兵ニアラスシテ募兵ナルカ故ニ其ノ  
 手當モ亦々甚々費用多キコトナリ試ニ昨明治十八年ニ付テ歐洲ノ他ノ  
 強國ノ兵數ト其費用トヲ以テ之ヲ英國ニ比較スルニ佛國ノ常備軍ハ  
 其ノ兵數五十一万人ニシテ陸軍ノ總入費ハ一億二千万圓餘ナリ伊國  
 ハ兵數七十五万人ニシテ其ノ陸軍ノ總入費ハ四千万圓餘ナリ曼國ハ  
 兵數四十四万人ニシテ陸軍ノ總入費一億一千万圓餘ナリ然ルニ英國常  
 備軍ノ兵數ハ二十万人以下ニシテ其陸軍ノ總入費ハ幾ソト七千五百  
 万圓餘ナリ尤モ右總入費ノ中ニハ常備軍ノ供給ノミナラス不虞ノ變

ニ備フルカ爲メノ兵器ノ製造彈藥ノ儲蓄等一切ノ費ヲ籠ムル者ナレハ是ノ兵數ト入費トノ割合カ直チニ徵兵ト募兵トノ費用ノ差ヲ示ス者ナリトハ云ヒ難クレ共亦タ以テ募兵ノ制ヲ用フルキニハ其ノ費用ノ甚ク大ナルハ一端ヲ察スルニ足ル可シ左レハ募兵ノ法ヲ以テ數十萬ノ常備陸軍ヲ備フルトハ非常ニ富ミタル國ニアラサレハ之ヲ行ヒ能ハサル者ト云フモ可ナリ

今歐洲諸國ノ兵備ト形勢トヲ推テ熟ク日本ノ有様ヲ考ルニ日本ノ大患ハ兵備ニ關シテ其ノ方向ノ定マラサルニ在ル者ナリ護國ノ急務ハ其ノ國力ヲ專ニスルノ方向ヲ定メ舉國ノ人心ヲシテ唯是ノ一方ニ向ハシメ全國ノ兵備ヲシテ唯是ノ一方向ニ專ナラシムルヨリ大ナルモノハ莫キナリ四五百年前ノ昔シナランニハ陸ニテ戰フモ海ニテ戰フモ其ノ兵器ハ皆ナ同様ニテ陸戰ニ用ラル弓箭刀劍ヲ以テ之ヲ海戰ニ

用フルコナレハ海戰陸戰ノ區別ハ唯兵士カ地ノ上ニ立テ戰フト船ノ上ニ立テ戰フトノ區別位ヒニ過キス故ニ斯ル時代ニハ兵備ノ上ニテ海軍ト云フモ陸軍ト云フモ別ニ大異ハナカリシ者ナリ然ルモ尙ホ陸戰ト海戰トハ全ク同様ナルコ能ハサリシコナリ況ヤ兵器ノ大ニ進歩セル今日ニ於テハ海陸ノ戰ハ大ニ双方ノ趣ヲ異ニシ陸戰ニ用ユヘキ者ハ之ヲ海戰ニ用ヒ難ク海戰ニ用ユ可キ者ハ又幾ノト陸戰ノ用ヲ爲サハルニ至レリ左レハ昔時ノ如ク陸戰ノ兵備ヲ轉シテ直ニ之ヲ海戰ニ用ヒ難ク又海戰ノ兵備ヲ轉シテ之ヲ陸戰ニ用ヒ難ク海陸ノ戰備ハ斯ク迄全ク別質ノ者ト變シタル今日ニ於テハ一國ノ兵備モ亦タ從テ其ノ方向ヲ定ムルコ實ニ必要ナルニ至レリ若シ十分ナルコヲ求メハ陸軍ノ兵備ハ海軍ヲ以テ世界第一ト稱セラル、海軍ノ強キ國ニ劣ラサル様ニ之ヲ盛ニシ又海軍ハ海軍ヲ以テ世界第一ト稱セラル、海軍

ソ強キ國ニ劣ラサル様ニ之ヲ盛ニシ度ハ勿論山々ナリ然レモ海陸ノ  
 兵備ヲ兩ツナカラ盛ニ爲スニハ莫大ノ入費ヲ要スルヲニテ日本杯ノ  
 國力ニテハ迎モ之レニ堪ユ可キコアラス是レハ獨リ日本ノミナラス  
 世界中如何ナル富強ノ國ト雖モ恐ラクハ爲シ能ハサルヲニテ如何ニ  
 英國カ富メハトテ元來其ノ力ヲ海軍ニノミ專ニスレハコソ其ノ海軍  
 カ世界第一ナルナレ若シ此上ニ其ノ陸軍ヲモ併テ露國位ニ盛ニシ九  
 十餘万ノ常備陸兵ヲ置カント企テハ英國ノ富ト雖モ恐クハ之ニ堪  
 ヲルコ能ハサル可シ又露國ヲシテ九十餘万ノ常備陸兵ノ外ニ英國ノ  
 如ク七十餘艘ノ甲鐵艦ト數百艘ノ運送船トヲ備ヘシメナハ其ノ政府  
 ハ必ス身代限ヲ爲スナル可シ然レハ海軍陸軍共ニ其ノ兵備ヲ思フ程  
 ニ十分ニ行届シモノトハ到底願フ可クシテ行ヒ能ハサルコナリ若シ  
 ニツナカラ全キコ能ハストモハ海軍陸軍共ニ皆ナ不十分ナランヨリ

寧ロ其ノ國柄ニ從テ力ヲ一方ニ專ニシ其一方ヲシテ十分ナラシムル  
 ノ丈夫ナルニ若カサルナリ而シテ其兵備ノ方向ヲ定ムルハ一ニ其國  
 ノ地形如何ニ因ル者ナリ若シ日本ヲシテ支那或ハ露國ノ如キ地形ナ  
 ラシメハ力ヲ海軍ニ致サソヨリ寧ロ陸軍ニ致スナ上策トス今試ニ支  
 那ヲ以テ之ヲ例センニ彼ノ埃及ニ打死ニセシ戈登カ曾テ清朝ノ爲メ  
 ニ策ヲ立テタル如ク一旦歐洲ノ強國ト戰ヲ開クコアリトシ縱ヒ沿海  
 ノ各地ヲ掠メラルハトモ左マテ深ク憂ルニ足ラス唯政府ノ在ル首府  
 ヲ敵ノ爲ニ衝カレサル様ニ爲スナ第一トス故ニ餘義ナキ場合ニハ北  
 京政府ヲ移シテ海岸ヨリ最モ遠ク隔リタル關中或ハ蜀ノ地ニ置キ是  
 ノ處ヨリ俯シテ天下ニ號令シ以テ持久ノ謀ヲ圖ル可シ左スレハ外來  
 ノ敵カ是ノ帝都タル首府ニ攻入ルニハ海岸ヨリ遙々幾百里ノ陸路ヲ  
 歷テハ成ラヌ又其孤軍ヲ以テ不知案内ノ幾百里ノ内地ニ攻入ルニハ



後ロチ斷ル、ノ憂アルカ上ニ處々ノ險阻ニ支ヘラル、ノ難義アリ之  
 チ打破テ進ムコモ容易ナラス其勢ヒ少數ノ兵ヲ以テ其ノ志ヲ達シ難  
 シ左レハトテ又万里ノ外ヨリ大兵ヲ差シ向クルニハ莫大ノ費用ヲ要  
 スルコトナリ旁々是ノ手段ヲ用テ支那カ永ク持テコタユル間ニハ歐洲  
 シ敵國ハ一方ニハ表テ向キ沿海ノ各地ヲ掠メ廻ハリテ其ノ勢ヲ張ル  
 ニ至ルモ其ノ實ハ肌合ヒノ勘定戰費ノ夥キニ堪ヘ難ク終ニハ疲シテ  
 早ク和ヲ成スノ利ヲ思フニ至ル可シ左レハ外寇ニ對スル支那ノ計ハ  
 敵ノ來リ難キ内部遠隔ノ地ニ政府ヲ遷シテ暫ク敵ノ銳ヲ避ケ持久ヲ  
 勉メテ以テ敵國ヲシテ其ノ勞費ニ堪ヘザラシムルニ在ルナリ是ノ策  
 ハ支那ノ東南ニシテ海岸アリテ西北ニ海ナク其ノ疆界ノ五分ノ三ハ  
 陸續キナルノ地形ナルカ故ニ其國ニ恰好ナル者ニシテ則チ支那ノ地  
 形ニ因レハ先ツ專ラ其ノ力ヲ陸軍ニ盡スルハ大患ナキヲ得ル者ト云

フ可シ又露國ノ如キモ同様ニテ敵ノ攻寄ス可キ沿海ノ地ハ黑海トバ  
 ルチツク海トノ兩所ノミニテ其ノ國疆ノ十ノ七八迄ハ皆ナ陸地ナリ故  
 ニ縱ヒ其十分ノ三ニモ足ラサル沿海ノ國疆ヲ敵ノ爲メニ衝カルト  
 モ引キ退テ陸軍ヲ以テ之ニ當ルルハ支那ト均シク其國ヲ守ルニ十分  
 ナル可キナリ然レハ露國ノ地形ハ其ノ力ヲ陸軍ニ專ニスヘキ者ニテ  
 其九十餘萬ノ常備軍アルヲ要スルハ尤ナル話ナリ又之レアレハ先ツ  
 大ナル憂ナキヲ得可キナリ海陸ノ兵備ハ各其ノ地形ニ因テ之ヲ務ム  
 可キト斯ノ如シ  
 日本ハ支那露國杯トハ反對ニテ四面皆ナ海ナル大島國ナリ今試ニ不  
 幸ニシテ支那ト開戦ニ及ヒタリト假定ム可シ今日宇内ノ形勢ニテハ  
 歐洲ハ世界ノ中原ニテ兵器ノ多キモ歐洲ナリ之ヲ製造スル場所モ歐  
 洲ナリ又金錢ノ最モ多キモ歐洲ナリ然ラハ日支兩國ノ相ヒ戦フニ及

テハ兩國ノ中ニテ孰レナリトモ歐洲ノ兵器ト其ノ製造場ト其ノ金錢  
 トヲ能ク手ニ入レテ利用スルノ國カ則チ結局ニ勝チ得ルノ國ナリ然  
 ルニ兩國ノ戰ハ先ツ海軍ニテ始マルニ當リ不幸ニシテ我カ海軍ノ兵  
 備乏シキカ爲メニ支那ノ海軍ニ打テ破ラレ支那ノ軍艦ハ自由ニ日本  
 ノ近海ニ出沒スルモ日本人ハ只ク陸カラ威張ルノミニテ之ヲ奈何ト  
 モスルヲ能ハサル有様ト爲リシト假定ム可シ果シテ斯ル場合ニ至ラ  
 ハ日本ハ歐洲ト交通ヲ失ヒ支那ハ自由ニ是レト交通往來ヲ爲シ居ル  
 者ナリ然ランニハ歐洲ノ兵器金錢及ヒ製造場ハ已ニ支那人ノ手中ニ  
 在リテ日本ハ之ヲ失ヒシ者ナリ斯クナル以上ハ支那ハ如何程ノ金錢  
 ナモ歐洲ヨリ借り入レ之ヲ以テ又如何ナル堅固ノ新軍艦ヲ如何程多  
 クモ手ニ入ルト可ク又「クルグ」ニア「アレ」ア「ムストロング」ニア「レ」如何ナ  
 ル精工ナル大砲小銃ヲモ隨意ニ其ノ手ニ入レ得可キナリ而シテ是等

ノ軍艦砲銃ヲ以テ日本ニ臨ミナハ我レハ中原ヨリ供給ヲ得ヘキ道絶  
 ヘテ三ノ手出ササルヲ故金錢兵器彈藥ハ月ヲ重キ年ヲ重ヌルニ從テ  
 益々欠乏スルニ敵ノ金錢兵器ハ月ヲ重キ年ヲ重ヌルホト益々増加ス  
 ヘシ如何ニ日本國人ノ壯武ナル大和魂ハ支那人ニ勝ルヲ幾十倍ナリ  
 也脆キ肉体ノミヲ以テ精工鋭利ナル兵器ノ力ニハ敵スルヲ能ハズ結  
 局ニハ遂ニ我ヨリ和ヲ請フニ至ルハ道理ニ於テ決テ免レ得サル所  
 ナリ凡ソ勝モ敗ルモ皆ナ大勢ノ然ラシムル所ニシテ大勢一ヲヒ傾ム  
 シキハ最早ヤ奈何トモ致方ナキナリ而テ其ノ勝敗ヲ定ムルノ大勢ト  
 ハ何物ソヤ世界ノ中原ト云フ可キ歐洲ノ兵器製造場金錢ヲ得ルト得  
 サルトノ一事是レナリ我海軍已ニ破レテ支那ノ爲メニ中原ノ兵器製  
 造所金錢ヲ掌握セラレ我ハ全ク是ノ供給ヲ仰クノ道ヲ失フキハ我カ  
 陸軍ハ如何ニ盛ナリトモ其ノ兵器彈藥ニハ限リアレハ其ノ盛ナルモ

唯是レ一時ノ事ニ過キス最初ノ程コソ勢ヒモ強ケレ後ニハ鍋釜ヲ沸カシテ銃丸ト爲シ舊「ゲベル」杯ヲ集テ先キ込メ筒ノ兵隊ヲ作ル様ノ始末ニ立テ至ル可キハ必然ナリ

又支那ハ扱テ置キ日本ト西洋ノ一國ト不幸ニシテ開戦ニ及ヒタリト假定ム可シ然ルキハ其ノ戦ハ亦タ先ツ海軍ヲ以テ始マル可シ是ノ時ニ當リ日本ノ海軍薄弱ナランニハ直ニ一戦ニ打チ破ラレ其ノ後ハ日本ノ沿海ハ敵國ノ土地ト同様ノ有様ニ變シ敵ノ軍艦ハ隨意自由ニ何ノ憚リモナク日本ノ海上ヲ往來シテ先ツ第一ニハ重ナル諸港ヲ封鎖シ歐米諸國ヨリノ兵器彈藥ノ供給ヲ斷テ切ル可シ又其ノ次ニハ四國九州北海道ト日本本島トノ間ヲ運漕ヲ妨ク可シ又其ノ次ニハ長崎或ハ箱館等ノ始ク日本ノ首府ヨリ遠クシテ敵ノ攻ムルニモ便ニシテ之ヲ陷イル、ノ後々又之ヲ守ルニ易キ地ヲ攻取テ之ニ據ルコトナル可

シ琉球或ハ對馬杯ノ如キ北洋或ハ印度洋ヨリ兵ヲ日本ニ進ムルニ足溜リトスルニ備強ナル地ハ勿論第一ニ敵ノ爲メニ攻メ取ラレテ其ノ足溜リト爲ル可シ又太平洋ヨリ兵ヲ進ムルノ敵ハ先ツ八丈無人島ノ如キヲ陷レテ之ヲ足溜地ト爲ス可シ(西洋ノ國々カ遠キ國々ト開戦スルニハ成ル可ク早ク敵ノ首府ヲ衝テ速ニ勝敗ノ決ヲ定メ以テ戦ヲ終ルヲ利ト爲ルコトナリ去千八百六十一年英佛聯合ノ兵カ支那ヲ撃ツニ先ツ北京ヲ衝キタル如キ又先日緬甸ノ戦争ニ英兵カ直ニ其首府マソダレイト衝キタルカ如キ則チ皆其ノ証ナリ尤モ敵ノ首府ヲ衝クノ策ハ遠征ノ時ノミニ之ヲ行フコアラズ歐洲中ノ隣國同士カ相戦フニモ其首府ヲ陷ルレハ大抵其ノ戦ハ終ルコトナリ然レモ遠征ノ師ハ別シテ之ヲ眞先キニ勉ルカ故ニ日本ノ如キモ外戦ノ不幸アラハ敵國ハ第一直ニ我首府ヲ衝クコトナル可シ然レモ右ノ説ハ先ツ我レ幸ニシテ首

府ヲハ防キ得タリト假定メタル者ナリ斯ノ沿海ノ諸島ヲ奪ハレ又處々ノ要港ヲ奪ハレ歐洲中原ノ兵器ノ供給ヲ失フタルノミナラス内國ノ運輸ヲサヘ妨ケラレタル上ハ縱令ヒ日本ニ幾十萬ノ陸軍アリテ如何ニ肩臂ヲ張り敵ニ當ラント勇ムトモ徒ラニ齒ギシリスルノミニニシテ復タ奈何トモ爲ス術ナク只タ僅カ十萬ニモ足ラヌ敵兵ノ爲メニ海上ヲ乘廻ハサレテ或ハ西ヲ犯サレ或ハ東ヲ犯サレ或ハ北ニ或ハ南ニ處々ニ出沒騷擾セララル、ノミ此期ニ及ヒ我レ如何ニ鐵道ノ便アリトテ唯々彼方此方ト奔命ニ疲ル、外何共致方ナカル可シ是ノ時ニ當リ支那或ハ露國ノ如キ地形ナランニハ政府ヲ海岸ヨリ遠隔ナル内地ニ遷シ敵ヲ避クルコトモ出來可ケレト日本ノ如キ幅狹ク細長ク何レノ處ニテモ海岸ヲ距ルコト二十里内外ニ過キサルノ地勢ニテハ斯ル策ノ施ス可キナキハ言フマテモナク海岸ヨリ遠クシテ敵ノ爲ニ衝ル、ノ憂

少シト見ユル内部ノ鐵道タニモ時々海岸ヨリ侵入セラレテ其ノ線路ヲ奪ル、ノ危險甚タ多ク從テ陸軍ノ働キスラモ思フカ儘ニハ行カサルヘシ將々好シ退テ我カ首府ヲ守リ能ク敵ヲ支フルコト出來タリトスルモ敵ハ近海ノ諸島ヲ奪ヒ一二ノ要港ヲ占メ海上ヲ己カ物ト爲スカ故ニ琉球ニアレ八丈ニアレ對馬ニアレ箱館ニアレ小樽ニアレ長崎ニアレ之ヲ陷イル、後ハ海上ニテ其ノ本國トノ交通ハ自在ニシテ其ノ里數コソ隔リタレ實ハ其ノ國ト地續キニ爲リタルノ姿ニテ歐洲中原ノ兵器彈藥戰艦ハ一切其ノ手中ニアリ振返リテ我ヲ顧レハ四面皆テ敵ノ兵線ニ絶テ切ラレテ半兵一丸ヲモ外ヨリ取入ル、コト能ハス一日一日ト衰弱疲弊スルノミ是時ニ當リテ好シヤ數十萬ノ陸軍アリテ内ニ存スルトモ其ノ兵器彈藥ハ次第々々ニ減少シ其内ニ如何ニ歐米ノ山師共カ敵艦ノ目ヲ忍テ竊カニ兵器彈藥ヲ輸入スルコトアルトスルモ

夫ハ誠ニ高ノ知レタル話ニテ其ノ分量ニ限リアレハ看スゞ空乏不足スル様ニナルハ目前ナリ斯ク日本ノ海軍カ最初ニ破レテ沿海ノ地ハ幾ント敵ノ有トナリ其ノ大勢已ニ斯ク廢亡ニ傾キタルノ時ニ於テ我ニ尙ホ五六十萬ノ陸軍アリトテ何時マテモ和ヲ請ハス幾年モ敵國ト戰ヲ續クルトテ得可キヤ少シク具眼ノ人ナラソニハ早ク敵ト和シテ再舉ヲ計ルヲ利トセサル者ハアラサル可シ右ハ唯タ不幸ニシテ外戰沙汰アリタル日ノ極度ヲ想像シタル話ナレトモ事理ニ於テハ斯クアルヘキ筈ノモノナリ故ニ若シ深ク是等ノ理ヲ平日ニ考ヘナハ日本ノ地形カ海軍ヲ要スルヲ大ナルヤ將タ陸軍ヲ要スルヲ大ナルヤハ甚タ明白ナル可シ早ク云ハ、邦國ノ勝敗ヲ定ムル者ハ天下ノ大勢ニシテ中原ノ兵器ト金錢トハ則チ勝敗ノ大勢ト云フ可キ者ナリ故ニ之ヲ得レハ勝ヲ失ヘハ敗ル而テ之ヲ得ヌトテ欲セハ海上ノ交通ヲ失ハサル

ヲ以テ必要トス而テ是ノ交通ヲ保テ得ン者ハ則チ唯海軍ノミノ力ニヤラスア

世界ノ大勢已ニ斯ノ如ク日本ノ地勢亦タ斯クノ如ク日本ノ海軍一タヒ敗ル以上ハ勝敗ノ數已ニ定マリテ最早ヤ其ノ後ハ之ヲ奈何トモスル能ハサルヲ前ニ記スル者如キヲ考ヘナハ日本今日ノ急務ハ先ツ第一ニ兵備ノ方向ヲ定メ全國ノ力ヲ海軍ニ專ニシ國力ノ堪ヘン限リハ只管海軍ヲ盛ニスルヨリ大ナルモノ莫キヲ知ルヘシ則チ今日ノ急務ハ全國ノ人民ヲシテ日本ノ盛衰ハ唯海軍ノ盛衰ニアルヲ知ラシメ苟クモ心ヲ兵備ニ致ス者アレハ其ノ心ヲ海軍ニ致サシメ苟モ力ヲ兵備ニ盡ス者アレハ其ノ力ヲ海軍ニ盡サシメ若シ敵ノ爲メニ海軍ヲ破テルレハ其ノ時ヲ以テ日本ハ敵ニ降ルノ時節ト覺悟セシムルニ在ルナリ若シ兵備ノ方向一定セヌシテ限リアル貧シキ國力ヲ以テ半ハ之

ナ海軍ニ致サントシ半ハ之ヲ陸軍ニ致サントスル時ハ海軍モ敵ヲ防  
クニ足ラスシテ陸軍モ亦タ國ヲ守ルニ至ラス所謂ル此モ取ラス蜂モ  
取ラサル者ナリ全國ノ人民カ兵備ノ方向ヲ定ムルヲ知ラサルハ  
政府モ亦タ其ノ勢力ヲ一方ニ盡ス可能ハス斯ル漠然タル有様ニテ一  
年々々ト月日ヲ過ス時ニハ後ニ悔ユトモ及フ可カラサルノ大害ヲ被  
ル可シ若シ余ヲシテ矯激ノ語氣ヲ用ルヲ憚カラサシメハ日本ハ陸  
軍ヲ全廢シテ一國ノ兵備ヲ海軍ニノミ限ル可シトマテ云ヒ度キ處ナ  
リ若シ陸軍ヲ全廢シテハ海軍ノ盛衰ヲ以テ一國ノ盛衰ト覺悟シ國人  
ハ其ノ力ヲ是ノ一方ニ盡スニ至ル可キカ故ニ反テ其ノ力ヲ兩方ニ分  
テ兩ツナガラ國ヲ守ルニ足ラサルカ如キノ患ハナカル可キナリ然レ  
モ是ハ是レ時弊ヲ矯ルニ急ナルノ語氣ニテ中道ヲ得タル者ニハアラ  
ズ陸軍モ敵國ヲ制シ内國ヲ鎮シ寇ノ進入ヲ支ヘルニハ無クテ叶ハヌ

者ナレハ勿論之ニモ力ヲ用ヒサル可カラス然レモ若シ勝敗ノ大勢ト  
日本ノ地形トヲ察シ海陸軍双方ノ間ニ自ラ緩急輕重ノ區別アリトモ  
ハ前記セルカ如ク先ツ國力ヲ傾ケテ之ヲ海軍ニ致サハル可カラサル  
ナリ  
全國ノ力ヲ擧テ專ラ之ヲ海軍ニ盡シ不幸ニシテ一朝支那ト事アルコ  
アラハ先ツ我カ海軍ヲ以テ敵ヲ壓シテ歐洲中原ノ兵器金錢ヲ我カ有  
ト爲シ然ル後如何様ニモ敵ヲ窘メテ我カ意ニ從ハシム可シ又歐洲ノ  
一國ト事アルノ不幸アラソニ敵ヲ日本近海ニ引受ル様ニテハ手緩ル  
シ若シ北洋ヨリ來ルノ敵ナラハ小樽浦鹽斯德ノ間タニ於テ我カ海軍  
ヲ以テ邀ヘ戰テ之ヲ破リ又南洋ヨリ來ルノ敵ナラハ之ヲ薩摩沖ニ邀  
ヘ戰テ之ヲ破リ支那近海香港等ノ方角ヨリ來ルノ敵ナラハ琉球近海  
ニ邀ヘ戰テ之ヲ破リ凡ヘテ外敵ヲシテ其ノ足ヲ日本ノ近海ニ入ラシ

メ大兎ニ角有事ノ日ニハ先ツ一國ノ存亡ヲ舉テ之ヲ海軍ノ上ニ繫ケ  
 海軍ノ勝敗ヲ以テ直ニ日本ノ興廢ヲ定ムル者ト覺悟ナシ置ク第一  
 ノ國是ナリ若シ東ハ新嘉波ノ海峽ヨリ南ハ呂宋ニウギニ一ノ間ヲ限  
 リ敵艦ヲシテ支那海日本海太平洋ノ海上ニ一步ヲモ踏込ムヲ能ハサ  
 ラシムルニ至ラハ縱ヒ歐洲ノ金銀兵器ノ半ヲ失フノ障礙ニ遇ラフア  
 ルモ尙ホ東ノ方北米聯邦ノ太平洋海岸ヨリシテ其ノ五分ヲ償フニ足  
 ル丈ノ金銀兵器ノ供給ヲハ自由ニ受ケルヲ出來可キナリ我海軍ノ勢  
 力斯ノ如クナルヲ得ハ其ノ内ニ外交政畧ノ働キヲ以テ敵國ト對等ノ  
 地位ヲ失ハサル名譽ノ和ヲ結フヲモ出來可シ且ツ平素我國ニ斯程ノ  
 勢力ヲ蓄ヘ居リナハ利害ニ明ナル歐洲諸國ハ大抵ノ場合ニ於テハ先  
 ツ容易ニ我國ニ向テ戰ヲ仕掛ルヲ杯ナハ見合ス可ク所謂ル戰ハサル  
 ニ勝ツトノ文勳ヲ奏スルヲモ難カラサルヘシ故ニ我國ノ急務ハ唯兵

備ノ方向ヲ定テ全力ヲ一方ニ盡スヘキヨリ先ナルハ莫キナリ  
 熟シ歐洲諸國ノ有様ヲ察スルニ其ノ位置互ニ敵國ト境ヲ相交ヘ居リ  
 テ平素餘義ナクモ各自ノ兵備ヲ嚴ニセシメ成ラヌトノ必要ヨリ生セ  
 シコトハ云ヒ乍ラ諸國共ニ各々其ノ地形ニ從テ兵備ノ方向ヲ定メ其  
 全力ヲ此ニ盡シ居ルノ狀ハ實ニ驚ク可シ英國ノ如キハ四面皆テ海ノ  
 島國ナルカ上ニ遠方ニ所領地多キヲ以テ其力ヲ海上ニ失フキハ第一  
 ニ所領地ヲ失ヒ第二ニハ本國ニサレ侵入セラル、ノ憂アリ故ニ其ノ  
 地勢ニ從テ平素力ヲ海軍ニ專ニシ海上第一ノ強國ト稱セラル、ハ人  
 ノ知ル所ナリ又佛國ハ其ノ國疆ノ五分ハ陸地ニシテ他ノ五分ハ海ナ  
 ルカ故ニ其ノ陸軍ハ諸國中ニテ一二ニ位スル程ニ整備シ居ルカ上ニ  
 海軍ハ亦ハ幾ノト英國ノ次ニ立ツ可キ有様ナリ又曼國ハ其國疆ノ九  
 分以上ハ陸地ニテ而カモ北ニ露國アリ東ニ墺國アリ南ニ佛國ノ大敵

アリ皆其地續キナルカ故ハ先ツ其ノ全力ヲ陸軍ニ盡シ陸軍ニテハ世  
 界中幾ノト第一ニ位セリ又露國ノ如キモ其ノ國疆概テ陸地ナルカ故  
 ニ先ツ其ノ力ヲ陸軍ニ盡セリ又新興國ヲ以テ稱セラル、伊國ノ如キ  
 ハ其ノ國疆ノ三四分ハ陸地ニシテ其ノ六七分ハ海ナルカ故ニ大ニ力  
 ナ海軍ニ傾ケ世界未曾有ト稱セラル、最大ノ甲鐵艦二三艘ヲモ造ル  
 ニ至レリ其ノ國力ノ貧シキニ比ブレハ實ニ非常ノ奮發ニテ海軍ニテ  
 ハ幾ノト佛國ニ次ク可キ地位ニ居レリ然ルニ同國ハ不幸ニシテ陸地  
 ノ國疆亦タ三四分ニ居ルカ故ニ又其ノ力ヲ陸軍ニモ分タサルヲ得ス  
 シテ幾ノト六十万以上ノ常備兵ヲ置ケリ右ハ皆數百年以來ノ戰闘爭  
 奪ノ上ヨリ生シタル實驗ニ因テ生セシ所ナレト諸國共ニ其ノ地勢ニ  
 從テ兵備ノ方向ヲ異ニスルコト斯ノ如キナリ顧テ日本ノ地形ヲ考ルヒ  
 ハ他國ニ比シテ實ニ大ナル便利アリ若シ佛國或ハ伊國ノ如クアラシ

337468

メハ如何ニ陸軍ノミヲ盛ニセント欲スルモ敵ノ爲メニ海上ヨリ侵來  
 セラル、ノ憂アレハ亦海軍ヲモ備ヘサル可カラズ左レハトテ力ヲ海  
 軍ニノミ專ニスレハ陸地ヨリ侵來セラル、ノ恐アリ然レハ佛伊三國  
 ノ人民ノ心中ニテハ必ス陸地ノミヲ國疆ト爲スカ或ハ海上ノミヲ國  
 疆ト爲スカ何レカ一方ニ偏シ居リ度ヲ願ヒ居ルナル可シ何トナレハ  
 四面皆ナ海ナレハ英國ノ如ク其ノ力ヲ海軍ノミニ專ニシテ陸軍ヲ後  
 ニシ得ルノ便利アリ曼國ノ如ク四面皆陸地ナレハ其ノ力ヲ陸軍ノミ  
 ニ專ニシテ海軍ヲ後ニシ得ルノ便利アリ然ルニ海陸ノ境ヲ兼テタレ  
 ハ海軍陸軍共ニ其ノ力ヲ盡サ、ルヲ得サルノ苦勞アレハナリ故ニ日  
 本ノ如ク四面皆ナ海ノ地形ニシテ支那露國杯ノ如ク又佛國伊國杯ノ  
 如ク海陸三軍共ニ力ヲ盡スニ及ハズ海軍ノミヲ盛ニシテ事ノ濟ム可  
 キ有様アル其實ニ天ノ與ハタル便利ト云フ可キナリ



日本ニテモ是迄少シ其意ヲ國事ニ用ル論者ノ中ニハ兵備ノ事ヲ論  
 セサル者無キニアラテ多クハ唯國權ヲ張レトカ海陸軍ヲ盛ニセヨ  
 トカ云フノミニテ未タ嘗テ兵備ノ方向ヲ一定スルノ急務ナルヲ説  
 キ及フ者ナキニ似タリ凡ソ事ヲ論スルニハ唯大体ヲノミ舉テ之ヲ世  
 人ニ示セハ夫レニテ足レリト云フ可キ者ニアラス今論者アリテ人ニ  
 向ヒ汝ハ金儲カネモノケヲ爲サ、ル可カラスト説ク者アラハ是レ唯大体ヲ示  
 スノミニテ甚タ不信切ナル論ト云フ可キナリ何トナレハ人皆ナ金儲  
 ケヲ爲スヲ欲セサル者ハアラス唯其ノ憂ハ如何ナル仕事ヲセハ金儲  
 ケノ出來可キヤヲ知ラサルニ在ルナリ左レハ其人ノ性質ニ從ヒ其ノ  
 細目ヲ舉ケテ或ハ貿易ノ中ノ是ノ事ヲ勤メヨトカ或ハ製造中ノ彼ノ  
 事ヲ爲セヨトカ説キ示スルハ金儲ケヲ爲ス可キ筋モ始メテ定マリ其  
 ノ目的ヲ達シ得ルヨナリ斯ノ如キヲ指シテ善ク人ニ金儲ヲ教ユル者

ト云フ今一國ノ兵備ヲ論スルモ亦タ同様ニテ唯海陸軍ヲ盛ニセヨ兵  
 備ヲ脩メヨトノミ口喧シク言フトモ兵備ニモ海陸軍ノ區別アリテ一  
 國ノ力ヲ盡スモ兩ツナカラ之ヲ全備セシムルヲ能ハストセハ右ノ如  
 キ論ハ唯大体ヲ舉テ金儲ケヲセヨト人ニ説キテ金儲ケヲ爲スノ仕事  
 ニ及ホサ、ル者ト同様ナリ是等ノ論者ハ其ノ見識ノ細目ニ及フ能ハ  
 サルニ坐スルトハ云ヒ乍ラ日本ニ於テ大ニ其ノ力ヲ兵備ノ方向ニ一  
 定セシムルニ用ル者ナキハ實ニ遺憾ト云フ可シ國事ヲ論スル者サヘ  
 兵備ニ關シテハ其ノ方向ヲ定メ得シテ漠然ト海陸軍ノ間ニ彷徨  
 フト斯ノ如ケレハ全國ノ人民モ亦タ何レノ一方ニ其ノ心ヲ盡スヤヲ  
 知ラズ或ハ海陸二軍共ニ之ヲ全備セシムルニ足レル國力アルカ如ク  
 ニ思ヒ誤マル者サヘ甚タ多キニ似タルハ實ニ恐ル可キナリ好テ事  
 ナ論スル者モ一般ノ人心モ斯ル有様ナルカ故ニ從テ我國ノ兵備モ亦

何レノ一方ニ其人力ヲ盡ス可キヤノ方向定マラスシテ限リアル國  
 力ヲ有シ乍ラ一半ヲ彼ニ費サントシ一半ヲ是ニ費サントシ双方共ニ  
 不十分ノ有様ヲ免レ能ハサルニ至ラントス若シ深ク日本ノ事ヲ慮ル  
 者アテハ其ノ憂ハ兵備ノ方向ノ一定セサルヨリ大ナルモノハ莫キニ  
 思ヒ當ルヘキナリ

日本ノ地形ニテ全力ヲ海軍ニ致スノ説ハ尤ノコナカラ奈何セシ海軍  
 ハ凡テ器械ノ世界ナレハ戰艦ト云ヒ大砲ト云ヒ萬端ノ入費莫大ナル  
 コナリ之ニ比スレハ陸軍ノ方ハ入費少クシテ多數ノ兵隊ヲ備ルコト  
 得可クレハ貧シキ國力ヨリ云ハ、費少キ陸軍ヲ多ク備ヘテ費多キ海  
 軍ヲ後ニスルコソ然ル可シ日本ノ現況ニテハ力ヲ陸軍ニ致スコソ上  
 策ナリ抔ト考ル者モ無キコアラサル可シ然レハ斯ノ如キハ實ニ利害  
 暗キ論ニテ如何ニ其ノ國力カ貧シケレハトテ其ノ備ヘニ急ナル者

ナ後コスルノ道理アル可キ筈ナシ一タヒ敵國ト開戦ニ及テ前ニ記ス  
 ルカ如ク海上ノ權ヲ敵國ニ奪レナハ我ニ陸軍アリトテ之ヲ奈何ニス  
 可キヤ其ノ國力貧シケレハ貧キ丈々ノ力ニ應シテ万一ノ節ニ役立ツ  
 可キ者ヲ備ヘサル可カラズ其ノ國力貧シケレハトテ入用多ケレハト  
 テ役立ツ可キ者ニ財ヲ用ヒスシテ役立ツコト少キ者ニ之ヲ用ヒント欲  
 スルハ餘リ事理ニ通セサルノ考ニアラスヤ前ニ記スル如ク我海軍破  
 レナハ勝敗ノ大勢ハ最早其ノ時ニ定マル者ナリ然レハ其ノ國力貧シ  
 ケレハトテ是ノ大勢ヲ争フ海軍ニ有ラン限リノ力ヲ盡サ、ル道理ノ  
 アル可キヤ善ク深ク是等ノ理ヲ考ヘナハ如何ニ日本カ貧シキコセヨ  
 如何ニ海軍ハ入費多キニセヨ其ノ全力ヲ海軍ニ盡サ、ル可ラサルノ  
 理ハ明白ナル可シ又當時ノ歐洲諸國ノ海軍ノ兵備ヲ案スルハ日本  
 ノ國力ニテ之ニ當ルニ足ル可キ海軍ヲ備ルコト甚タ難キニアラサルナ

リ昨明治十八年前後ノ諸國ノ海軍ノ兵備ヲ察スルニ世界第一ト稱セラル、英國ノ海軍ハ一等艦ヨリ四等艦ニ至ル迄日本ノ扶桑艦ハ二等艦ト三等艦トノ間タニ在ル者ナレハ假リニ之ヲ以テ讀者ノ心中ニ比較ス可シ總數七十三艘ノ甲鐵艦ヲ備ヘテ其ノ入費ハ五千餘万圓ナリ(右ハ軍艦ノミナラス戰具製造所海軍學校海軍省等凡テ海軍ニ關スル一切ノ入費ヲ込メタル者ナリ以下諸國モ亦タ之ニ同シ)又佛國ハ同ク四十九艘ノ甲鐵艦ヲ備ヘテ海軍ノ總費ハ四千六百万圓餘ナリ又露國ハ二十九艘ヲ備ヘテ海岸防禦ノミニ用テ遠航渡海ニ用ヒ能ハサル者ヲ除ク海軍ノ總費二千万圓内外ナリ又伊國ハ十九艘ヲ備ヘテ一千万圓内外ナリ又右ノ艦數ト總費トニ對シ日本ノ海軍費ヲ考フレハ通例五百萬圓内外ナリ然レハ今之ニ一千二百万圓ヲ加ヘテ日本海軍ノ總費ヲ一千七八百万圓ニ進ル時ハ露伊ノ二國ニ勝リテ英佛ノ次ニ位ス

可キ海軍ヲ備ルニ至ル可キハ明ナリ一方ニテ考レハ兵器戰具ヲ買ヒ入ル、ノ一段ハ歐洲諸國ト其入費ニ差異ナキノミナラス或ハ日本ニハ高價ト爲ル可キノ有様アレハ又一方ヲ考レハ日本ハ前記ノ諸國ニ比シテ人民ノ生活ノ度低キハ人ノ知ル所ナリ故ニ外國ヨリ購入スル軍艦兵器ノ外ハ船具ヨリ給料萬端ニ至ル迄前記ノ諸國ニ比スレハ甚ク廉價ニテ上カル者多シ左レハ物事ニ因テハ英佛ニテ一千万圓ヲ費スヘキノ場合ニモ日本ナラハ五百萬圓ニテ之ヲ辨スルヲ得ルヲモアル可シ又露伊ニテ一千万圓ヲ要スル場合ニモ日本ニテハ六七百萬圓ニテ之ヲ辨スルヲ得ルヲアル可シ故ニ是ノ算當ヲ以テ考レハ日本ニテ海軍ノ總費ヲ一千八百萬圓ト爲サハ必ス露伊ノ二國ニ倍スルノ海軍ヲ置キ一等鐵艦ヨリ四等鐵艦ニ至ル迄少クトモ四十艘内外ノ堅良ナル甲鐵艦ヲ備ヘラル、ハ明白ナリ歐洲諸國ハ互ニ容易ニ戰ヲ開カ

サレトモ又互ニ相ヒ用心スルコトモ非常ナリ若シ少シク其ノ備ニ怠リ  
 レハ動モスレハ直ニ敵ノ爲メニ乗セラル手近キ例ヲ舉ケンニ明治十  
 八年英國カ埃及ニ事アリテ印度ノ兵ヲ少シク之ニ轉用シ其ノ他力ヲ  
 此ニ傾クルノ有様アリシヤ露國ハ之ニ乗シテ直ニ阿非汗ノ界ヲ蠶食  
 セント欲シ英露ノ間戰端ヲ開カントスルニ至レリ又佛曼ノ如キハ常  
 ニ睨ミ合ノ姿ニテ兩國共ニ些カモ油斷スル隙ナキナリ現ニ佛清ノ戰  
 ニモ佛國ハ僅ニ六七萬ノ陸兵ト一部分ノ海軍トヲ用ヒタルノミニテ  
 五十餘萬ノ常備軍ハ國內ノ要所トシテ備ヘ「スハ」ト云ハ、直ニ曼國ニ  
 當ル可キ備ヘナハ少シモ弛ルメサリシ程ノコナリ右ハ唯一二ノ例ヲ  
 舉ケタル者ナレトモ歐洲諸國ハ平素互ニ睨ミ合テ一寸モ心ヲ弛ルメサ  
 ルノ有様ヲ推察スルニ難カラサル可シ然レハ今不幸ニシテ日本カ露  
 國若クハ英國ト開戰ニ及ヒタリト假定ムルモ二國共ニ其ノ本國ノ兵

備ヲ空虚ニシ海軍ノ全力ヲ舉テ遠シ東洋ニ來リ日本ト戰フコトハ出來  
 サルナリ若シ其ノ海軍ノ全力ヲ傾ケテ東洋ニ來リ其ノ本國ヲ空虚ニ  
 セハ必ズ直ニ近隣ノ敵國ノ爲メニ乗セラル、ノ恐レアル可シ然ラハ  
 日本カ毎年一千八百萬圓ヲ以テ海軍ニ備ヘ三十艘ヨリ四十艘ノ甲鐵  
 艦ヲ置キナハ露國ノ如キハ好シ其ノ海軍ノ全力ヲ舉テ攻メ來ルトモ  
 日本ノ力ハ善ク之ヲ挫クニ餘リアリ又海軍ノ一等國ヲ以テ稱セラル  
 、英國ト雖モ其ノ全力七十三艘ヲ舉テ攻メ來ルコトハ出來ス同國ハ處  
 ヲニ所領地多クシテ海軍ヲ處々ニ配置セサルヲ得サルカ故ニ或ハ地  
 中海ニ或ハ印度洋ニ或ハ喜望峯近傍ニ各々若干ヲ殘シ又其ノ本國ト  
 大陸トノ海峽ニモ若干ヲ殘シ置カサルヲ得サレハ其ノ全數ハ七十三  
 艘ナリトモ東洋ニ攻メ來リ得可キハ何程多クシテモ其ノ半數若クハ  
 四分ノ三ヲ超ルコト能ハサル可シ然レハ我國ニ三十四艘ノ堅艦アラン

十分ニ是ト對等ノ地位ヲ保ツテ得可シ其ノ他佛國曼國等ノ如キ  
 ハ別シテ互ニ少シノ油斷モナラス始終睨ミ合ヒ居ルヲナレハ其ノ海  
 軍ノ全力ヲ擧テ來リ戰フヲ杯ハ勿論出來可ラス我カ艦隊ヲ以テ之ニ  
 當ルヲ甚タ難キモノナキナリ就中曼國ノ如キハ其ノ陸軍コソ強盛ト  
 稱セラルレ其ノ海軍ハ未タ露伊ノ間ニ過キサルヲナレハ日本ニ前  
 記ノ海軍アラハ東洋ニ於テ之ヲ挫クヲ左マテ難キニアラサルナリ是  
 ノ故ニ第一ニハ西洋諸國ハ始終彼此相窺カフ睨ミ合ヒノ姿ニテ其ノ  
 全力ヲ東洋ニ致シ難キノ勢アルト第二ニハ日本ハ生活ノ度低クシテ  
 外國品ノ外ハ萬端ノ入費西洋ヨリ廉價ナルトニ因リ海軍一年ノ總費  
 チ一千八百萬圓ニ増加スレハ今日ノ額ヨリ増加スルヲ一千二百萬圓  
 ナレハ歐洲ノ強國ニ十分對抗サル、程ノ艦隊ヲ備フルヲ出來ル者ナ  
 リ若シ後來日本ノ國力振ハスシテ常ニ諸強國ニ窘メラレ一舉一動モ

其鼻息ヲ伺カヒ戰々兢々トシテ首ヲ畏レ尾ヲ畏ル、果敢ナキ有様ト  
 爲ルニ比較シナハ政府七千萬圓以上ノ歳入中ヨリ冗費ヲ減シテ其ノ  
 二割ニモ足ラサル一千二百萬圓ヲ海軍ニ増加スルハ甚タ廉ナル者ニ  
 アラスヤ

右ニ記スル如ク海軍ニ費ス可キ一千二百萬圓ハ如何ナル處ヨリ如何  
 コシテ之ヲ生シ得可キヤ又海軍總費一千八百萬圓ノ中ニテ少クトモ  
 七八百萬圓ハ軍艦ナリ兵器ナリ皆ナ外國品ヲ買ヒ取ルニ用ル者ナリ  
 然レハ年々日本ヨリ其ノ爲メニ輸出輸入ノ貿易上ノ外ニ七八百萬圓  
 ノ正金ヲ海外ニ持チ出タス譯ナリ斯ク多額ノ正金ヲ年々輸出スルヨ  
 リ生スル國內貨幣上ノ有様ハ如何ナル可キヤ等ノ條々ハ財政ノ部ニ  
 論スル所ヲ見ルヘシ

當時世界ニテ堅大第一ト稱セラル、ハ伊國ノ「タンドウ」號ト云ヘ

ル軍艦ニテ其ノ鐵壁ノ厚サ二尺二寸餘百噸ノ大砲四門ヲ備ヘ十八ノ  
 ヲトノ速力(一時間ニ十八英里ヲ走ル者)ヲ具シ七千五百馬力ノ蒸氣力  
 ヲ有シ一萬噸餘ノ噸數ヲ積ム者ナリ諸國通例ノ軍艦ハ鐵ノ厚サモ一  
 尺内外其ノ噸數モ大抵五六千噸ニテ其ノ砲トテモ五千噸内外ヲ出テ  
 カル者多キコナリ然レハ是等ニ比スルキハ伊國ノ是ノ軍艦ハ實ニ宏  
 大且ツ堅固ニシテ世界未曾有ノ大軍艦ト稱スルモ尤モナルコナリ而  
 テ其ノ價ハ悉皆ノ總費ヲ込メテ五百萬圓以下ナリト云フ一艘ノ價ヲ  
 五百萬圓ト聞ケハ驚ク可キ高價ノ様ナレモ其ノ軍艦一艘ニテ弱キ軍  
 艦幾艘ヲモ打テ破リ得ルノ利益ヲ考レハ五百萬圓位ハ甚タ廉ナル者  
 ナリ又通例「クルイザー」ト云ヘル小形ノ甲鐵艦ナラハ一二百萬圓ニテ  
 造ルコト出來ル者ナリ一二年來日本ノ注文セル二三ノ新造艦ハ概テ是  
 ノ小形ノ「クルイザー」ノ種類ナリ前ニ記セシ如ク今日ノ海軍費五六百

萬圓ノ外ニ更ニ増加ス可シト論シタル一千二百萬圓ハ如何ナル目安  
 ヲリ生シ如何ニ之ヲ用ユ可キノ愚見ナルヤヲ零記セシニ先ツ一千二  
 百萬圓ノ中ニテ其ノ百五十萬圓餘ハ戰艦兵器船具等ヲ買ヒ入ル、コ  
 當リ紙幣ト正金トノ開キ及ヒ銀貨ト金貨トノ開キニ見込ミ先ツ之ヲ  
 引キ去ル可シ而テ五百萬圓ヲ以テ毎年新艦ヲ造ルノ費ニ充ツ可シ五  
 百萬圓アレハ前記セル如キ世界第一ノ堅固宏大ノ軍艦一艘宛ヲ造リ  
 得可ク又今ノ扶桑艦以下ノ小形ノ者ナレハ五艘ヨリ十艘迄ノ間ヲ年  
 々ニ造リ得可キナリ然レハ大小ヲ打交テ十年ヲ出テサル内ニ少クト  
 モ堅固ノ鐵艦二三十艘ヲ備ルニ至ルヘク又其ノ注文万端ニ注意行キ  
 届カハ三四十隻ニモ上リ得可シ斯ノ如クナランニハ先ツ東洋海上ニ  
 横行スルコト難カラサルヘシ伊國ノ如キ大軍艦一艘ト堅固ナル小形ノ  
 軍艦數艘ヲ造ルト其ノ入費ハ同様ナルカ故ニ大ナル者ヲ少ク造ルト

小ナル者ヲ多ク造ルトハ歐洲ニテモ其ノ論種々ニテ未タ利害ノ判然ト定マラサルコトナレハ夫等ハ海軍専門ノ人々ノ意見ニ任セ大形ニテモ小形ニテモ最モ實利アル可キ者ヲ造テ可ナリ先ツ造艦ノ費用ハ年々五百万圓ニテ不足ナカル可シ又今ノ海軍費五六百万圓ノ中ニハ新艦ヲ造ルノ費用ヲ含ミ居ルコトナル可ケレハ無論之レヲモ右ノ五百万圓ノ上ニ加算ス可シ然レハ當時ノ歐洲諸國ノ堅艦ニ比較シテ先ツ左マテ不足ハ無カル可キナリ而テ残り五百餘萬圓ハ年々之ヲ造船所或ハ海軍士官及ヒ水兵等ヲ仕立ツルノ費用及ヒ船具ヲ蓄ルノ費用兵器製造所ノ費用船艦ノ修復費等ニ充テ用ヒテ不足ナカル可キナリ尙ホ是ノ五百万圓ノ用方ト海軍ニ關スル大切ノ注意等ヲ左ニ畧記ス可シ先ツ第一ニハ大ナル造船所二ヶ所ヲ設クルコトナリ其ノ法ハ英佛曼三國ノ最モ精練ナル造船會社二ツヲ擇ヒ是レト下ノ如キ約束ヲ爲ス

可シ第一ハ日本政府ヨリ最便恰好ナル地所ヲ貸シ與フ可シ第二ニハ日本政府ヨリ造船所ヲ造ル總費ノ幾分ヲ貸シ渡ス可シ第三ニハ其造船所ニ日本政府ヨリ毎年一割以上ノ利息ヲ保証ス可シ但其ノ會社ノ支出セル金額ノヨニ對シ而テ又第四ニハ其ノ會社ハ毎年造船所ノ總資金ヲ報告シ何時ニテモ相當ノ價ヲ以テ日本政府ノ之ヲ買ヒ上ルヲ拒ム可カラス等ノ條々ナリ尤モ右ノ造船所ハ至大ナル者ニテ西ハ蘇士ヨリ東ハ太平洋海岸ニ至ル迄太平洋印度洋支那海澳良利亞海ヲ引テ總テ日本ノ外ニハ曾テ之レ無キ程ノ廣大完備ナル者ヲ造ルヲ要スルコトナレハ其ノ費用ハ幾千万圓ニ上ル可シ然ルニ半ハ會社ヨリ出タシ幾分ヲ日本政府ヨリ出タストセハ第一ニ費用ノ儉約ナリ且ツ今日ノ日本人ノ手際ニテハ尙ホ斯ノ如キ大造船所ヲ取り扱フノ技術ナシ之ヲ仕込ムニハ十數年ヲ要スルコトニテ早速ノ間ニ合ヒ難シ然ルニ西

洋會社ノ手ニテ之ヲ取リ扱フキハ其ノ用速ニシテ不都合ナシ加フル  
 ニ是等ノ造船所ハ最初ノ内重ナル役目ニハ專ラ洋人ヲ用ルモ中等以  
 下ノ地位ニハ給料安キ日本人ヲ用ル方ヲ悦ブ可シ然レハ日本人ハ是  
 ノ造船所ニ於テ漸々ニ造船ノ術ヲ學ビ後ニハ重ナル役目ヲモ爲シ得  
 ルニ至ル可シ然レハ斯ル造船所ヲ設クルハ日本ニ造船大學校ヲ設ル  
 ト同様ノ利益アル者ナリ又右ノ造船所ヲ以テ印度以東ノ東洋ハ軍艦  
 商船ニ限ラヌ少シ込ニ入りタル修復ヲ右ノ所ニ依頼セシムル程ノ者  
 ニ仕立テ會社ニ對シテハ日本政府ヨリ利息ヲ保証スルカ故ニ作造修  
 復共ニ他ノ各地ノ造船所ヨリハ其ノ價ヲ引キ下ケ少シク航海ノ費用  
 増大モ日本ノ造船所ニ趣ク時ハ差シ引キ甚タ下直ニ其用ヲ足ス  
 出來ル様ナサシメ又其ノ修復萬端ニモ他ノ製造所ヨリ念ヲ入ル  
 多キ様ニ爲スキハ其ノ念ノ入りタルト價ノ廉ナルト如何ナル修復モ

出來ルトノ爲メニ東洋ノ船舶ハ必ス多ク日本ニ來ル可シ然ルキハ是  
 ノ造船所ハ他日日本人民ヲシテ船舶作造ノ術ヲ覺ヘシムルノ端緒ト  
 爲ル可キ者ナリ又右ノ造船所ニツテ造ルハ事アルノ日ニ於テ敵ノ爲  
 メニ一地ヲ陷レラル、モ尙ホ一地ノ造船所ヲ以テ事ヲ辨シ得ルノ用  
 心ニ備フルノミナラス假リニ一方ヲ英ノ會社一方ヲ佛ノ會社トスレ  
 ハ互ニ名譽ヲ得利益ヲ得ント競争スルカタメ自然其ノ怠慢ヲ防ク  
 テ得可シ將々繼ヒ其ノ一會社ノ本國ト日本ト開戦ノ日アラソモ他ノ  
 一會社ノ本國トハ無事ノ間柄ナルヲ得テ其ノ本國ヨリ地金其他ノ物  
 品ヲ日本ニ供給セシムルヲ得可シ是レ二個所ヲ設ルヲ便ナリトスル  
 所以ナリ又今ノ橫須賀ノ如キ政府直轄ノ小造船所一個位ハ是ノ外ニ  
 之ヲ有スルコ必用ナリ何トナレハ海軍兵器ノ新發明ヲ爲スキノ試驗  
 所トモ爲ス可ク又秘密ナル機械ヲ製造スルノ用ニモ充ツ可ケレハナ



リ右大造船所ノ地位ハ大切ナルコトニテ然ル可キ專門ノ人々ノ定ム可  
 キ所ナレハ余ハ唯其ノ大要ヲ説クニ止マルノミ他國ノ造船會社ト約  
 束ヲ結ビ之ヲ其ノ國ノ用ト爲スコトハ一昨年伊國ニテ之ヲ企テタル例  
 アレハ其ノ條約等ノ精細ハ尙ホ其ノ筋ニテ之ヲ取調ルコソ可ナルヘ  
 シ  
 又其ノ次ニハ海陸軍ヲ合シタル大造兵所ヲ設ルコトナリ成ル可クハ是  
 モ亦前ノ法ニ倣ヒ英ノ「アイムストロング」會社或ハ曼ノ「クルプ」會社  
 杯ト相談シ其ノ出店ヲ日本ニ設ケシメ其ノ引キ合フ程ニ政府ヨリ補  
 助ヲ與ヘナハ是ノ企ノ行レサルコトモアラサル可シト思ハル方一、事有  
 ルノ日國內ニテ充分ニ船艦ヲ修復シ或ハ之ヲ作造スルノ所ナク又國  
 内ニテ充分ニ兵器彈藥ヲ造ルノ所ナクハ其ノ不都合亦甚シカル  
 可シ定テ誤聞カト思ハルレハ余ノ記憶スル所ニテハ日本ノ造兵所ニ

テ其ノ全力ヲ盡スモ一日ニ造リ得ル小銃ノ彈藥ハ十五萬發ニ過キス  
 ト聞ケリ然ルニ明治十年西南ノ亂ニハ官軍ノ一日ニ費ス所三十萬發  
 ニ超ヘタリト云フ右ハ其ノ月日兵數モ審ナラス又余ノ傳聞ニモ多少  
 誤リナキニアラサル可シトモ思ハルレハ若シ假リニ之ヲ實事ナリト  
 セハ三十萬發ヲ費スニ僅ニ十五萬發ヲ造リ出タス様ノコトニテハ甚タ  
 覺<sup>チ</sup>東ナキ有様ト云フ可シ尤モ其ノ時ヨリ今日迄ハ最早ヤ八九年ヲ隔  
 タレハ右ニ記ヌ如キ様ノコトナキハ明白ニテ造兵ノ事務モ大ニ擴張シ  
 タル可ケレハ政府歳出入ノ上ニテ其ノ造兵ニ充ツルノ資本金及ヒ作  
 業費ノ高ヲ見テ大抵ハ之ヲ察シ得可キナリ又余ノ傳聞ニテハ一昨年  
 頃日本ノ造兵所ノ全力ヲ極メテ一ヶ月ニ造リ得可キ小銃ノ數ハ一万  
 ヲ超ル能ハストナリ然レハ一個年ヲ費シテ造リ出タス所ハ僅ニ十二  
 萬挺ニ超ヘサル者ナリ勿論是モ惜ナルコトニハアラサトモ假リニ之ヲ

實事トモハ尙ホ不十分ナルカ如ク思ハル平常ハ他ノ鐵細工等ニ之ヲ用ルモ「イザ」ト云ハ、之ヲ造兵ノ方ニ轉用シ少クトモ平均一個月ニ五六万挺ハ容易ニ造リ得可ク十個月ヲ出テスシテ五六十万挺ヲ造リ出タス丈ノ用意ハ有リ度キ者ナリ且ツ今日ノ戰ハ小銃ニ限ラス大砲其ノ他水雷地雷等ノ用ヒ日ヲ逐テ益々盛カンニナルコナレハ兵器製造所モ前ニ記スル如ク西洋ノ會社ト組合ヒ之ヲ設ケナハ常ニ絶ヘス西洋新發明ノ造兵ノ諸器械諸道具ノ手本ヲモ早ク日本ニ傳ヘ入ル、コトヲ得可キナリ

又其ノ次ニ海軍ノ如キハ別シテ器械ヲ取扱フ働キチノミ主トスルコトヲ唯一發ノ大砲ノ打チ方ノ功拙ニテ最大ノ堅艦ヲ打碎テ兩國後來ノ勝敗ヲ定メ又ハ僅ニ五分十分間ノ働キニテ兩國ノ勝敗ヲ定ムル程ノ器械仕掛ケノ争ヒナレハ海軍ハ少シモ油斷ナク西洋諸國ノ海軍ノ

有様ヲ觀察スルコト必要ナリ左レハ日本ノ軍艦ヲハ常ニ絶ヘス西洋ニ巡航セシメ以テ西洋海軍ノ有様ヲ見セシム可シ且ツ海軍生徒ノ如キハ常ニ少キモ四五百人ハ英佛伊露等ノ地ニ留學セシムルコト必要ナリ若シ留學ヲ必要ナラストセハ日本ニテ卒業ノ後チ諸國ヲ遊歴觀察セシムルコト必要ナリ今日余ノ知ル所ニテハ海軍ノ生徒士官ヲ併セテ歐洲ニ在ル者僅ニ五十人ヨリ百人ノ間ニ過キササルニ似タリ實ニ意外ノ少數ト云フヘシ抑モ他日日本ノ海軍ノ強弱ハ西洋諸國ニテ東洋諸國ニアラス又海軍ノ手本モ悉ク西洋ニ在ルコナリ然レハ尙クモ日本ノ海軍ニ列スル者ナラシムハ皆ナ一ヒハ敵國ノ兵備ノ實況ト其ノ手本トヲ目撃シ居ラサル可カラス且ツ西洋ノ實形ニ通シ其手本ニ明ナルノ人數甚ク日本ノ海軍ニ少キキハ所謂鳥無キ里ノ蝙蝠ニテ其ノ人々ハ勿論信切ニ深ク力チ日本ノ海軍ニ盡ス積リニテモ自然油斷有リ

勝チニナラストモ云ヒ難カル可シ若シ苟クモ日本ノ海軍ニ在ル者チ  
 シテ誰レモ同様ニ其ノ手本ニ通シ其ノ實形ニ明ナル者多數ナラシメ  
 ハ人々各々油斷セスシテ互ニ競争ノ心チ増ス可キナリ然レハ何レノ  
 道ヨリ考フルモ僅カ五十人百人計リノ人員チ歐洲ニ滞在セシムルハ  
 不十分ナリ少クトモ五百人内外ハ歐洲ニ在ラシム可シ今マ平均一人  
 ノ費チ一ケ年一千二百圓トスルモ四五百人ニテ僅ニ六十萬圓内外ノ  
 入費ナリ然レハ前記セル五百萬圓ノ中ヨリ之ニ充テ、餘リアルヘシ  
 又其ノ次ニハ日本政府ハ平日ヨリ厚ク北米聯邦ノ兵器製造家ニ親キ  
 交チ結ヒ置ク必要ナリ若シ日本カ万一ノ事アルニ當テハ何レノ地  
 ヲリカ我カ兵器彈藥ヲ造ルノ地金例セハ鋼鐵ノ類其ノ他ノ材料ヲ手  
 ニ入レチハナラズ然ルニ若シ不幸ニシテ其ノ時ニ當リ西ノカタ歐洲  
 ヲリ供給チ受クルノ道チ敵國ノ爲ニ斷タレナハ之チ如何ニスヘキヤ

幸ヒニシテ尙ホ我ニ太平洋海上ノ權力チ有スルキハ唯絶ヘズ米國ノ  
 西岸桑港杯ヨリ之チ供給セシムルノ一法アルニ尤モ我カ海軍既ニ  
 敗レテ敵ニ海上ノ權チ奪ハレタル時ト雖モ歐米ノ山師共ハ竊ニ敵ノ  
 封港ノ禁チ破リ兵器彈藥チ敵ノ目ニ掛ラサル日本ノ海岸ニ持チ來テ  
 賣リ渡シ大利ヲ獲ント謀ル者モアル可シ是ハ往々諸國ノ戰ニ其ノ例  
 アルコナリ去リ乍ラ其ノ時ニ臨テ唯タ一二ノ山師共チ頼ミニシ之ト  
 賣買ノ約束チ爲スカ如キハ甚タ不安心ノコニテ其供給モ亦タ永續シ  
 難カル可キナリ然レハ無事ノ平日ヨリ兼テ其ノ心得チ爲シ置キ日本  
 ニ歐洲中原ノ兵器彈藥チ得ルノ道ハ唯米國ヨリスルニ在リト覺悟シ  
 居ル可キナリ左レハ平日ヨリ日本政府ハ暗ニ米國ノ然ル可キ製造家  
 又ハ歐洲ノ兵器ヲ日本ニ輸入スルコニ任ス可キ米國ノ商人ニ交リ置  
 クニ必要ナリ尤モ米國ノミニ限ルニアラス歐洲ノ商人等ノ中ニテモ

同様ナリ然レモ右ノ策ノ役立ツ可キハ日本ノ海軍カ東海ノ權ヲ失ハ  
 サルヲ必要トスル者ニテ西ノ方西洋ノ敵國ト相闘メシヨ當リ太平洋  
 ヨリ兵器ヲ得可キ爲メノ手續ナリ若シ已ニ我カ海軍ヲ敗ラレ敵ノ爲  
 メニ諸港ヲ封鎖セラル、以上ハ是等ノ手段ヲ用ルモ其ノ功能ハ甚タ  
 少シ然レハ先ツ我ニ強盛ナル海軍アリテ後チ是ノ手段モ亦タ其功ヲ  
 奏スルモノナルヲ勿論ナリ又日本カ何レノ國ト開戦スルモ差シ當リ  
 入用ナルハ金錢ナリ内國ニテハ當分ノ間々紙幣ヲ發行シテモ其ノ用  
 ナ辨ス可ケレモ外國品ヲ買ヒ入ル、ニハ正金銀ナカル可カラス然レ  
 ハ非常ノ節速ニ公債ヲ歐洲諸國ニテ募リ得可キ様ニ平日ヨリ手ヲ廻  
 シ英佛杯ノ然ル可キ商人等ニ政府ヨリ勳章杯ヲ與ヘ贈リ物杯ヲモ與  
 ヘ「イザ」ト云ハ、日本ノ爲メニ借金ノ周旋人ト爲ル可キ様ニ待遇シ置  
 クヨ亦タ必要ナリ若シ然ラスシテ事アルニ臨ミ卒然ト英佛ノ市場ニ

テ國債ヲ募ラント欲スルトモ誰カ容易ニ我國ヲ信用シテ大金ヲ貸シ  
 出大者ノアル可キヤ是等ハ平日ニ於テ深ク注意シ置ク可キコナリ  
 又其ノ次ニハ陸軍ニ對シテ海軍ノ位置ヲ高クスルニ在リ通例諸國共  
 ニ其ノ位置ハ陸軍ヲ上トシ海軍ヲ下ニ置クコナリ我國ノ如キモ之ニ  
 從テ双方ノ位置ヲ定メタルハ穩當ノ事ナリト雖モ日本チシテ海上強  
 國ノ中ニ位セシメント欲スルニハ一タヒ日本人民ノ耳目チ一新スル  
 程ノ所置ヲ爲サ、ルヘカラス然レハ他國ハ兎モアレ日本ノミハ海陸  
 軍ノ位置ニ於テハ海軍ヲ上ニシ又海陸軍ノ士官ノ坐次モ双方同級ノ  
 者ナラハ就官ノ先後ニテ互ニ上ニナリ下ニナル様ニシ海軍ハ少クト  
 モ陸軍ト同等ナルヘク是ヨリ下ラシメサル様ニ取り扱フ可シ又海軍  
 ハ其ノ將校ヨリ水夫水兵等ニ至ル迄陸軍ノ將卒及ヒ同級ノ文官ニ比  
 スレハ其ノ給料ヲ多クシ疾病死亡等ノ手當ヲモ一層厚クス可キナリ

斯ノ萬事ノ手當ヲ厚クスルトモ海軍將卒ノ人數ハ甚タ僅少ナル者ニ  
 テ左マテ費用ヲ要セサルコナリ一昨十七年英ノ如キ海軍國ニテモ海  
 軍將卒ノ總數ハ三万五千ヨリ四万ノ間ニテ伊國ハ一万五千人露國ハ  
 二万六千人佛國ハ三万八千人ニ上ラサルコニテ若シ之ヲ右諸國ノ陸  
 軍ト比較シナハ幾ント幾十分ノ一トモ云フ可キ數ナリ然レハ今日本  
 ガ是等ノ諸國ヨリ多數ノ士官ヲ養ヒ水兵ヲ備ルトスルモ其ノ數ハ先  
 ツ五万内外ニテ可ナリ然ランコハ如何ニ厚ク之ニ供給スルモ莫大ノ  
 費用ヲ要スル者ニアラサルナリ右ノ如キ譯ケ故ニ海軍ハ其生徒ヲ募  
 ルニモ之ヲ遇スルニモ其ノ他將卒ノ取扱等モ凡テ之ヲ豐カニシ又非  
 常ニ榮譽ヲ與ヘテ之ヲ取扱フ可シ且ツ斯ク兵數ノ少キコナレハ成ル  
 可ク將卒共ニ其ノ体格ノ檢査ヲ嚴重ニシ務メテ身體長大ノ者ヲ撰ム  
 可シ歐洲ニ在テ日本海軍ノ將卒ヲ見ルニ甚タ長大ナラサルニ似タリ

戰ノ巧拙ハ人体ノ大小長短ニハ依ラサル可シト雖モ成可クハ長大ナ  
 ルカ上ニモ長大ナル者ヲ選ヒ度コナリ艦内ノ働キハ多ク器械ヲ取扱  
 フコニシテ陸軍兵ノ如ク唯小銃ヲ取扱フノミキアラサレハ長大多力  
 ノ者ヲ用ルト用ヒサルトハ幾分ノ差ヒアル可シ又右ノ如ク兵數少キ  
 コナレハ日本ノ人口三千五百万人ノ志願者中ヨリ長大ナル者ノミチ  
 以テ之ニ充ツルモ難キコニハアル間數ナリ將タ一國ノ兵備ノ方向ヲ  
 斯ク定ムル以上ハ全國ノ人民ヲシテ我カ國ノ保護者ハ唯海軍ナリト  
 思ヒ當ラシメ之ニ從事スル將卒ヲ愛敬スルニ至ラシムル様ノ國風ヲ  
 作ルモ亦難キコニアラサルナリ斯ノ如クナリテコソ我海軍ニ益々良  
 好ノ將卒ヲ得ルニ至ル可シ  
 兵備ノ方向ハ國柄次第ナルコナリ忘ル可カラス敵ニ對スル間合ヒ近ク  
 シテ銃砲ヲ用ルニ違アラズ刀劍ニテ接戰スルノ國柄ナレハ先ツ心ヲ

刀劍ニ盡シテ銃砲ヲ後ニス可シ若シ又之ニ反シテ敵ト我トノ間合ヒ甚ク遠ク先ツ銃砲ヲ用テ然ル後ニコソ刀劍ニテ接戦ス可キ國柄ナレハ先ツ力ヲ銃砲ニ盡シテ刀劍ヲ後ニス可シ佛曼埃等ノ國々ハ「イザ」ト云ヘハ先ツ陸軍ノ戦始マリ陸兵ヲ以テ存亡ヲ決スルノ國柄ナリ然レ日本英國ノ如キハ「イザ」ト云ヘハ先ツ海軍ニテ戦ヒ始マリ其ノ勝敗定テ後ニ始テ陸軍ノ戦ト爲ルコトナリ然レハ佛曼埃ノ如キ陸國ト日英ノ如キ海國トハ其ノ有様ノ相異ナルコト恰モ砲銃ヲ用ヒルニ及ハスシテ先ツ刀劍ヲ用ル者ト先ツ銃砲ヲ用ヒシ後ニアラサレハ刀劍ヲ用ヒルニ至テサル者トノ區別アルカ如キナリ善ク是ノ理ヲ考ヘナハ今日日本ニ於テ兵備ノ方向ヲ定ムルカ如キノ急務ナル者ハアラサルサリ」我カ海軍カ敵ニ敗ラレスシテ敵ト互ニ海上ノ權ヲ相争ヒ居ル間ニモ國內ニ上陸スルノ敵ハ勿論陸軍ニテ之ヲ防カチハナラズ又敵國ノ屬

地ヲ奪フカ爲メニハ海外ニ陸軍ヲ出タシテ之ヲ用ヒチハナラズ然レハ日本ト雖モ陸軍ニ力ヲ用ヒスシテ可ナルノ理ハ固ヨリ之レ無キコトナリ然レモ日本ノ陸軍ノ今日ノ有様ニ付テ余ハ別ニ論ス可キ程ノコトモナシ乍去ラ論ス可キ程ノコトナシトハ其ノ大体ヲ云フ者ニテ若シ細カナル箇條ヲ注視シ其ノ細カナル箇條ノ積リテハ勝敗ヲ助ク可キモノトナル事柄ニ至テハ之ヲ論ス可キ者ナキニアラス然レハ是ヨリ以下ニハ海陸軍ノ別ナク兩者ヲ合シテ後來ニ勉ムヘキ條々ヲ零記ス可シ

戦ノ勝敗ヲ決スル者ハ兵士ノ技術ノ巧拙ト其ノ勇怯トニ在ルコトナカラ近來ノ戦ヲ案スルニ技術ノ巧ト拙トハ常ニ勇ト怯トヨリモ多ク勝敗ヲ決スルニカアルカ如シ是レ甚ク怪ム可キノコトナリ何トナレハ今日ハ是レ陸ニハ汽車アリ海ニハ汽船アリテ世界ヲ一周スルサヘ僅ニ

尤週間の時可ニテ足ル可キ程ニ諸國トノ交通容易ニモアリ又頻繁ニ  
 モアリ又電信杯ノ便アル上ニ郵便ノ仕組モ諸國ニ通セサル所ナク又  
 諸國共ニ幾千種ノ新聞紙アリテ一事一物モ之ヲ廣ク傳ヘサルヲナシ  
 然レハ斯ノ如キ時世ニ於テハ戰ノ技術杯モ一國ニテ之ヲ發明スレハ  
 他ノ諸國忽チ之ニ倣ヒ得可ク一ノ兵器ヲ造リ一ノ戰艦ヲ造ルモ其製  
 甚ク便利ナリトノ評判アレハ他ノ諸國直ニ之ヲ用フルヲ隨意ナレハ  
 諸國共左シテ其兵器兵術ニ霄壤ノ優劣ヲ生スル次第モアル間敷カ如  
 シ戰爭ノ技術ニ巧拙ノ差異アリテ其差異ノ爲メニ勝敗ノ生スルヨリ  
 ハ寧ロ勇怯ニ因テコソ勝敗ハ定マル可キニ似タルニ非スヤ早ク云ハ  
 兵器ノ利鈍ト兵器ヲ取扱フノ巧拙トハ双方共ニ優劣ナク今ハ唯其  
 兵ノ勇怯ノミニテ勝敗ヲ定ム可キ時世ノ如ク見ユルニアラスヤ然ル  
 モ尙ホ歐洲ニ接近スル土國ト露國トノ戰ニ於テ露ノ勝ヲ得タルハ唯

將卒ノ勇ナルノミニアラサリシナリ勇怯ノ點ノミニ付テ云ハ、回教  
 ナ奉スル土兵ハ幾ント露兵ニモ勝サルカト想ハル、程働キシナリ然  
 レハ兵器ノ取扱方算數上ヨリ推テ壘砦ヲ起シ又ハ兵隊ヲ練廻ス事黒  
 海ニテ水雷火船ヲ善ク用ヒシ事或ハ大砲ノ善ク的中スル事等ニ至テ  
 ハ露兵ハ常ニ土兵ニ勝サリタリキ則チ露兵ノ土兵ニ克チタル所以ハ  
 此ニアリシナリ而テ是等ノ事ハ則チ皆チ兵事ノ技術ト云フ可キ者ナ  
 リ又佛曼二國ノ如キハ相隣テ均ク何事ニモ通シタル國柄ナリ然ルニ  
 「イザ」ト云フニ當リ幾十萬ノ大兵ヲ二三週間ノ中ニ集メテ繰出タスト  
 云フ算數上ヨリ生シタル手配リノ巧拙ノミニ因テ最初ニ曼兵ハ多數  
 ナリテ佛兵ノ未タ全ク集ラサル少數ナル時ヲ連破シ佛兵ハ手後クレ  
 々々トナリテ之ヲ盛り返スニ追ナク双方ノ勝敗ノ大勢ハ遂ニ之  
 カ爲ニ定マリタリシナリ又大砲ノ如キモ曼兵ハ已ニクルア形ノ元込

メチ用ヒテ佛兵ニ比スレハ彈丸モ遠方ニ達シ其ノ狙ヒモ亦タ精密ナ  
 リキ是ノ事モ亦タ曼兵ノ利ヲ得タル一原因ナリ故ニ佛人ハ前敗ニ懲  
 リ今日ニテハ非常ニ是等ノ諸事ニ注意シ居ルコトナリ右ノ如ク速カニ  
 兵ヲ集メテ繰出スノ手配リト云ヒ大砲ノ製式ト云ヒ是レ皆ナ兵事ノ  
 技術ニ屬スル者ナリ左レハ先年曼佛ノ大戰モ其ノ勝敗ハ兵士ノ勇怯  
 ニノミアラスシテ寧シロ技術ノ巧拙ヨリ生シタリト云フモ可ナリ  
 古ヨリ開化ノ國ガ未開ノ國ニ勝ツハ常ニ技術ノ巧拙ノミニ因ルコト  
 テ悉皆其ノ例ナラサルハナシ一方ノ未開ノ民ハ石片ヲ磨テ戈斧トナ  
 シ之ヲ打テ振りテ向ヒ來ルニ稍々開化セル民ノ方ハ鋼ヲ用ヒタル鎗  
 ナ揮ルヒ又ハ十五間内外ノ遠キニ達ス可キ精巧ノ弓箭ニテ之ヲ射倒  
 スコトナレハ如何ニ心ハ矢竹ニ逸ヤルトモ未開ノ民ハ之ニ敵スルコト能  
 ハスシテ其ノ勇氣ハ常ニ技術ノ爲メニ壓倒セラレ到底之ニ降服スル

コト爲ルナリ槍刀弓箭ノ時代ニ於テサヘ技術ノ巧拙カ勝敗ヲ定ムル  
 ノ大ナルコト斯ノ如シ況ンヤ八丁十丁ノ遠方ヨリ鐵塊ヲ飛セテ人ヲ殺  
 スノ道具アル今日ニ於テハ其ノ兵器ノ利鈍ト之ヲ取扱フ技術ノ巧拙  
 トニ因テ勝敗ノ定マルハ實ニ當然ノ事ナリ近ク日本ノ例ヲ舉グルモ  
 明治十年西南ノ亂ニ老西郷ニ從フタル薩摩ノ子弟ハ勇氣ト云ヒ覺悟  
 ト云ヒ是ノ點ニ於テハ如何ナル敵ニモ決テ劣ル可ラス且ツ其ノ兵數  
 モ亦タ甚ク多カリシニ遂ニ敗北ヲ免レサリシハ則チ官軍ノ兵事ノ技  
 術カ總テ之ニ勝ナタルニテ其ノ兵器モ銳利ナリ其ノ訓練モ行届キタ  
 ル等ノ力ニ因ル者ナリ右トハ全ク異ナル例ナカラ少數ノ英人カ二億  
 ニ越ヘタル印度ノ人民ヲ相手ニ戰ヒ次第々々之ヲ破リ每戰概チ利  
 ナ得タルハ又兵器ヲ取扱フ技術智慧ノ勝クレ居リタルカ故ナリ是等  
 ノ例ハ數多キコトニテ開化ノ兵ト未開ノ兵トノ戰ノミナラス開化ノ兵



カ相互ニ戰フニモ其ノ勝敗ヲ定ムル者ハ先ツ五分以上ハ其技術ノ巧拙ニ在ルヲナリ

今日日本ノ兵ト西洋ノ兵ト相ヒ戰ハシコ何レカ勝ツ可シト云ハ、海陸軍共ニ西洋ノ兵ニ勝テ取ラレ、ノ恐レアリト考フル者甚ク多カル可シ然ラハ何故ニ彼ニ勝テ取ラレ、ヤノ恐レアルカト其ノ仔細ヲ平々ト考ヘナハ前ニ記スル如ク唯兵事ノ技術ノ巧拙ノ差アルニ外ナラス東洋諸國カ常ニ西洋ノ兵ヲ恐ル、ハ唯兵器ノ用ヒ方ノ巧ニシテ敵シ難キヨリ外ニ別ニ劣ル可キ箇條ナキナリ今唯余ノ見聞スル丈ケノ所ヲ以テ考フルニ西洋ノ兵ニ對シ日本ノ兵ハ其ノ勇氣決シテ之ニ劣ル可シトハ思ハレス又進退ノ駆引キモ遲鈍ナラントハ思ハレス又槍刀ヲ用ヒルコトモ拙ナシトハ思ハレス然レモ若シ大砲ニテ千ヤルド五百ヤルドノ遠方ノ敵ヲ打テ斃スニ至テハ洋兵ハ三發ニ二發ヲ命中スル

ニ和兵ハ只一發ヲ命中スルノ差異ヲ是處ニ生シ又算數上ヨリ推考シテ壘砦胸壁等ヲ築クニ當リ洋兵ハ其算法精密ニシテ和兵ハ粗ナルノ差異ヲ是處ニ生スルノ恐レアリ若シ和兵中ニモ彼ニ劣ラサル精密ノ士官アリトスルモ其人數ハ西洋ノ方ニ多クシテ我ニ少キノ恐レアリ又小銃ヲ射ルニモ遠方ノ處ヲ命中スルハ大砲ト同様ニテ彼兵ハ十ノ七八ヲ命中スルニ我ハ五六ヲ命中シ得ルニ過キサルノ恐レアリ又土工兵カ道路ヲ造リ橋梁ヲ造ルニモ彼ハ手早ク巧クテ我ハ遅ク拙キノ恐レアリ又將校カ大兵ヲ指揮スルニ當リ彼ハ遠近ノ距離其他ノ地形ヲ直ニ數理上ヨリ推シテ兵士ヲ進退シ某地ヨリ某山迄ハ何里位ノ遠サニ見ユレハ幾千ノ兵士カ幾万歩ニテ何時間ニハ是ニ達ス可シトカ之レヨリ引キ揚ク可シトカ凡テ學術上ヨリ其ノ工夫ヲ出タスニ我ハ學術ニモアラズ數理ニモアラズ唯氣轉ノニテ指揮スルコト多カル可

キヤン恐レアリ右ノ如ク彼ノ優レル所ト我ノ劣ル所トハ皆ナ兵事上  
 ノ技術ノ巧拙ト稱ス可キ者ニシテ雙方ノ勇怯ニハアラサルナリ而テ  
 我兵カ西洋ノ兵ニ當リ得サルヤノ憂ハ即チ常ニ是等ノ點ニ在ルニア  
 ラヌヤ抑モ兵事ノ技術ノ巧拙トハ早ク云ハ、兵事ニ關スル智慧ノ用  
 ヒ方ノ多キト少キトニ外ナラス實ニ今日ノ戰ハ輕業<sup>カルワザ</sup>ノ如キ世ノ中ニ  
 テ僅カ一尺立方ノ藥ニ火ヲ點スレハ鐵ヲ以テ造リシ幾百萬圓ノ價ア  
 ル軍艦ヲモ即坐ニ破裂セシメ又敵ノ形スラ見ヘ難キ程ノ遠方ヨリ鐵  
 ヲ飛ハセテ一時ニ幾十百人ヲ斃シ又場合ニ依テハ僅カ一人二人ニテ  
 五六分間ニ二三百發ノ銃丸ヲ飛セ得ルノ道具モアリ水底ヲ潜リ行ク  
 船モアリ又空中ヲ飛ヒ行ク船モアリ幾シト智慧比ヘノ世ノ中ニテ兵  
 器ヲ取扱フ技術ノ上ニテ忽チ雙方ノ間ニ大ナル差ヲ生シ優劣ノ隔ア  
 ルト猶ホ彼ノ前ニ記シタル未開ノ民ハ石戈石斧ヲ打チ揮リテ戰フニ

開化ノ兵ハ鋼戈鋼刀ヲ以テ之ヲ打チ破ルノ有様ト何モ別ニ變ルコトハ  
 ナキナリ然レハ日本ノ兵士ハ技術ニ拙劣ナルヲ以テ其ノ大患ト爲スモノナレ  
 ハ先ツ第一ニ之ヲ心掛ケルコト必要ナリ付テハ兵器ノ銳便ナル者ヲ發  
 明シ或ハ之ヲ改良スルカ爲メニ日本ニ於テ海陸軍理科大學校ト云ヘ  
 ル者ヲ設ケ之ヲ盛大ニシテ火藥ノ改良ハ勿論小銃大砲ノ改良ヨリ風  
 船海底船軍用電信砲車及ヒ運送車ノ製其ノ他凡テ兵事ニ關スル者ニ  
 シテ理學ノ工藝ニ屬スル者ヲ悉皆是ノ所ニテ研究セシム可シ是ノ大  
 學校ヲ盛ニシテ其ノ供給ヲ厚クシ毎年五十萬圓内外ヲ試驗費ニ費ス  
 位ニ力ヲ用ヒナハ必ス大ナル結果アル可シ然レモ一ノ兵器ヲ發明ス  
 ルモ深ク理學ニ通セテハ中々思ヒモ寄ラヌコトナレハ或ハ數年ノ間工  
 夫ヲ凝シ金ヲ費スノミニテ一ノ用フルニ足ルヘキ兵器ヲモ發明改良

夫ルニ至ラスシテ百事徒費ノ如ク思ハルハコモアル可シ然レモ之レ  
 實ハ徒費ニアラス何トナレハ我レ自ラ發明スル程ニ事物ニ心ヲ用フ  
 ルキハ他人ノ發明シタル事物ヲ見ルニ當リテ之ヲ吞込テ早キノミナ  
 ラス已レノ有様ニ從テ已レニ適當スル様ニ一層便利ニ之ヲ改良スル  
 事ノ出來ル者ナレハナリ深ク是ノ理ヲ考ルコト甚ク大切ニテ兵器ニ限  
 ラズ總テ日本人カ西洋ノ器械事物ヲ輸入スルモ常ニ十分ニ之ヲ利用  
 スルコト能ハサルハ其ノ罪因多クハ唯タ人ニ倣フノミニテ自ラ之ヲ其  
 心ニ求ムルコト少キニ坐スル者ナリ我自ラ辛苦シテ之ヲ心ニ求メ他人  
 ノ力ヲ假ラスシテ之ヲ發明改良セシト勉ルホドナレハ他人ノ發明セ  
 ル事物ヲ一寸見ルモ忽チ之ヲ覺リ大ニ之ヲ利用シ得ルノ働キヲ生ス  
 ル者ナリ余カ海陸軍理科大学ヲ起サント云フモ則チ自ラ之ヲ己レ  
 ノ心ニ求ムルノ氣力慣習ヲ日本人ニ生セシメ歐洲ノ兵器ヲ實ニ利用

シ得ルノ働キヲ長セシメント欲シテノコトナリ且ツ年月ヲ永ク歴ル後  
 ニハ是ノ大學校ニテ又眞ノ發明改良ヲモ爲シ得ルニ至ル可ケレハナ  
 リ凡テ歐洲ノ諸國ハ互ニ他國發明ノ兵器ヲ利用シ其ノ發明ノ本家ニ  
 劣ラサルヲ得ル所以ハ常ニ他人ノ發明ニ習ハントノミ思ハスシテ己  
 レ自ラ之ヲ造リ出サントノ心掛ケ甚ク強キカ故ナリ己レノ發明ハ七  
 八分ニテ二三ノ不足アル所ニ他國ノ發明ヲ知レハ唯其ノ二三ノ  
 不足ヲ補フノミニテ事足レハナリ若シ之ヲ常ニ人ノ發明品ヲ用ヒシ  
 トノミ思ヒ居リテ己レ自ラ發明ヲ心掛ケサルノ國人ニ比スレハ双方  
 ノ間ニ大ナル優劣ヲ生スルモ亦タ當然ノコトニアラスヤ今日ノ兵器ハ  
 其用ヒ方甚ク入込ミテ六分數見ユレモ其實ハ昔シテ弓箭刀鎗ヲ學フ  
 ヨリモ反テ容易ナル場合アリ何トナレハ弓箭刀鎗ヲ巧ミニ使フ所  
 術ヲ其師匠ヨリ習ヒ覺ヘシト欲スルニハ門人ハ常ニ漠然トシテ甚ク

其ノ端緒ヲ得ルニ苦ムコトナリ何トナレハ是等ノ術ハ所謂自得ノ妙ニシテ何所ヲ押ヘ何所ヲ捕ヘテ茲ソト云フヲ得サレハナリ然ルニ今日ノ兵器兵具ハ空中ヲ飛ヒ水底ヲ行キ或ハ一里ノ外ニ鐵ヲ飛ハス如キノ技術モ皆ナ是レ押ヘ所アル理學ト捕ヘ所多キ數理等ヨリ考ヘ出タシタル者ナレハ若シ善ク心ヲ用ヒテ研究スル者ハ之ヲ學ヒ得ルモ容易ニシテ之ヲ人ニ授クルモ亦タ容易ナリ然レハ何レカト云ハ、今日ノ兵器製造及ヒ其ノ取扱方ハ反テ古ヘノ弓箭刀鎗ノ術ヨリモ難カラサル者ナリ善ク此理ヲ考ヘナハ徒ラニ兵器ハ西洋ニ及ハストテ落膽スルハ大ナル心得違ヒナルヲ知ル可シ右ノ理科大學校ニハ前ニ記セル一千萬圓ノ残り高五百萬圓ノ中ヨリ支給セハ十分ナル可キナリ然レハ右ノ學校ハ永遠ノ謀ヲ爲シテ其ノ必要ヲ論シタル者ニテ差當リ眼前ノ事ニ右ノ學校ヲ以テ満足ス可キニアラス日本ノ兵事省ヨリ

平生常ニ重賞ヲ懸ケテ新發明ノ兵器船舶ヲ歐米ノ有名ナル發明者等ニ募ルコト肝心ナリ今歐米ノ有名ナル發明家ニ告グルニ我カ國ノ地形ニテ斯クシノ兵器入用ナレハ若シ然ルベキ者ヲ發明シテ實用ニ堪ヘナハ幾萬圓ヲ賞與ス可シトノコトヲ以セハ發明者連ハ悦テ之ヲ引キ受ル者アル可シ又約束次第ニテハ其ノ試驗費ノ幾萬圓及ヒ其間ハ月々若干ノ金ヲ生活ノ爲メニ與フルトスルモ可ナリ斯ノ如クセハ必ス徒費モ多カル可ケレハ其ノ中ニハ必ス用ニ堪ユル者モ生ス可シ唯一個ノ用ニ堪ル兵器ヲ手ニ入レテモ事アルノ日ニ之ヲ用ヒテ功アラハ是レ一國安危ノ際ニ幾千百萬圓ニモ換ヘ難キ莫大ノ利益ト爲ルコトナリ又死馬ノ骨ヲサヘ千金ニテ買ヒ入レシトテ生キタル駿馬ヲ賣リニ來タル者多カリトノ譬ヘノ如ク歐米ノ發明者等カ日本政府ノ銳意斯ノ如シト聞ガハ我ヨリ求メストモ彼ヨリ進テ其ノ發明ヲ賣リニ來ル

者多カル可シ昔シ露英ノクライミヤニ戰ヒシ時英政府ニテハ米ノ發明者ヨリ新形ノ絶大ノ大砲ヲ大金ニテ買ヒ上ケシニ扱テ其ノ大砲ハ重キニ過キテ戰地ノ實用ニ適セス今日ニ至ル迄英ノ兵庫ニ打テ捨テアリ世ノ物笑ヒトナレリ英國スラ時トシテハ斯ル誤リアルトナレハ日本ノ如キハ随分不用ナル發明品ヲ買ヒ込ムトモアル可シ去リ乍ラ買ヒ誤ル中ニハ良品ニ買ヒ當ルトナレハ強テ之ヲ憂フルニハ及ハサル事共大リ

今日西洋諸國ハ輕便ナルカ上ニモ輕便ニ銳利ナルカ上ニモ銳利ナル兵器ヲ發明スルトハ毎年毎月絶エズ進歩スルノ姿ニテ其有様ヲ譬フレハ恰モ急流ヲ下ル舟ノ矢ノ如ク進ミ行クカ如シ然ルニ但タ時々之ヲ視テ之ニ倣フモノハ只今其舟ノ某處ニアリシテ之ニ倣フニ異ナラズ一時間二時間ヲ經ル内ニハ最早其ノ手本トセシ舟ハ二里三里ヲ隔

リタル迥カ先キノ處ニ進ミ居ルモノナリ然レハ日本杯ヨリ來リテ只タ其時々ノ兵器ノ有様ヲ吞込ミ歸テ之ヲ日本ノ兵備ニ施ス二三年ノ間ニハ其本家タル歐洲諸國ニテハ最早更ニ新様ノ異ナリタル輕便銳利ナル兵器ヲ用ヒ居ル可シ然レハ兵事ノ技術ノ巧拙ニ至テハ我ハ常ニ彼レニ一步ヲ後ル、ノ姿ニテ古ヨリ技術ノ巧拙カ勝敗ニ大關係アルヲ勇怯ヨリモ大ナルヲ前ニ述ルカ如ク兵器ニ付テ日本ノ患ハ技術ニ拙キヨリ大ナル者ナントセハ之ヲ救フノ道ハ只タ上ニ述ヘタル海陸軍理科大學校ノ手段ヲ用フルヨリ外ナシ尤モ斯ク云ヘハ迎只タ自カラ己レニ發明スルトノミヲ求テ他國ニ倣ハサルモ可也ト云フノ意味ニハアラス歐洲ニテモ英佛曼伊露皆ナ競テ他國ノ發明ヲ利用スルトナレハ日本ノ如キハ無論之ヲ利用スルコソ經濟ナレ但タ眞ニ之ヲ利用シ得ルノ道ハ自カラ之ヲ發明セント勉ムル程ニ心掛クルニアラ

サレハ決テ能ハサルモノナリ是ハ獨リ兵事ノミニ限ルニアラス他ノ  
 學術技藝共ニ我國人ノ患ハ唯タ人ニ倣フヲ競テ之ヲ己レノ發明ニ  
 求メサルニアリ事ノ少シク通常ニ異ナル者ニシテ他人ノ未タ之ヲ行  
 ハサル者ハ己レ決斷シテ先ツ之ヲ行ハント務ムルノ勇氣甚タ乏シキ  
 一ナリ今其一例ト歐洲人カ細事ヲモ利用セント務ムル事ノ話トナ記  
 シテ彼此ノ有様ヲ比較スヘシ

昨年ノ事ナリシカ倫敦ノ近處ニテ盜賊ノ田舎道ニ徒歩シテ逃レタル  
 一アリ之ヲ追捕スルニ當リ同處ノ巡查ハ自轉車ニ打乗テ之ヲ追掛シ  
 カ近來ハ自轉車ノ制式益々輕便ニ趣キ一時間ニ日本ノ五里内外ノ道  
 ヲモ行キ得ヘキカ故ニ右ノ屯署ニハ之ヲ備ヘアリシ由ナリ一方ハ徒  
 歩ナレハ道ノ抄取<sup>ハカ</sup>ヲ間ニ一方ハ右ノ輕車ニテ走リシカ故ニ立トコロ  
 ニ追付テ之ヲ捕ヘタル一アリ因テ余ハ熟々考ルニ陸軍ニテ兵ヲ驅引

スルニ當タリ遠路ヲ進ムノ兵ハ未タ戰ハサル前ニ已ニ途中ニテ疲レ  
 戰地ニ臨テ大ニ其ノ働ヲ減スヘシ然レハ是等ノ場合ニハ地形ニ因テ  
 ハ自轉車ヲ用ヒ兵隊ノ足ニ代ヘナハ無用ナル疲レヲナサシメサルヲ  
 得ヘシト思ヒ少シク兵事ニ縁アル人々ニモ語リシ一アリシカ多クハ  
 皆ナ唯タ之ヲ冷笑スルノ有様ナキニアラサリシ余ハ固ヨリ兵事ヲ專  
 務トスル者ニモアラサレハ深ク心ヲモ留メスシテ打過キタリシニ昨  
 年ノ秋埃國ニテハ例年ノ實地大演習ニ於テ傳令通信ノ任ヲ帶ル將卒  
 ニハ此自轉車ヲ用ヒシメ之ヲ試ミタリシニ甚タ都合好ク後來ハ實地  
 ニ之ヲ使用スヘシトノ評判ナリキ右ノ車ヲ兵事ニ用フルハ蓋シ遠カ  
 ラスシテ盛ナルニ至ルヘシト思ハル然レハ其用ヒ方コソ異ナレ兎角  
 自轉車ヲハ利用セシ者ト云フヘシ埃國人カ之ヲ用フルヲ見タル後ニハ  
 始テ之ヲ用フヘキ者ナリト思フモ他人ニ關セヌ已レ先ノシテ之ヲ利

用セントスルノ有様ナキコ此ノ如クナルキハ他ノ萬事モ人ニ先ダツ  
ノ精神ニ乏キコ甚タ大ナルコ想フヘシ  
實ニ兵事ホト大切ナル者ハナク一日ノ戰ニテ幾千万ノ財ヲ費セシ用  
意モ無用ニ屬シ幾十年ノ功勞ヲ積タル辛苦モ無用ニ屬シ勝敗ノ決ノ  
定マル以上ハ最早之ヲ奈何ニスル能ハス左レハ只々其大切ナル一日  
ノタメニ歐洲諸國ハ平日ヨリ力ヲ盡シ心ヲ窮メテ如何ナル細小ナル  
事物モ之ヲ利用セント勵ミ勉ルハ實ニ驚クヘキ現況ナリ古人モ云シ  
如ク十年之ヲ養フハ一日ノ用ヲ爲サンガ爲ナレハ之ヲ養ヒ之ニ備ル  
カ爲ニハ實ニ細事ト雖モ心ヲ留テ之ヲ慮カラサル可ラス佛國ニテハ  
大砲及ヒ荷物ヲ汽車ニ積乗セ或ハ積卸スノ演習杯ヲモ非常ニ勉強ス  
ルコナリ勿論「イザ」ト云ハ、國境ニ繰出スニハ鐵道ヲ用フルカ故ニ然  
カアルヘキコナリトハ雖モ大砲及ヒ荷物ノ積乗セ積卸シノ如キ細事

スラ兵士ノ大切ナル演習ノ一部トナシ居ル杯ハ實ニ感心ノ事ト云フ  
可シ又細事ニ心ヲ用ルノ例ヲ舉レハ佛曼共ニ鳩ヲ兵事ニ利用セント  
備置シコナリ日本ニテ寺或ハ社杯ニ棲ムモノナリ曼國ニテハ其國內  
ニ八ヶ所ノ鳩郵便局アリテ其場處々々ハ佛國ニ近キストラスボルグ  
及ヒメツズ又タ露國ニ境スルソールン及ヒポーセン等ノ如キ重モナ  
ル場處ニテ一局ニ用ル所ノ鳩ノ數ハ概テ五六百羽ナリ之ヲ用ル方ハ  
先ツ日本ノ半紙三四枚許ノ紙ニ文言ヲ通例ニ認メ寫眞ニテ之ヲ小キ  
紙ニ縮メ取り此小サキ薄キ紙ヲ小サク卷キテ鷺管ノ中ニ納メ之ヲ鳩  
ノ尾ニ結ヒ付ルコナリ然ル後之ヲ縦チ出スキハ鳩ハ幾百里ヲ翔テ次  
ノ局ニ到ル然ルキハ兼テ馴ラシアルコナレハ鳩ハ其嘴ニテ設ケノ小  
サキ箱ノ戸ヲ突キ明ルコナリ然ルキハ鈴鳴リテ其局ノ番人鳩ノ來ル  
ヲ知り鳩ノ尾ニ結ヒタル鷺管ヲ解去リ又寫眞法ニテ其小サナル書面

ナ大キク廣ク取り通例ノ大サニナシ始テ手紙ノ如ク之ヲ讀ミ得ヘシ  
 右ノ郵便法ノ試験ヲ記セヌ者ヲ見ルニ八十英里ノ隔リアル局ヲ一時  
 二十分間ニテ達セシ鳩アリ又四百四十英里ノ局ニ九時間ニテ達セシ  
 モノアリ先ツ通例ハ一時間ニ七十英里我三十里許ノ遠方ニ達シ得ル  
 由ナリ曼國ニハ此仕組アルカ故ニ不幸ニシテ敵ノ爲ニ各地ノ電信ヲ  
 絶タレタリ共右ノ鳩郵便ニテ國內ノ要處々々ニハ互ニ音信ヲ通シ得  
 ルナリ若シ之ヲ日本ノ東京鎮台ト大坂鎮台トノ間ニ用フルトナサ  
 ハ電信不通ノ時ニ於テモ纜カニ五時間許ヲ以テ双方ノ情ヲ通スルヲ  
 得ヘキナリ其便モ亦大ナルニアラスヤ十餘年前巴里ノ圍ミノ時一  
 タヒ之ヲ利用セシ以來終ニ今日ノ如ク其用ノ大ナラントスルニ至レ  
 リ又タ鳩ノミニオラス曼國陸軍コトハ當時頻リニ伶俐ナル犬ヲ擇テ  
 之ヲ利用セント務メ居ル由ナリ其用法ハ之ヲ哨兵線ノ間ニ配置シ敵

兵ノ忍ヒ來ルヲ躬方ニ通知セシムルタメナリト云フ是等モ亦タ細事  
 ナモ利用シテ一日ノ用ニ供セント欲スルノ一例ナリ  
 又兵器ノ如キモ新發明ノモノ年々ニ出來ル有様ニテ今余ノ記憶セル  
 モノニテ余カ歐洲ニ滯在中ニ評判ナリシモノ二三ヲ掲ケンニ當時英  
 ノ海軍省ニテ試験中ナル水雷火彈ハ一種ノ新製ニテ今迄世ニ用ヒラ  
 ル、水雷火彈ハ自カラ進テ敵艦ニ突當ル様ニ拵ヘタル者ニテ彈ノ尻  
 ニ水ヲ捲ク螺旋アリテ此仕掛ニテ自カラ進ミ行クナリ然ルニ此度  
 ノ發明ハ船体ヨリ大砲ヲ水中ニ突出シ其中ニ右ノ雷火彈ヲ籠テ水中  
 ニテ之ヲ發射スルコトナリ然ルニ其彈カ水中ヲ進テ敵艦ノ船底ニ中  
 リ破裂シテ之ヲ破ルノ趣向ナリ而テ是ノ水雷火大砲ハ船首ノ水ニ入  
 ルコト一丈五尺前後ノ處ニ据ヘアリテ唯タ砲口ノミ少シク船体ヨリ外  
 ニ露ハレ居リ勿論水ヲ防ク爲ニ平常ハ「ゴム」ヲ栓ヲ用ヒテ砲口ヲ塞キ



アリ之ヲ發射スルキハ其儘雷火彈ト共ニ之ヲ打出ス由ナリ右ハ米人ノ發明ニテ是マテノ試験ニテハ甚タ宜シカリシ由ナルカ當時英ノ海軍ニテ之ヲ買上ツルト否ヤト決スルタメニ試験シ居ルナリ又評判ニテハ米國ニテ「ダイナマイト」ヲ破裂丸ニ用ルノ方法ヲ發明シタリトナリ右ノ藥ハ其破裂力甚タ大ナレ共其發火シ易キヲ實ニ容易スキカ故ニ是迄ハ之ヲ砲丸ニ籠テ發射スル工夫出來サリシナリ然ルニ若シ此度ノ方法評判ノ如ク成功アラハ砲丸ノ着發スル處ハ其鐵ナルト石ナルトヲ問ハス無二無三之ヲ破壊スルヲ得ヘク海軍ノ方ニテハ又之カタメニ大ナル兵器ノ變化ヲ生スルニ至ルヘシ又タ風船ノ如キモ佛國ニテハ一昨年略ホ柁ヲ取テ方向ヲ定ムルノ出來ル様ナル端緒ヲ開キタリ又露國ニテモ三百名以上ノ兵ヲ載スル大風船ヲ造ルニ從事セリト聞ケリ諸國共ニ各々怠リナク相競ヒ居ルノ狀ヲ知ルヘ

シ又タ海底ヲ潜リ行ク船ノ如キモ昨年末ニ於テ實用ニ堪ユヘキノ有様ヲ見ハシタリ遠カラスシテ是モ亦タ諸國ノ海軍ニ用ヒラルヘシ又一昨年ノ事ナリシカ英ノ陸軍ニ賣込ヲ申入レタル一種ノ毒瓦斯ヲ用ヒントスル兵器アリ其法ハ右ノ瓦斯ヲ押縮メテ彈丸ノ内ニ入レ發射シテ敵中ニ破裂セシムルキハ其近傍幾十間内外ノモノハ之カタメニ死スルヲナリト云フ右等ノ諸發明ノ内ニハ實用ニ堪ルモノモアラン或ハ實用ニ堪ヘサルモノモアランナレ共兎ニ角西洋今日ノ兵事ノ技術ノ進歩ノ速カニシテ懐マシキ有様ハ急流ヲ下ル舟ノ如クナルヲ見ルヘキノナリ是時ニ當リ唯タ他人ノ行過キタル足跡ヲ辿リ行クヲ以テ自ラ安スヘキモノナランヤ今此章ヲ終ルニ臨テ記シ置キタキ一事アリ日本ニテ通例ノ兵器兵事ハ之ヲ秘セスシテ廣ク國人ニ示スヘキノナリ如何ニモ歐洲諸國ニテ

モ兵器兵事ハ秘シテ示サ、ルノ事少ナキニ非ス勿論極メテ大切ノ事  
 ハ之ヲ秘セサルヲ得サル者アルヘシト雖モ若シ秘セスシテ可ナルモ  
 ノヲ秘スルニ至ルキハ其弊亦甚タ大ナリ何トナレハ外ニ在リテ全國  
 ノ人民カ兵器ノ利鈍其取扱ノ巧拙ヲ批判スレハコソ之ニ逼ラレテ其  
 局ニ當ル政府ノ人々モ一層ノ勵ミヲ増スヲナリ又當局ノ人々ノ内ニ  
 テモ事柄ニヨリテハ互ニ異論モアルヘキ者ニテ某ノ論行ハレテ某ノ  
 論廢セララル、ニ當リ其廢セラレタル論ハ國人ノ口ヲ假リテ之ヲ一方  
 ト比較スルヲ得ルノ便宜モアリ又國人カ兵備ノ眞ノ有様ヲ知ラサル  
 キハ皆ナ現世ノ有様ニテ十分ナルヲカト心得居リ大ナル油斷ヲ生シ  
 從テ一國ノ兵備ヲ怠ルノ緒トナルモノナリ又タ之ヲ國人ニ秘スルハ  
 本ト他國人ニ知ラシメサル爲メナレ共露國ニアレ英國ニアレ諸國與  
 ニ苟モ日本ノ兵備ヲ詳知セント欲スルモノハ其公使館附ニモ一二名

ノ武官有テ常ニ注視シ居レリ又如何ニ其姿ヲ變シテナリ共日本ノ兵  
 備ヲ探リ得ルヲハ容易ナルヘキナリ是等ノ人々ハ其職トシテ日夜之  
 ヲ探ルヲ専務トナスヲナレハ是等ノ人ニハ却テ何事ニモ分明ニ探リ  
 得ラレ之ヲ知ラヌハ只タ肝腎ノ國內ノ人民ノミト云フ有様ニモ至ル  
 ヘシ果シテ然ラハ之ヲ秘スルトモ何ノ効能力アルヘキヤ善ク此理ヲ  
 考ヘナハ大抵兵事ハ務メテ其模様ヲ國人ニ示シ外國ト比較シテ懼ル  
 、所ヲ知ラシムルヲ最モ肝要ナリ

第三章 外交政略及ヒ列國形勢ノ事

獨リ兵備ノミチ盛ニスレハトテ一國ノ獨立ヲ保チ得可キ者ニアラス  
一方ニテハ兵備ヲ嚴ニシタルカ上ニ一方ニテハ外交政略ヲ巧ニシ他  
國ヲ操ズツリテ我國ノ助ケヲナサシムル様ニナリテコソ始メテ安全ナ  
ルヲ得ルコトナリ東洋ノ諸國ノ事ハ扱置キ先ツ世界ノ中原ナル歐洲  
ノ有様ヲ考ヘナハ恰モ諸國突張合ヒノ姿ヲ以テ今日ノ平和ヲ保チ居  
ルヲ譬ヘハ猶ホ平和ト云ヘル大柱キ真中ニ立テ其前後ヨリモ又左右  
ヨリモ之ヲ押シ倒サントスレバ其ノ力ハ皆幾ント相ヒ均シキカ故ニ  
前ニモ後ニモ右ニモ左ニモ傾倒スルヲノ成ラサルカ如シ若シ後ヨリ  
押倒サントスルノ力強シト見ルトキハ忽チ前ニ加リテ其ノ弱ミヲ助

ケ倒レントスル柱ヲ支テ反テ之ヲ後ニ倒サントスル者ヲ生シ右ニ加  
 リ左ニ加リ互ニ突張合テ平和ノ柱ヲ傾カシメサルヲナリ當時歐洲ニ  
 テ屈指ノ強國ト稱セラレ、國々ハ其數五六ニシテ佛ト云ヒ曼ト云ヒ  
 露英ト云ヒ壤伊ト云ヒ或ハ陸軍ニ強キアリ或ハ海軍ニ強キアレ其  
 ノ國力ハ幾ント相似タル者ニテ一國ト一國トナ對スレハ聊カ強弱ノ  
 差ハアリト雖モ若シ一國ト二國トナ對シナハ忽チ茲ニ強弱ノ差ヲ生  
 シ二國ノ合体セシハ甚タ強ク孤立セル方ノ一國ハ甚タ危ク變ス左レ  
 ハ先ツ一國ト一國ニテハ強弱ノ多少アルモ其弱キ方二國相合スルモ  
 ハ其連衡ノ力ハ前ノ強キ一國ニ勝サルヲ數倍ナルノ姿ナリ左ニ記ス  
 ル諸國ノ人口兵備ノ表ヲ見テモ零ホ之ヲ察スルニ足ル可シ

明治十八年ノ最近統計

國名 人口 常備軍 甲鐵艦

佛	三七〇〇〇、〇〇〇人	五一〇、〇〇〇人	四九隻
英	三六〇〇〇、〇〇〇人	二〇〇、〇〇〇人	七三隻
曼	四五〇〇〇、〇〇〇人	四四〇、〇〇〇人	一三隻
壤	三七〇〇〇、〇〇〇人	二九〇、〇〇〇人	一二隻
伊	二八〇〇〇、〇〇〇人	七五〇、〇〇〇人	一九隻
露	八六〇〇〇、〇〇〇人	九七〇、〇〇〇人	三八隻

右ノ如ク人口ト云ヒ兵數ト云ヒ零ホ相似タル者ニテ陸軍ニ弱ケレハ  
 海軍ニ強ク先ツ諸國共ニ一ヲ以テ一ニ對スレハ甚シキ懸隔ナシ然レ  
 モ若シ二國ノ力ヲ合シテ一國ニ臨ム時ハ其ノ一國ハ甚タ危キカ故ニ  
 勝ツモ負クルモ其分ケ目唯々外交ノ巧拙ニ因リテ敵ニ弱方ヲ與フル  
 カ我ニ弱方ヲ得ルカノ一事ヨリ生スル者ナリ又敵ニ勝ツカ爲メニ他  
 國ノ助ケヲ得ルコトニ付外交政畧ノ必要ナルノミニアラヌシテ我ト

敵ト互ニ一國ノミノ力ヲ以テ勝負ヲ決セントスルニモ他國ヲシテ双方ニ加勢セシメス中立シテ之ヲ傍觀スル様ナサシムルカ爲メニモ亦外交政畧ノ力ヲ要スルヲナリ然レハ如何ニ兵備ヲ嚴ニスルトモ其ノ國力ニ限リアリテ獨リ諸國ニ絶出スルヲ能ハストシ一國ヲ以テ二國ニ當レハ之ニ破ラレ二國ヲ以テ一國ニ當レハ之ニ勝ヲ得可シトセハ外交政畧ノ大切ナルヲハ實ニ兵備ニモ劣ラサルナリ

三十年前ニ露國カ土國ヲ侵シテ其ノ版圖ヲ東南ニ擴メ以テ其國力ヲ増加セント謀ルヲ見ルヤ英佛二國ハ土國ヲ助ケテ兵ヲ黑海ニ出タシ有名ナルクライミアノ戰ヲ爲スニ至レリ陸軍ニハ兼テ名ヲ得タル露國モ流石ニ英佛土三國ノ力ニハ敵シ難クセバストポールヲ陷イレラレタルノ後遂ニ和ヲ請テ其人黑海ノ艦隊ヲ減少スル等ノ條約ヲ奉スルニ至レリ又十四五年前ニ露國カ土國ヲ侵シ席卷シテ南土京ヲ畧セ

ント欲シ其ノ勢止ム可カラサルニ當リ英ノ二國ハ幾ント兵ヲ出シテ土國ヲ助クルニ決シタリシカハ遂ニ其ノ結局ハ有名ナル伯林會議トナリテ露國モ兵ヲ引キ上ルニ至リシナリ是等ハ則チ皆チ一國ト二三個國ト對スルキハ其ノ強弱ノ勢ノ差甚タ大ナルヲ知ルニ足ル可キ者ニテ是ノ合從連衡ヲ左右スル者ハ則チ皆チ外交政畧ノ力ナリ若シ十五年前ノ曼佛ノ戰爭ニ英ニアレ壞ニアレ佛國ヲ助ケシナランニハ曼ハ一國ノ力ヲ以テ之ニ敵スル能ハス必ス敗亡セシナル可シ又三十年前壞曼ノ戰爭ニ佛國カ壞ニ左袒シタランニハ曼ハ必ス破レシナル可シ故ニ是ノ時ニ於テ曼ハ力ヲ外交政畧ニ盡シ暗ニ佛國ニ媚ヒテ壞ヲ助ケシメサル様ニ盡力シ遂ニ一國ト一國トノ戰爭ニ因テ壞ニ勝ツヲ得タリシナリ故ニ當時ノ佛帝那翁三世ハ是ノ中立ノ恩ヲ曼ニ與ヘタルノ報酬ヲ曼ヨリ厚ク得ント欲シ壞曼ノ和約ヲ爲スニ當テ暗ニ

曼ヨリ得ル所アラント欲セシニ曼ハ之ヲ拒ミタリ佛曼ノ後年ノ不和  
 ハ抑モ是ノ時ヨリ萌シタル者ニテ遂ニ有名ナル十五年前ノ大戦争ト  
 爲ルニ至レリ外交政策ノ駈引ハ其ノ巧ミナルヲ要スル斯ノ如ク其  
 ノ關係ノ恐ル可キヲモ亦タ斯ノ如シ又曼佛ノ方ニ戦ヲ開カントスル  
 ニ當リ曼國ノ勉ムル所ハ唯諸國ヲシテ佛ヲ助ケシメス一國ト一國ニ  
 テ人雜モセズ戦ヲ決セント欲スルニ在リシナリ故ニ曼國ハ先ツ諸國  
 ヲシテ佛國ヲ怨望スルノ心ヲ抱カシメ其交誼ヲ離間シテ以テ佛國ヲ  
 孤立セシメント欲シ其ノ嘗テ佛帝ト密約ヲ爲サントシタルヲ付佛  
 帝ヨリ曼國ニ寄セタル外交ノ密書ヲ英國ノ新聞杯ニ送リテ之ヲ世人  
 ニ公ケニシタリ勿論密書ノヲナレハ其書中ニハ某ノ國ヲ斯ク爲サン  
 某ノ國ヲ斯ク割カン杯ノ詭秘ノ意味ヲ含ミ居リシカハ諸國ハ大ニ佛  
 國ノ禍心ヲ恐レテ之ヲ怨望スルノ意ヲ生シ皆テ手ヲ引テ中立ノ政策

ヲ取リシナリ又或ル説ニ因レハ二十年前曼露ノ間ニハ密約アリテ若  
 シ曼ニシテ佛ト事ヲ生スルヲアラハ露ハ決シ佛ヲ助ケテ曼ノ後ヲ擔  
 クカ如キヲ爲サズ反テ暗ニ曼ヲ助ク可シ又其ノ報酬トシテ露カ土  
 ヲ侵スヲアルノ日ニハ曼ハ之ヲ妨ケスシテ暗ニ露ニ利ヲ得セシム可  
 シトノ約束ヲナシ居タリトモ云ヘリ實ニ左モアル可カリシト思ハル  
 何トナレハ佛ヲシテ曼ニ事アラシメハ其際好シ露カ兵ヲ土ノ疆場ニ  
 出シタリトモ佛ハ先年ノ如ク英ト共ニ露ノ南侵ヲ支ヘルニ迫アラサ  
 ルハ勿論英一國ノミナレハ又容易ニ土ヲ助クルヲハ爲ササル可ク  
 佛曼事アルノ曉ハ正ニ露カ乘シテ以テ其ノ志ヲ南ニ逞フスルヲ得  
 可キノ秋ナリ故ニ一朝佛曼事アルノ曉ニハ曼露交々各自ノ利ヲ圖ル  
 ヘシトテ或ハ豫メ斯ル密約ヲ結ヒ居タルヘキモ誠ラシ氣ナルヲナリ  
 又目下佛人曼ニ對シテ先敗ノ國辱ヲ雪カント欲スルノ志甚タ切ナル

未タ容易ニ動カサル所以ノ者ハ其ノ國內ニ王黨再燃ノ恐アルニ由  
 ルトハ云ヒ乍ラ一ハ其ノ敵國タル曼カ暗ニ深ク埃露ノ兩國ニ結ヒ居  
 ルカ故ナリ若シ一旦事アルニ臨テ右ノ中ノ一國ニテモ曼ヲ助ケナハ  
 佛人ハ其志ヲ伸フルヲ得サル可シ曼モ之ヲ知ルカ故ニ力ヲ盡シテ  
 常ニ露埃ニ結ヒ居ルヲナリ  
 又舊來ヨリノ強國ハ扱置キ新ニ其國ヲ興ス者ハ外交政畧ヲ用フルヲ  
 最モ大切ナルヲナリ僅カ三十年内外ニシテ早ク強國ノ中ニ列シタル  
 伊國ノ如キハ則チ其ノ一例ニテ同國ノ帝室カサルギニ一ノ小島ノ王國  
 ヨリ起テ遂ニ三四ノ王國ヲ併セ北ノ方埃國ノ兵ヲ退ケテ今日ノ一大  
 帝國ヲ成セル迄ノ働キハ半ハ外交政畧ノ力ニ因ルモノナリ勿論伊國  
 ニ在リシ三四ノ諸王國ハ人民ヲ壓制シテ之ヲ困シメ人民ハ之ヲ厭苦  
 シテ其ノ自由ヲ得ント争フノ際サルギニ一ノ王國ノミハ獨リ人民ニ

自由ノ權ヲ與ヘテ其ノ政寛大ニ君民和合恰モ一家ノ如クナルヲ見他  
 ノ諸王國ノ人民カ之ヲ羨ミサルギニ一王ヲ迎ヘント望ムノ機ニ投シ  
 兵ヲ用ヒタルヲナレハ他ノ王國ノ人民ハ簞食壺漿シテ之ヲ迎ヘタリ  
 左レハ伊國ノ帝業ハ其ノ成ルヲ助ケタル是ノ大ナル原因アルヲナレ  
 此亦タ一方ニ外交政畧ノ助ケナクハ斯ク僅々ノ年月ヲ以テ斯ク強  
 盛ノ國ヲ成スヲハ甚タ出來難カリシナル可シ今其ノ外交政畧ノ必要  
 ナリシ大畧ヲ記サンニ伊國ノ帝室其ノ初メ尙ホサルギニ一王國トシ  
 テ伊國本部ノ諸國ト争ヒ居ル極テ微々タル頃ニ會マクライミヤノ大  
 役起リテ露國ノ南侵ヲ支ヘンカタメ英佛ノ同盟軍土國ヲ助ケ戰フノ  
 事アリ是ノ時ニサルギニ一王ハ英佛ト同盟ノ意ヲ表シ直ニ兵ヲクテ  
 イミヤニ出タシタリ勿論小國ノヲナレハ其ノ兵數モ僅カニ一大隊カ  
 二大隊ニテ五六千ノ兵ニ超ヘサルヲナリシ然レモ其ノ同盟ノ舉動ハ

大ニ英佛二強國ノ歡心ヲ得テ兩國ノ人民ニ甚タ評判善ク大ニ兩國人民ノタメニ愛セラルハニ至レリ而テ其後サルヤニ一王カ伊國ノ北部ヲ蠶食シテ遂ニ埃國ト兵ヲ交ユルニ當リ王ハ先年英佛二強國ノタメニ加勢ヲ出シタル緣ヲ以テ二國ヲ援ヒテ暗ニ己レヲ助ケシメ埃國ニ對シテ一國ト一國トノ力ヲ以テ勝敗ヲ定ムルノ都合トナシ且ツ右二強國ノ力ニ因テ他國カ埃國ヲ助クルコト防キ得ルノ便宜ヲサヘ収メ遂ニ埃國ニ勝チ以テ今日ノ如ク其ノ北境ヲ擴ムルヲ得タリシナリ斯クシテ數年ノ中ニ小島ヨリ起テ遂ニ伊國ヲ一統シタレト羅馬府ハ尙ホ法王ノ權内ニ在ルカ上舊來佛國ヨリ法王ヲ助クル爲メ兵ヲ屯シ居ル等ノ事宜ニテ羅馬府及ヒ其ノ近地ニ對シテハ尙ホ手ヲ延ヘ難キ不都合多カリシナリ然レト當時佛國ハ歐洲中原ノ霸權ヲ握リ其ノ勢赫々タレハ新興日猶ホ淺キ伊國杯ノ分際ニテハ之ニ向ヒテ何様セソ術モ

ナク唯々時節ノ至ルヲ俟テ居タリシナリ其内ニ佛曼ノ戰爭起リテ佛兵ノ羅馬府ヲ去ルノ慮出來シカハ伊帝ハ直チニ其慮ヲ擣キ兵力ヲ以テ法王ヲ逐ヒ遂ニ今日ノ如ク羅馬府及ヒ其ノ近地ヲ併畧シテ支配シ得ルニ至レリ抑々伊國ハ其ノ西ニ佛ノ如キ強國アリテ昔ヨリ其ノ干涉ヲ被リ又北ニ埃國ノ如キ強國アリテ其蠶食ヲ被リ加フルニ國內ハ三四ノ王國ニ分レテ割裂ノ有様ヲナシ強國ノ爲メニ乘セラルハノ隙ハ至極澤山ナル勢ナリシニ其ノ困難ナル間ニ立チテ右ニ潜リ左ニ避ケ常ニ強國ニ結テ以テ遂ニ今日ノ如キ一大強國ヲ成スニ至リシハ是レ容易ノ業ニアラサルヲ想フヘシ蓋シ其ノ重ナル原因ハ王室カ民心ヲ得テ愛戴セラレタルニ在リトハ雖ト同國ノ大祖タル先帝ト其ノ良相トカ前記セル如キ外交政畧ヲ用ヒタルニアラスンハ決シテ斯ル大功ヲ奏セシコトハ覺束ナカリシナラン新クニ興ラントスル邦國ノ爲メ



ニハ内ハ自由ヲ與ヘテ民心ヲ得外ハ強國ニ結テ外交政畧ヲ巧ミニス  
 ル伊國ノ如キハ誠ニ善キ手本ト云フ可キ者ニアラスヤ  
 獨リ新國ヲ興シ或ハ他國ト戰フニ當テノミ外交政畧ノ必要ナルニア  
 ラス些カノ領地ヲ海外ニ廣ムルニモ亦外交政畧ヲ用ヒテハナラヌ  
 今日ノ現況ナリ近來樽サ高キサモア島ノ如キハ日本ト米國ト濠洲ト  
 ノ間ニ在ル太平洋海中ノ極小ナル群島ニテ通常ノ地圖ニテハ之ヲ求ム  
 ルモ其ノ名ヲモ記サハル程ノ者ナリ然ルニ兩三個月前曼人カ之ヲ占  
 メシコハ歐洲ノ議論トナリシカ追々ニ世上ニ顯ハレ出タル事實ニ據  
 レハ是ノ島ニ付テ米國ト英國ト曼國トノ三政府ハ豫テ云々ノ約束  
 ナ成シ居タリトノナリ然レハ斯ル小島迄モ諸強國ノ間ニハ之ヲ獨  
 立セシムルトカ或ハ誰レカ之ヲ取ルトカノ約束ヲ爲シ居ルヲ知ルニ  
 足レリ又一時評判ノ高カリシカロライン島ノ如キモ英國ト曼國トノ

間ニハ夙トコ誰レカ之ヲ取ル可シトカノ内約アリテ英ハ曼ノ占取ス  
 ルヲ承諾シ居リタルコナリ是等ノ事實ヲ推テ考フレハ未ダ手ニ入  
 レ居ラサル土地サヘモ後來ノ事ニ付テ豫メ他國ト打合セ置クコアラ  
 サレハ手ヲ下シ難キノ有様ナルヲ知ル可シ又一昨年曼國カ亞米利  
 加ノアングラマケナチ占ムルニ付テモ佛國ノ助ケヲ借リテ英國ノ異  
 議ニ當テハ是ニテ列國ノ會議ニモ故障ヲ受クルコト免カレタルナリ  
 而シテ此佛ノ助ケヲ借ルカ爲メニハ其代リ曼ハ佛清ノ戰ニ支那ヲ助  
 ケヌシテ佛ヲ放テ勝手ニ其ノ力ヲ逞フセシムルコト許シ是ノ報酬ヲ  
 以テ佛ニ結ビアングラマケナノコトニ付テ英ニ抗スルコト得タリシナ  
 リ斯ル有様ナレハ苟クモ手ヲ下サント欲スルコトアレハ先ツ力ノ及フ  
 限リ豫メ諸強國ニ打合セ或ハ二國ノ助ケ借リテ一國ニ抗シ或ハ一國  
 ノ事アルニ乘シテ之ヲ助ケ其ノ報トシテ他日己レヲ助ケシムル等誠

ニ千變万化トモ云フ可キ働キナリ又靜ニ考ルキハ實ニ驚ク可キ一事  
 諸國ノ間ニ於テ未ダ己レノ有ニ歸セサル土地杯ニ關シ互ニ不和ヲ  
 生スルノ有様是ナリ五六年前ニ佛カ兵ヲチエトニスニ出タシ之ヲ零  
 セルニ付テ伊佛二國ノ間ニ大ナル不快ヲ生セシヨアリ其由縁ヲ尋レ  
 ハチユトニスハ其位置地中海ヲ隔テ、伊國ノ對岸ニ在リ最モ伊國ニ  
 近キ土地ナリ故ニ伊國ノ方ニテハ行クニハ必ス之ヲ併セントテ己  
 レノ手ニ入ラサル中ヨリ己ニ我カ物同様ニ思ヒ居タリシニ佛人カ先  
 キニ之ヲ取リシトテ斯ル不和ヲ生シタルナリ然レハ其土地ニ向ヒテ  
 ハ未ダ嘗テ一本ノ指ヲ動カシタルコモアラサル處ニテモ是ハ豫テ  
 行クニハ我物ニスル積リニ睨ラミ居ル土地ナレバトテ他國ニ向ヒ故  
 障ヲ云ヒ立テ又ハ紛議不和ヲ詩ク種子ト爲ルナリ是レ豈驚ク可キ  
 不慮ノ話ニ非スヤ、ヨモ實事ニハアル間敷ケレモ日本ヨリ得タル三

四個月前ノ新聞中ニ某々ノ者共カ仲間ヲ組ミ航海ノ用意ヲ整ヘ太平  
 洋中ノ島々ヲ巡航シテ其ノ持主ヲ見出ク行クニハ之ヲ日  
 本ニ屬セシメントノ企アリ杯ト云ヘリ定メテ虛傳ノコナラシガ今假  
 リニ斯ル企ヲ爲ス者アリトセハ其ノ事業ヲ企ツルノ精神ハ愛ス可ク  
 斯ルコソアリ度キコト乍ラ今日ノ日本ノ國勢ニテハ甚ダ危險ノ所行ニ  
 テ或ハ危險ナラストスルモ又徒勞ノ仕事タルヲ免レサル可シ何トナ  
 レハ前記セル如ク些カノ島切レニテモ手ヲ下サント欲スル時ニハ先  
 ツ其ノ近邊ニ屬地ヲ領スル諸強國ニ打合セテ同意ヲ得ル後ニアラサ  
 レハ之ヲ取ルコト出來ヌカ一般ノ現況ナレハ豫メ外交政畧ノ働キナ  
 クシテ迂ツカリト土地ヲ占ムルトモ必ス近隣諸強國ヨリ故障ヲ云ヒ  
 立テラレ元來是土地ハ何年以前ニ我國ノ何船カ來リ泊シテ一番ニ國  
 旗ヲ樹テタルコトアレハ杯ト何歎クメラヌ往事ヲ証據ニシテ極メツダ

ヲレ據ナク唯々指ヲ啣ヘテ引キ込ムニ終ル可シ是レ豈ニ徒勞ノ仕事  
 ニアラヌヤ又斯ル事件ニ付我意ヲ通ホシ深ク結ヒ置ヘキ強國ノ心ヲ  
 モ失フ程ニ我權利ヲ云ヒ立テナハ必ス他日ノ不利ヲ招ク基トナル可  
 シ是レ豈危險ノ仕事ニアラスヤ前記ノ噂ハヨモ實事ニハアラサル可  
 ケレモ序ナレハ斯ク想像ヲ畫キテ斯ル事ニモ外交政畧ノ要用ナル譯  
 ナ説クソミ  
 今一層適切ニ外交政畧ノ大事ナルコトヲ知ラント欲セハ更ニ下ノ如キ  
 想像ヲ畫ク可シ今日日本海軍ノ兵備ハ十分ニシテ太平洋及ヒ日本支那  
 海ノ全權ヲ握リ居ルトシ斯ク不足ナキ兵備ヲ以テ支那ト開戦スルノ  
 場合ニ立テ至リシトス可シ然ルモハ地圖ヲ見テ東南一帶ノ支那ノ海  
 岸幾千里ノ間ニハ何レノ處ニモ我兵ヲ進メテ之ヲ攻ルコト容易ナリト  
 思フ者ナキニモアラサル可シ然レモ決シテ左様ニハ行カヌ世ノ中ナ

リ支那ハ西洋諸國ノ貿易ヲ爲ス大ナル得意先キナレハ英佛ヲ始メ曼  
 ノ如キモ必ス日本ニ向テ其ノ貿易ヲ妨ケ與レサル様ニ云ヒ立テ上海  
 香港廣東ハ勿論重ナル諸港ヲハ皆之ヲ中立港ト爲サントテ所望ス可  
 シ之ヲ中立港ト爲セハ平穩ニ貿易ヲ許スコト日本ハ其ノ地ニテハ  
 最早ヤ戰ヲ爲スコトヲ禁セラレタル者ナリ若シ支那ヲ得意先トスル英  
 佛ノ如キ西洋ノ強國カ連名ニテ右ノ請求ヲ爲スナラハ我ハ其意ニ  
 戻ルコトモナシ難シ因テ其意ニ從フトシ扱其ノ中立港ト爲スノ場所多  
 キモニハ支那ノ海岸ハ縱ヒ幾千里ノ長サアルモ我兵ヲ用ヒテ攻ム可  
 キ所ハ誠ニ僅カ許リノ場所々々ニ限ラル可シ然ラシニハ敵ハ唯其力  
 ナ右ノ場所丈ケニ專ニシテ我兵ヲ防ク故ニ大ナル便ヲ得ルコトナルヘ  
 シ若シ又是ニ反シテ中立港少ケレバ我ニハ何レノ處ニモ攻メ入ル可  
 キ大ナル便利アリ左レハ日本ニテモ支那ニテモ平日深ク諸外國ト相

結ヒタルカ是ノ助ケヲ得ルヲ出來ヘク其外交政畧ノ働キノ巧ミナルト否トニ因リ差シ向キ爰ニ右ノ如キ莫大ナル便不便ヲ生スルヲナリ抑モ佛ハ歐洲一二ノ強國ナリシニ一昨年支那トノ戰爭ニ英國等ノ意ニ戻ルヲ能ハスシテ餘義ナク二三ノ地ヲ中立港ト爲スニ至レリ佛國スラ尙ホ斯ノ如シ況ヤ日本ニ於テオヤ又中立港ノ論ハ定リタリトシ我軍艦ニテ敵ノ各港ヲ封鎖シ兵器彈藥ノ輸入ヲ禁シテ敵ヲ窘シメントスルニ當リ西洋ノ山師共カ右ノ禁ヲ破ルヲ取リ押ルニハ我ハ嚴重ニ海上ノ取締ヲ爲サテハナラヌヲナリ然ルニ右ノ山師共ヲ取押ル度ヒ毎ニ外國ノ喧シキ談判ヲ受ケ日本ノ軍艦ハ甚々不法ノ舉動多シト答メラレナハ其ウルサキヲ實ニ甚シカル可シ又畜ニウルサキノミニアラズ右ノ山師等ノ爲ニ隨意ニ兵器彈藥ヲ敵國ニ輸入サレナハ是レ實ニ莫大ナル不利ニテ是カ爲ニ戰爭モ長延クヘシ然レハ封港ノ時ニ

外國船舶取調ノ權利ヲ全フスルヲニ付テハ暗ニ諸外國ノ助ケヲ得ルト得サルトハ大ナル關係アルコナリ昨年佛清ノ戰ニモ佛ノ海軍カ外國ノ商船ヲ取扱フコ不法ナリトテ英政府ヨリハ佛ニ掛合ニ及ヒシコモアリ佛國ノ強大ヲ以テスラ尙ホ是ノ面倒アルコチ免レス然レハ日本ノ如キハ尙更ラ是ノ憂アル可シ而テ是ノ面倒ヲ免ル、ト免レサルトハ一ニ平日ヨリ深ク心ヲ外交政畧ニ盡スト盡サ、ルトニ在ル者ナリ又外交政畧ノ力ヲ以テ其ノ關係ノ貿易國ヲ我ニ結ヒ中立港及ヒ封港ノ三事共暗ニ我ニ便ナル様ニ仕向ケシムル丈ノ骨ヲ我手ニ握リ居テハ万一不幸ニシテ勝敗地ヲ易ヘ我海軍破レテ支那兵ノタメ逆寄ニ我國ニ臨マ、ル、コアリトモ我ハ又々右ノ骨ヲ防守ノ上ニ轉用シテ以テ大ナル便利ヲ受クルコ出來ヘキナリ又少シク是ヨリ大切ナル箇條ヲ考レハ若シ日支相戰テ互ニ其ノ國力